

# 史跡斎宮跡

平成21年度発掘調査概報

2011年3月

斎宮歴史博物館





第163次調査出土 緑釉陶器枕



第163次調査 遺物出土状況（南から）



## 序

平成22年度は、前年度策定された『史跡斎宮跡東部整備計画書』に基づき、柳原区画を中心とした史跡整備が本格的に動き出した年となりました。昭和54年の国史跡指定以来、継続的に進められてきた発掘調査の成果を受け、様々な整備が行われてきましたが、今回の整備では、平成27年度の完成に向け、建物立体復元を行い、史跡の価値と魅力向上させるとともに「斎宮らしさ」を体感できる空間づくりを目指します。そして、地域住民の皆さんと密接に協働し、また、史跡への愛着を深めていただきたいと思います。

平成21年度の調査は、柳原区画を中心として、平成19年度から進めてきた平安時代斎宮跡の中核部実態解明の調査を実施しました。区画南東部では建物配置や変遷を確認し、隣接する牛葉東区画では、平安時代後期の溝に大量の土器が廃棄されている状況が確認されました。これらの成果は、今後の史跡整備に反映されていくものであります。

最後に、史跡斎宮跡の保存および調査研究・整備活用に貴重なご意見やご指導を頂きました文化庁、斎宮跡調査研究指導委員の方々、並びに発掘調査にあたり様々なご配慮・ご協力を頂きました地元明和町および国史跡斎宮跡協議会の皆様に厚くお礼申し上げます。

2011(平成23)年3月

斎宮歴史博物館

館長 小田秀雄

## 例　　言

- 1 本書は斎宮歴史博物館が平成21年度に国庫補助金をうけて実施した史跡斎宮跡発掘調査(第159・163・164・165・166次調査)の概要をまとめたものである。
- 2 明和町が国庫補助金の交付を受け、調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査(第162次調査)の調査報告書は、別途明和町が刊行している。
- 3 遺構の実測にあたっては、日本測地系による国土調査法(旧国土座標)の第VI座標系を基準とし、方位は旧国土座標による座標北で示している。
- 4 遺構時期区分の指標となる土器の分類と時期認定については、「斎宮跡の土器」(『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館 2001年)による。
- 5 遺構表示記号は次のとおりである。

S A: 柱列 S B: 掘立柱建物 S D: 溝 S E: 井戸 S F: 道路 S H: 壺穴住居跡  
S K: 土坑 S X: 土壙墓・墓・埋納遺構 S Z: 落ち込み・その他 pit: 柱穴

- 6 遺物実測図は、実物の4分の1である。遺物写真は、縮尺不同である。
- 7 出土遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行『新版標準土色帖』(2004年版)による。
- 8 遺物の漢字表記については、材質の差による漢字の偏にかならずしも従うことなく、「わん」は「椀」、「つき」は「杯」を用いている。ただし、参考文献などからの引用の場合はこの限りではない。
- 9 本書の執筆は、倉田直純・大川勝宏・角正芳浩・山本達也が分担してあたり、文末に記した。編集は調査研究課で行った。また、発掘調査および資料整理については、新名強・西村秋子・杉原泰子・八木光代・水木夏美・大橋由紀・山本達也が補佐した。
- 10 第159次調査で出土した金属製品の分析・保存処理の実施にあたっては(財)元興寺文化財研究所に委託した。その内容については、次年度報告予定である。
- 11 本書を作成するにあたり、下記の方々にご教示いただいた。(敬称略)  
弓場紀知　翼淳一郎

# 目 次

I	前 言	1
II	第159次調査	7
III	第163次調査	35
IV	第164次調査	49
V	第165次調査	53
VI	第166次調査	67

# 挿 図 目 次

第I-1図	史跡斎宮跡位置図	3
第I-2図	平成21年度発掘調査区位置図	4
第I-3図	斎宮跡方格地割区画名称図	5
第I-4図	史跡斎宮跡における大地区表示図	6
第II-1図	第159次調査 大地区・グリッド図	7
第II-2図	第159・163・164・165・166次調査調査区位置図	8
第II-3図	第159次調査 道構平面図	9・10
第II-4図	第159次調査 土層断面図	11
第II-5図	第159次調査 SB 10087遺物出土状況図	13
第II-6図	第159次調査 出土遺物実測図①	20
第II-7図	第159次調査 出土遺物実測図②	21
第II-8図	第159次調査 S9P2出土遺物実測図	22
第III-1図	第163次調査 大地区・グリッド図	35
第III-2図	第163次調査 道構平面図・土層断面図	36
第III-3図	第163次調査 出土遺物実測図①	38

第III-4図	第163次調査 出土遺物実測図②	39
第III-5図	第163次調査 出土遺物実測図③	40
第IV-1図	第164次調査 大地区・グリッド図	49
第IV-2図	第164次調査 道構平面図・土層断面図	50
第IV-3図	第164次調査 SD 2844土層図	51
第IV-4図	第164次調査 出土遺物実測図	51
第V-1図	第165次調査 大地区・グリッド図	54
第V-2図	第165・1次調査 道構平面図	55
第V-3図	第165・1次調査 出土遺物実測図	60
第V-4図	第165・2次調査 調査区位置図	63
第VI-1図	第166次調査 大地区・グリッド図	67
第VI-2図	第166次調査 道構平面図	68
第VI-3図	第166次調査 土層断面図①	69
第VI-4図	第166次調査 土層断面図②	70
第VI-5図	第166次調査 出土遺物実測図	71

# 表 目 次

第I-1表	平成21年度 発掘調査一覧表	2
第II-1表	第159次調査 捏立柱建物一覧①	16
第II-2表	第159次調査 捏立柱建物一覧②	17
第II-3表	第159次調査 道構一覧	17
第II-4表	第159次調査 道構一覧	23
第II-5表	第159次調査 道構一覧	24
第II-6表	第159次調査 道構一覧	25
第II-7表	第159次調査 道構一覧	26
第III-1表	第163次調査 道構一覧	36
第III-2表	第163次調査 出土遺物観察表①	41
第III-3表	第163次調査 出土遺物観察表②	42

第III-4表	第163次調査 出土遺物観察表③	43
第III-5表	第163次調査 出土遺物観察表④	44
第III-6表	第163次調査 出土遺物観察表⑤	45
第IV-1表	第164次調査 道構一覧	51
第IV-2表	第164次調査 出土遺物観察表	51
第V-1表	第165・1次調査 捏立柱建物一覧	58
第V-2表	第165・1次調査 道構一覧	59
第V-3表	第165・1次調査 出土遺物観察表①	61
第V-4表	第165・1次調査 出土遺物観察表②	62
第VI-1表	第166次調査 道構一覧	71
第VI-2表	第166次調査 出土遺物観察表	71

# 写 真 図 版 目 次

## 卷頭

第163次調査出土 緑釉陶器枕

第163次調査 遺物出土状況(南から)

II-1 第159次調査 遺構(1) ······ 27

調査区北半(北から)

調査区南半(北から)

II-2 第159次調査 遺構(2) ······ 28

区画道路(南から)

区画道路(南から)

II-3 第159次調査 遺構(3) ······ 29

掘立柱建物群(南から)

S B 10060・10061(東から)

II-4 第159次調査 遺構(4) ······ 30

S K 10108(東から)

S K 10109・10119・10111(南から)

II-5 第159次調査 遺構(5) ······ 31

古代勢通南側溝 S D 10002(西から)

SBpit40 遺物出土状況(東から)

II-6 第159次調査 遺構(6) ······ 32

SBpit2 遺物出土状況(東から)

S B 10087 遺物出土状況(東から)

II-7 第159次調査 遺物(1) ······ 33

II-8 第159次調査 遺物(2) ······ 34

III-1 第163次調査 遺構 ······ 46

調査区全景(西から)

調査区全景(南から)

III-2 第163次調査 遺物(1) ······ 47

III-3 第163次調査 遺物(2) ······ 48

IV-1 第164次調査 遺構 ······ 52

調査区全景(南から)

区画道路南側溝 S D 2844(東から)

V-1 第165・1次調査 遺構 ······ 65

調査区全景(西から)

調査区全景(東から)

V-2 第165・2次調査 遺構 第165・1次調査 遺物 ··· 66

調査区全景(南から)

VI-1 第166次調査 遺構(1) ······ 72

①トレンチ全景(南から)

②トレンチ全景(南から)

VI-2 第166次調査 遺構(2) ······ 73

③トレンチ全景(南から)

④トレンチ全景(北から)

VI-3 第166次調査 遺構(3) ······ 74

⑤トレンチ東半(東から)

⑥トレンチ西半(西から)

VI-4 第166次調査 遺構(4) ······ 75

区画道路南側溝 S D 10141(北西から)

区画道路南側溝 S D 10141(北西から)

# I 前 言

## 1 調査の経緯と概要

史跡斎宮跡は、後に斎宮歴史博物館が建設された古里地区での宅地開発計画に伴い昭和45年に発掘調査が始まり、文化庁の補助事業として昭和48年から開始した範囲確認調査を経て、昭和54年3月27日に国史跡に指定された。県は史跡指定に伴い斎宮跡調査事務所を設置して発掘調査にあたり、平成元年度からは10月に開館した斎宮歴史博物館が史跡解明のための計画調査を継続して実施している。

斎宮跡の発掘調査は、これまでの調査成果の蓄積から、史跡東部に存在した平安時代の斎宮跡解明を中心となって進められてきたが、史跡西部に所在すると思定されてきた飛鳥・奈良時代の初期斎宮跡の実態解明も重要な課題であったため、平成14年度から18年度にかけてトレンチによる範囲確認調査を古里南部地区で重点的に実施し、ほぼその中枢部を特定するに至った。今後その面的な解明が待たれるところである。

一方、史跡整備については平成15年度以降中断しており、地元からも史跡東部の整備を望む声が高まってきたことから、平成18年度に史跡整備の在り方検討会を開催し、柳原区画を中心とした史跡東部における整備の方向が示された。これに基づき、平成19年度からは、史跡整備の根拠となる当該区画の性格を解明するための学術調査を重点的に進めている。

### 発掘調査

本年度は、平成19年度から3ヵ年計画で進めてきた柳原区画実態解明調査の最終年度にあたる。

柳原区画では、これまでに第8-10次調査（範囲確認トレンチ調査）、第10次調査（広域圏道路）、第20次調査、第28次調査、第143次調査のほか、平成19年度に第152次・153次調査を、平成20年度に第157次・159次（北地区）を実施し、調査可能箇所の約85%の調査が完了している。その結果、奈良

古道や区画道路のほか、区画の中央部から南部にかけて庇をもつ大型の掘立柱建物が複数棟確認され、特に四面庇付建物、三面庇付建物、東面庇付建物の3棟は、中央に広場を設けるように計画的に配置されていることから、寮庭の儀礼的空间と考える説が有力となってきた。今回は、区画南東部の遺構状況を確認するため、第159次調査（南地区）を行うとともに、北接する下園東地区の一段低い田畠部分で遺構の残存状況を確認するための第166次調査や東西方向と南北方向の区画道路が交差する箇所で第164次調査を実施した。また、補足調査として第165-1次・2次調査と牛葉東地区で区画外周を巡る平安後期以降の区画溝を確認する第163次調査を実施した。調査面積は合わせて1,093m<sup>2</sup>である。

### 整備

史跡東部の整備に向けて、調査研究指導委員会の課題別部会として設置した学識経験者・地元住民等8名の委員からなる斎宮跡整備・活用検討会において、柳原区画を中心とする基本的な整備・活用計画案について検討を行い、平成22年3月に『史跡斎宮跡整備基本計画書』をまとめた。

### 発掘調査現場の公開・活用

発掘調査現場もサイトミュージアムの一つであるとの考え方のもと、平成19年度から積極的な公開、情報発信に努めている。本年度も、見学者への随時説明ほか、現地説明会、夏休み子ども体験発掘教室、学校団体の遠足等での体験発掘、大人向け発掘体験講座など、さまざまな取り組みを行い、893の方に直接、遺跡に触れていただいた。

## 2 調査体制

史跡斎宮跡の調査・整備に関する業務は、斎宮歴史博物館調査研究課が担当した。当報告に関わる組織は以下の体制で行った。

### 平成21年度

倉田直純（専門監兼課長）

大川勝宏（主幹）

新名 強(技師)  
角正芳浩(技師)  
山本達也(臨時業務補助職員)

平成22年度

倉田直純(専門監兼課長)  
大川勝宏(主幹)  
新名 強(技師)  
角正芳浩(技師)  
山本達也(臨時業務補助職員)

### 3 調査研究指導委員会

斎宮跡の調査・整備について指導・助言を得るために、平成21年6月29日、平成22年1月22日の2回、委員会を開催し、柳原区画及びその周辺区画の遺構変遷とその性格や、整備基本計画(案)等について指導・助言を得た。また主要建物復元検討案については、概略設計を依頼した黒田龍二氏(神戸大学大学院工学研究科准教授)から報告いただいた。

上村喜久子(元名古屋短期大学教授)  
浅野 聰(三重大学大学院准教授)  
佐々木恵介(聖心女子大学教授)  
鈴木嘉吉(奈良国立文化財研究所長)  
所 京子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)  
八賀 晋(三重大学名誉教授)  
町田 章(前奈良文化財研究所長)  
渡辺 寛(皇學館大学教授)

金田章裕(人間文化研究機構機構長)  
増渕 徹(京都橘大学教授)

### 4 斎宮跡整備・活用検討会

史跡東部の整備・活用に關し、平成21年5月18日、平成21年7月24日、平成21年12月25日の3回、検討会を開催し、史跡の整備・活用・管理に関する全国の主要な先行事例を検証するとともに、柳原区画の歴史的位置付け、史跡東部整備基本計画(案)、整備と併行するまちづくり等についてご意見や助言を得て、『史跡斎宮跡東部整備基本計画書』をまとめた。その基本方針は、①史跡斎宮跡の特性を活かした新たな付加価値の創造、②だれもが集い・学び・憩いの場として利用できる史跡公園づくり、③斎宮を核としたまちづくりとの連携である。

検討委員の方々は下記のとおりである。(順不同・敬称略)

増渕 徹(京都橘大学教授)  
浅野 聰(三重大学大学院准教授)  
平澤 紲(奈良文化財研究所遺跡整備研究室長)  
島田敏男(奈良文化財研究所建造物研究室長)  
千種清美(フリーライター)  
西村和浩(第三銀行経済研究所所長)  
辻 孝雄(国史跡斎宮跡協議会会长)  
作野かをる(国史跡斎宮跡保存協会副理事長)

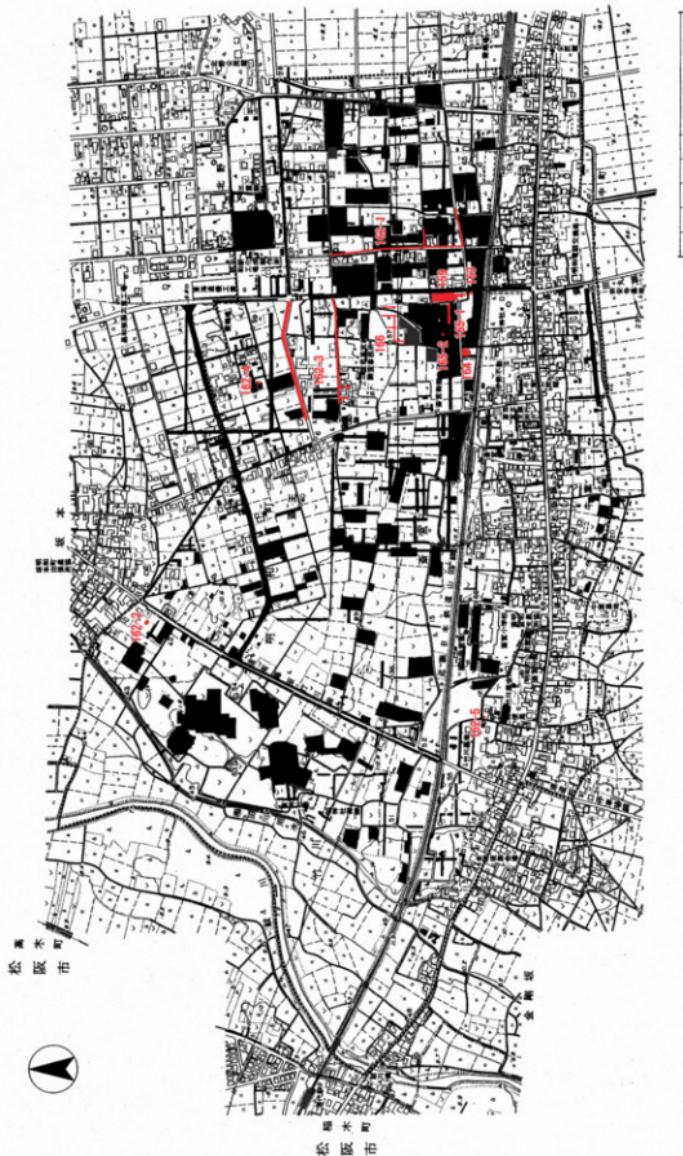
(倉田直純)

調査次数	地区	面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	位置	土地所有者	現状変更	保存地区区分
159(南)	R10・11	350	21.4.27 ~ 7.31	明和町斎宮字西加座	個人	計画発掘調査	1
163	R11	24	21.8.4 ~ 22.1.15	明和町斎宮字柳原	明和町	計画発掘調査	1
164	Q11	201	21.8.3 ~ 10.14	明和町斎宮字御館	個人	計画発掘調査	1
165-1	R11	98	21.6.25 ~ 10.15	明和町斎宮字柳原	明和町	計画発掘調査	1
165-2	R11	30	21.9.7 ~ 10.15	明和町斎宮字柳原	明和町	計画発掘調査	1
166	Q9・10、R9・10	390	21.11.24 ~ 22.1.22	明和町斎宮字下園	個人・明和町	計画発掘調査	1
162-1	S8・9・10	305	21.5.7 ~ 9.9	明和町斎宮地内	個人・明和町	下水道管敷設	1・4
162-2	L5	40	21.6.8 ~ 6.9	明和町竹川字古里	個人	個人住宅新築	3
162-3	Q7・8、R7・8、SS11	440	21.7.22 ~ 11.27	明和町斎宮地内	個人・明和町	下水道管敷設	1・4
162-4	Q7	2	21.8.3 ~ 8.4	明和町斎宮字楽殿	個人	個人住宅増築	4
162-5	J12	3	21.9.5	明和町竹川字東裏	個人	浄化槽設置	4

第I-1表 平成21年度 発掘調査一覧表



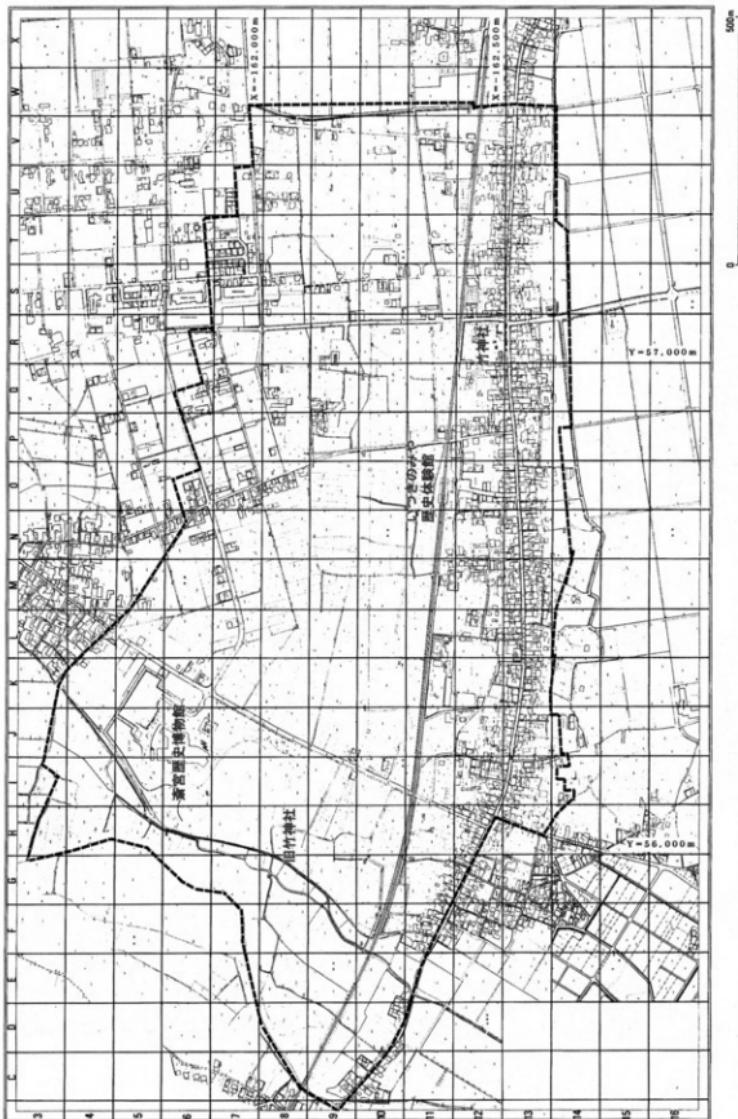
第I-1図 史跡斎宮跡位置図(1:50,000) 国土地理院 1/25,000「松阪」「明野」(平成4年)より



第 I - 2 図 平成21年度発掘調査区位置図(1:10,000)



第I-3図 斎宮跡方格地割区画名称図(1:5,000)



第 I - 4 図 史跡秦宮跡における大地区表示図 (2002 年)

## II 第159次調査 (6AR10・11 柳原地区)

### 1はじめに

斎宮跡では、史跡東部で実施を予定している史跡整備について検討するうえで、方格地割中央部の框架部と目される区画についての解明を進めていく必要があるとの考え方から、その対象として方格地割の中央部に位置する「柳原区画」に焦点があてられた。柳原区画は、斎王の居所である「内院」推定地とされる「牛葉東区画」の北側に隣接し、かつ方格地割の中央部に位置していることから、重要な役割を担った区画であることが想定された。そこで、その機能や土地利用の状況を解明することを目的として、計画的な調査を実施することとなり、平成19年度から3カ年にわたり調査を継続してきた。本年度は、その最終年度となる。

平成21年度最初の調査となった第159次調査(南地区)は、前年度に北半部の調査をし、今年度残りの南半部の調査を行ったもので、今回2カ年分の調査概要をまとめて報告する。本調査は柳原区画南東隅部の土地利用の状況を解明することを目的とし、838m<sup>2</sup>の面積を対象とした。調査期間は北地区が平成20年9月22日から平成21年3月31日まで、南地区が平成21年4月27日から7月31日までである。

### 2地形と層位

斎宮跡は標高約14mを最高点とする洪積台地上に立地しており、東ないしは北東方向に向かって緩やかに傾斜している。今回の調査地である柳原区画は、南北を東西方向の浅い谷状の地形に挟まれた島状の微高地であったことが知られており、区画の中央北東よりを約10.4mの最高点とし、西・南・北に傾斜するが、牛葉東・西区画では再び標高が高くなる。

調査地の現況は山林で、北端が約10.4mの最高点で、南に向かって傾斜し、南端では約9.9mとなる。

調査区の基本層序は、上層から褐色土(表土)、黒褐色土(遺物包含層)、明黄褐色粘質土(地山)であるが、部分的に黒ボク土が認められた。遺構の検

出は、地山である明黄褐色粘質土上面で行った。この遺構検出面までの深さは、北部では15~20cmと浅く、南に向かって深くなり最深部では75cmほどになり、南端では約30cmと再び浅くなる。

### 3 遺構

今回の調査で確認された遺構は、掘立柱建物39棟、溝9条、土坑18基がある。遺構の分布状況を見ると、掘立柱建物は調査区の中央付近から北側で

	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	
													19
													20
													21
													22
													23
													24
R-10													25
R-11													1
													2
													3
													4
													5
													6
													7
													8
													9
													10
													11
													12
													13
													14
													15
													16
													17
													18
													19
													20
													21

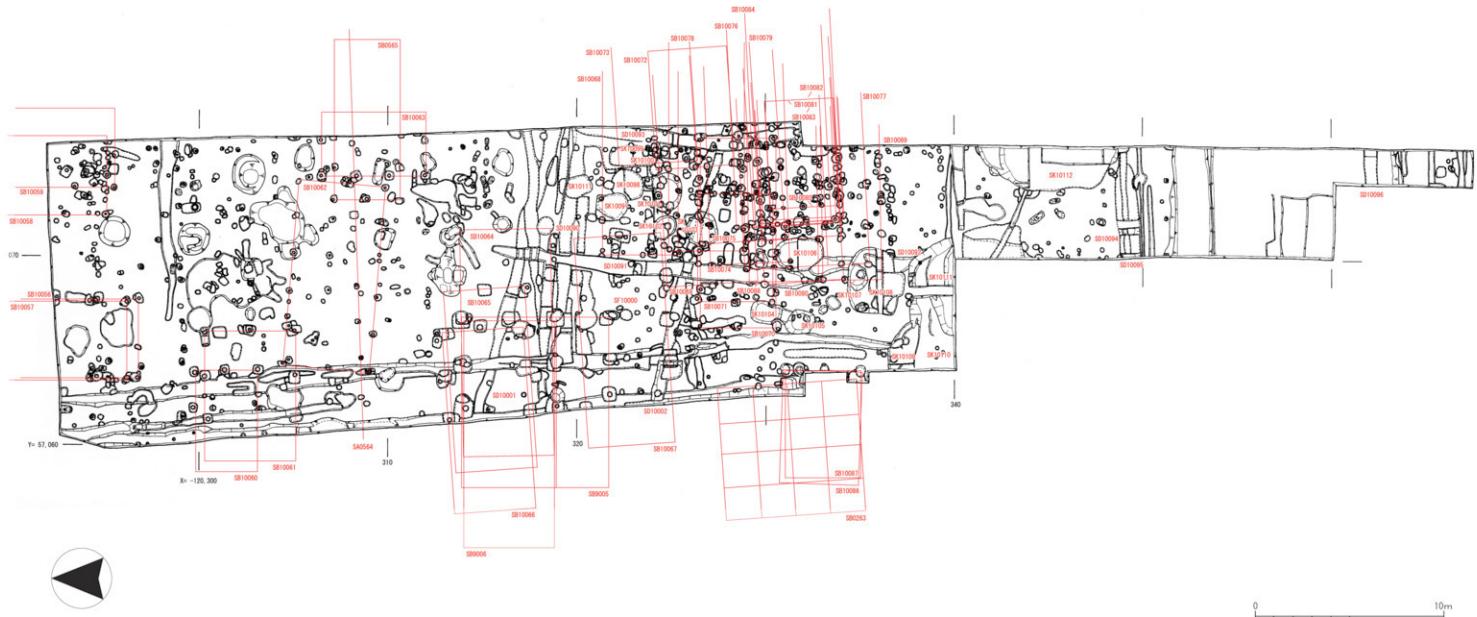
第II-1図 第159次調査 大地区・グリッド図  
(1:800)



第II-2図 第159・163・164・165・166次調査 調査区位置図(1:2,000)

確認されているが、特に、III期の建物は、中央東寄りで繰り返し建替えが行われている状況が確認された。土坑は中央付近に密集しており、北部では確認

されていない。また、掘立柱建物と調査区の南寄りで確認された区画道路との間には一定の空間が存在するが、そこにはII期の大型土坑が確認されている。



第II-3図 第159次調査 造構平面図(1:200)



第 II-4 図 第 159 次調査 土層断面図(1:100)

以下、斎宮跡の土器編年による時期区分にしたがって、記述していく。

#### (1) 斎宮I - 4期以前の遺構

**S F 10000** 調査区の中央付近で検出した古代伊勢道(通称「奈良古道」)である。両側に側溝(S D 10001・10002)を伴い、調査区内を概ねE 15° Sの方位をもって、北西から南東方向に横断する。今回の調査で検出した延長は、約16mである。なお、古代伊勢道については、調査次によって複数の遺構番号が付与されているが、ここでは第158次調査の遺構番号を採用した。

**S D 10001・10002** 古代伊勢道の側溝で、S D 10001が北側溝、S D 10002が南側溝である。溝幅は0.5~0.7m、検出面からの深さはS D 10001が約10cm、S D 10002が約20cmを測る。溝底の標高は、S D 10001が9.4~9.6m、S D 10002が9.2~9.7mで、南側溝のほうが深く、北西から南東方向に向かって傾斜する。埋土は黒褐色土で、土師器や須恵器片が出土した。両側溝間の距離は、芯々間で約8.9mである。

#### (2) 斎宮I - 4期の遺構

**S B 0263** 調査区中央西端で柱穴2個を確認した。第8~9次・143次・153次調査の成果と合わせ、桁行4間×梁行4間の総柱建物になると考えられる。柱穴は一辺約1mの隅丸方形で、柱痕跡は今回の調査では確認できなかった。なお、今年度実施した第165-1次調査でも柱穴を確認しており、詳細については後述する。

**S B 10067** 調査区の中央付近で検出した桁行5間×梁行2間の規模をもつと考えられる東西棟である。柱間寸法は、桁行・梁行とともに2.3mを測る。柱掘形は平面略方形をなし、一辺0.7~0.8mである。柱痕跡は確認できなかった。棟方向は、N 4°Wをとる。I-4~II-1期に属すると考えられる。

**S D 10094** 方格地割東西区画道路の北側側溝である。S D 10094は幅約1.2mで、SK 10112の南西から約5m西に延び、調査区外へ続く。埋土は黒色土で地山がブロック状に混じる。土師器の杯・甕片が出土している。

**S D 10096** 方格地割東西区画道路の南側溝である。わずかに溝底部分を検出したのみで、幅は約0.7

mを測る。

#### (3) 斎宮II期の遺構

**S A 0564** 調査区の中央北寄りの位置で検出した東西方向に並ぶ柱列である。第10次調査とあわせ約26.6m分を確認したが、第152次調査では確認されていない。柱掘形は0.2~0.3mの略円形で平面形は不揃いである。柱間は1.9m、方向はN 4°Wをとる。II-3期以降に属すると考えられる。

**S B 9005** 西隣で実施した第143次調査で西側が確認された桁行5間×梁行3間で南側に庇を伴う東西棟である。柱間寸法は、桁行2.0m、梁行2.5mで、庇出は2.8mを測る。棟方向はN 0°Wをとる。II-1~2期に属すると考えられる。

**S B 9006** S B 9005と重複する桁行5間×梁行2間の東西棟である。柱間寸法は、桁行・梁行ともに2.4mである。棟方向はN 0°Wをとる。S B 9005に後出することから、建替えに伴い庇を廃し、桁行を長くしたものと考えられる。II-1~2期に属すると考えられる。

**S B 10056・10057** 調査区の北端で重複する南北棟で、棟方向はいずれもN 0°Wをとる。桁行は2間以上で調査区外へ続き、梁行は妻柱を確認できなかつたが2間と考えると、柱間寸法は、S B 10056が桁行2.2m、梁行2.1m、S B 10057が桁行2.0m、梁行2.1mである。柱穴の重複関係から、S B 1056が先行する。II-3期に属すると考えられる。

**S B 10060** S B 10056・10057の南側で検出した東西棟で、棟方向はN 0°Wである。桁行2間分×梁行2間を検出したのみであるが、第152次調査で確認されていないことから、3間×2間の規模になるとと考えられる。柱間寸法は桁行1.8m、梁行1.65mで、柱掘形は一辺約0.5mの略方形をなし、柱痕跡は径20~25cmを測る。II-1~2期に属すると考えられる。

**S B 10061** S B 10060と重複する桁行3間×梁行2間とみられる東西棟で、N 1°Wの棟方向をとる。柱間寸法は桁行2.3m、梁行2.4mを測る。柱掘形は一辺約0.5mの隅丸方形をなし、柱痕跡は径20~25cmである。S B 10060とS B 10061との前後関係は柱穴の重複がないため不明であるが、柱掘形の形状や規模からS B 10060に先行すると考えられる。

**S B 10064** S B 9005・9006に後出し、東に2間分ずれて重複する東西棟で、棟方向はN 1°Wをとる。西邊を確認していないが、桁行5間×梁行2間の規模をもつと考えられる。柱間寸法は、桁行・梁行とともに2.4mを測る。柱掘形は不定形で、規模も0.5～0.9mと不揃いである。

**S B 10065** S B 10064に後出すする東西棟で、棟方向はN 4°Wである。建物規模は、桁行4間以上×梁行2間で調査区へ続くが、西側で実施した第143次調査では確認されていない。柱間寸法は、桁行方向2.1m、梁行方向2.25mを測る。柱掘形は一辺0.5～0.6mの略方形で、柱痕跡は径約20cmである。II-3～4期に属すると考えられる。

**S B 10066** S B 10065と約2.2m東にずれて重複する東西棟で、柱穴の重複からS B 10065に先行する。桁行3間以上×梁行2間で調査区へ続く。柱間寸法は、桁行方向2.4m、梁行方向2.1mを測る。柱掘形は一辺0.6mの略方形で、柱痕跡は径約20cmである。II-3～4期に属すると考えられる。

**S B 10086・10087** 調査区の西端で検出した建物で、第8-9次・第165-1次調査の成果とあわせると桁行3間×梁行2間の東西棟となる。第159次調査では、S B 10087の柱穴を3個検出したのみである。柱掘形からは、土師器杯・皿が人頭大の石とともに出土している(第II-5図)。詳細については第165-1次調査で記述する。

**S K 10099** 調査区の中央東端で検出した。南側はIII期の土坑S K 10100と重複する。長辺1.3m以上、短辺約1.0mの平面隅丸長方形をなし、検出面からの深さは25cm以上である。土師器杯・皿、灰釉陶器碗等が出土した。II-3期に属すると考えられる。

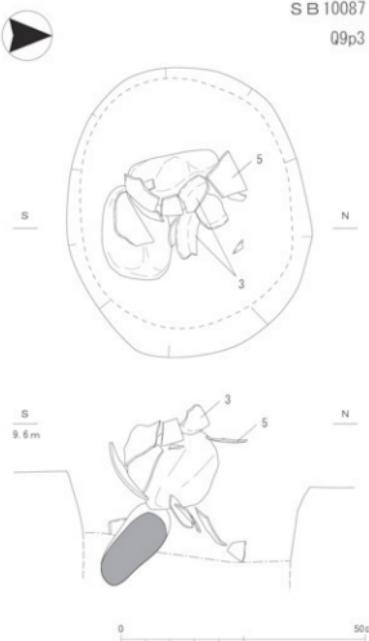
**S K 10105** 長辺約1.7m、短辺約1.2mの平面梢円形をなす。検出面からの深さは約25cmを測る。土師器杯・皿の他、製塙土器が出土した。II-3期に属すると考えられる。

**S K 10107** 後述するS K 10108と重複する長辺1.4m×短辺0.9mの平面梢円形をなす土坑である。検出面からの深さは約40cmで、土師器杯・皿・甕・甌等が出土した。II-2期に属すると考えられる。

**S K 10108** 長辺約3.5m、短辺約2.5mの略方形をなす大型の土坑で、検出面からの深さは約25cm

**S B 10087**

99p3



第II-5図 第159次調査 SB10087遺物出土状況図  
(1:10)

を測る。土師器杯・皿・甕、須恵器杯・甕の他、ヘラ描き土器や墨書き土器が出土した。II-2期に属すると考えられる。

**S K 10109** 後述するS K 10110と重複する。全体規模は不明だが、東西2.5m以上、南北1.5m以上の規模をもつ。土師器杯・皿・瓶・甕、須恵器杯・転用硯・製塙土器・土鍤等が出土している。II-3～4期に属するものと考えられる。

**S K 10110・10111** 調査区の中央やや南寄りの位置で重複する大型の土坑である。S K 10110のほうが古く、長辺約2.5m、短辺1.3m以上、検出面からの深さ約70cmである。S K 10111は長辺3.5m以上、短辺2.7m、検出面からの深さ約50cmの規模をもつ。土師器杯・皿・高杯・甕・甌・黒色土器碗・須恵器杯・甕・灰釉陶器碗・製塙土器・鉄製品等が出土しているが、遺構の規模に比して量はそれほど多くはない。II-2期に属すると考えられる。

**S K 10112** 調査区の南東部で遺構の一部を検出した。第10次調査では大規模な土坑状の遺構が抜がつており、今回検出したのはその西端の部分にあたる。検出面からの深さは約70cmで、埋土は黒色土である。出土遺物はあまり多くはないが、土師器杯・皿、綠釉陶器碗等が出土した。

#### (4) 斎宮II-3～III-1期の遺構

**S B 0565** S B 10063と重複する東西棟である。第10次調査でも検出されており、全体で桁行5間×梁行2間の規模になる。柱間寸法は桁行・梁行ともに約1.75mを測る。柱掘形は径約0.4mの不整円形をなし、柱痕跡は径約15cmである。棟方向はN 0°Wをとる。

**S B 10058・10059** 調査区の北東隅で桁行・梁行を1間ずつ検出した。調査区外へ続くため全体規模は不明であるが、第10次調査では確認されていないため、東西は2間の規模になると考えられる。棟方向はいずれもN 0°E、柱間寸法は、S B 10058が東西・南北ともに2.1m、S B 10059が東西1.8m、南北2.1mを測る。柱掘形は径0.3～0.4mの略円形をなし、柱痕跡は径約20cmである。柱穴の重複がないため、前後関係は不明である。

**S B 10071** S B 10070と約1.3m東に離れて重複する桁行3間×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 0°Wをとる。柱間は桁行1.9m、梁行2.0mを測る。柱掘形は一辺約0.3mの略方形あるいは略円形をなし、埋土は黒褐色もしくは暗褐色土で地山がブロック状に混じる。柱痕跡は20cmである。土師器杯・高杯、須恵器、灰釉陶器が出土している。

**S D 10095** 前述の区画道路北側溝S D 10094を再掘削したもので幅約0.4m、検出面からの深さは約20cmを測り、断面形状は逆台形をなす。埋土は砂質の黒褐色土である。

S D 10094・10095から南側は約0.4mの段差をもって一段低くなってしまっており、区画道路造成に伴う整地の可能性も考えられたが、埋土をつき固めたような状態にはなく、断面に等間隔で並ぶ歓状の痕跡が認められることや、南側溝S D 10096がこの落ち込みの底で検出されたことから、耕作に伴う地形の改変の可能性が考えられる。

#### (5) 斎宮III期の遺構

**S B 10062** 桁行5間×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 5°Eをとる。柱間寸法は、桁行が東端1間が1.9mと狭くなる他は2.0mで、梁行2.3mを測る。柱掘形は径0.2～0.4mの不定形をなし、柱痕跡は径約15cmである。III期以降に属すると考えられる。

**S B 10063** 調査区北部の東端で検出した。隣接地での第10次調査で検出されていないことから、桁行3間×梁行2間の南北棟になると考えられ、棟方向はN 0°Wをとる。柱間寸法は桁行方向が1.8m、梁行方向が1.9m+1.7m+1.9mを測る。柱掘形は一辺0.4～0.5mの略方形をなし、柱痕跡は径約15cmである。

**S B 10068** S B 10067の東側で検出した。桁行4間以上×梁行2間の東西棟になるとと考えられ、棟方向はN 0°Wをとる。柱間は、桁行1.95m、梁行と2.0mを測る。柱掘形は径0.3～0.4mの略円形で、柱痕跡は径約15cmである。土師器片が出土しており、III-2期に属すると考えられる。

**S B 10069** S B 10067の南側で検出した桁行4間以上×梁行2間の東西棟である。棟方向はN 4°Wをとる。柱間は桁行2.25m、梁行2.4mを測る。柱掘形は一辺0.3m前後の略方形をなし、柱痕跡は径約15cmである。土師器杯、灰釉陶器片などが出土しており、III-2～3期に属すると考えられる。

**S B 10070** S B 10067の南側で検出した桁行5間×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 0°Wをとる。柱間は桁行・梁行とともに2.0mを測る。柱掘形は一辺0.4～0.5mの略方形や略円形をなし、埋土は黒褐色もしくは暗褐色土で地山がブロック状に混じる。柱痕跡は径15cmである。土師器片、ロクロ土師器片が出土しており、III-1～2期に属すると考えられる。

**S B 10072** 調査区の中央東端で柱穴2個を検出し、第10次調査の成果とあわせ、桁行3間×梁行2間の東西棟になるとと考えられる。棟方向はN 4°Wをとる。柱間は梁行2.15m、桁行は全体で6.2mであるが柱を確認できていないため柱間は不明である。仮に等間であれば2.1mになる。III-2～3期に属すると考えられる。

**S B 10073** S B 10072に先行する建物でS B 10072同様、第10次調査の成果とあわせ、桁行3間

×梁行2間の東西棟になると考えられる。棟方向はN 4°Wをとる。柱間は梁行2.1mで桁行は不明である。全体で7.35mなので、等間とすれば2.45mになる。III-2～3期に属すると考えられる。

**S B 10074** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟と考えられ、棟方向はN 2°Wをとる。柱間は桁行・梁行ともに2.1mを測る。柱掘形は径約0.2～0.3mの略円形をなし、柱痕跡は径15cmである。土師器片、ロクロ土師器片が出土しており、III期に属すると考えられる。

**S B 10075** 桁行4間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 4°Wをとる。柱間は桁行2.0m、梁行2.1mを測る。柱掘形は径約0.3～0.35mの略円形ないしは略方形をなし、柱痕跡は径約20cmである。

**S B 10076** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 3°Wをとる。柱間は桁行約2.1m、梁行約2.5mを測る。柱掘形は径約0.4mの略円形をなし、柱痕跡は径20cmである。重複するS B 10077より新しい。土師器・陶器鉢が出土しており、III-2～3期に属すると考えられる。

**S B 10077** S B 10076より西側に1間分ずれて重複する桁行4間以上×梁行3間の東西棟で南側に庇を伴い、棟方向はN 3°Wをとる。柱間は桁行・梁行ともに約2.2mを測り、庇出も約2.2mである。柱掘形は一辺0.3～0.4mの不整形をなし、柱痕跡は径15～20cmである。土師器・ロクロ土師器が出土しており、III-2～3期に属すると考えられる。

**S B 10078** 桁行4間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 0°Wをとる。柱間は桁行約2.2m、梁行約2.0mを測る。柱掘形は一辺0.25～0.3mの略方形ないしは略円形をなし、柱痕跡は径約15cmである。土師器杯・甕が出土している。S B 10075と重複し、それより古い。

**S B 10079** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 4°Wをとる。柱間は桁行約2.1m、梁行約2.1mを測り、柱掘形は一辺0.25～0.3mの略方形ないしは略円形をなし。柱痕跡は10～15cmである。土師器杯・甕、ロクロ土師器片、灰釉陶器段皿が出土しており、III-2～3期に属すると考えられる。

**S B 10080** S B 10079と西側に約1.4mずれて重

複する桁行3間以上×梁行2間の東西棟である。柱穴の重複関係からS B 10079より新しい。棟方向はN 4°Wをとり、柱間は桁行2.15m、梁行2.1mを測る。柱掘形は径約0.4mの略円形をなし、柱痕跡は径約20cmである。土師器片、灰釉陶器碗が出土している。III-2～3期に属すると考えられる。

**S B 10081** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 3°Wをとる。柱間は桁行2.1m、梁行2.0mを測る。柱掘形は径約0.2～0.3mの不定円形をなし、柱痕跡は確認することができなかつた。土師器杯、ロクロ土師器片、陶器鉢、白磁片が出土している。III-3～4期に属すると考えられる。

**S B 10082** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 3°Wをとる。柱間は桁行2.2m、梁行2.15mを測る。柱掘形は一辺約0.4mの略方形をなし、柱痕跡は径約20cmである。土師器杯・皿が出土している。柱穴の重複関係からS B 10081に先行する。III-3～4期に属すると考えられる。

**S B 10083** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 3°Wをとる。柱間は桁行2.0m、梁行1.9mを測る。柱掘形は径0.25～0.4mの略円形をなし、柱痕跡は径約15cmである。土師器片が出土している。III-2～3期に属すると考えられる。

**S B 10084** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 3°Wをとる。柱間は桁行・梁行とともに約2.25mを測る。柱掘形は重複によって全体を確認することができないが、一辺0.5m程度になると推測される。柱痕跡は確認することができなかつた。土師器片が出土しており、III-1～2期に属すると考えられる。S B 10081～10084はほぼ同じ位置で重複しており、このうちS B 10084が最も古く、S B 10083→S B 10082→S B 10081の順になる。

**S B 10085** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、棟方向はN 4°Wをとる。柱間は桁行約1.9m、梁行約1.75mを測る。柱掘形は0.3～0.35mの略円形をなし、柱痕跡は径約15cmである。III-3～4期に属すると考えられる。

**S B 10088** 桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、南側柱がS B 10089の北側柱と重複する。棟方向はN 1°Wをとる。柱間は桁行2.1m、梁行1.75mを測り、柱掘形は一辺0.4m前後の円形もしくは楕円

遺構名	ピット番号 ※()はグリッド番号	時期	規模 (間) (m)	柱間寸法(m) 桁行/梁行	主軸	方位 (N基準)	備考
SB0263	(p8)P2/(p9)P1	I-4	4×4 7.2×7.2	1.75/1.85	東西	N 4° W	第8・143・153次調査で一部検出
SA0564	(q3)P2/(r3)P1/(s3)P1	II-3~	(14) (26, 6)	1.9	東西	N 3° W	第10次調査で一部検出
SB0565	(s2)P3/(s3)P2+P3	II-3 ~III-1	5×2 8.75×3.5	1.75/1.75	東西	N 0° W	第10次調査で一部検出
SB9005	(p4)P1/(p6)P1/(q6)P1(抜取) +P3(抜取)・P4	II-1~2	5×3 10.0×7.8	2.0/2.5 底辺2.8	東西	N 0° W	第143次で検出 SB9006より古
SB9006	(p4)P6/(p5)P3/(q4)P6/ (g5)P1	II-1~2	5×2 12.0×4.8	2.4/2.4	東西	N 0° W	第143次で検出 SB9005より新
SB10056	(p24)P7/(p25)P3/(q24)P1+ P3/(q25)P2	II-3	(2)×2 (4.4)×4.2	2.2/2.1	南北	N 0° W	SB10057より新
SB10057	(p24)P4/(p25)P1/(q24)P3+ 土坑1・P4/(q25)P3	II-3	(2)×2 (4.0)×4.2	2.0/2.1	南北	N 0° W	SB10056より古
SB10058	(s24)P6-P13	II-3 ~III-1	(2)×(2) (4.2)×(4, 2)	2.1/2.1	東西	N 0° W	
SB10059	(s24)P8+P12	II-3 ~III-1	5×(2) 9.0×(4.2)	1.8/2.1	東西	N 0° W	
SB10060	(p25)P4+P5	II-1~2	(2)×2 (3.6)×3.3	1.8/1.65	南北	N 0° W	
SB10061	(q1)P4/(q2)P1	II-1~2	(3)×2 (6.9)×4.8	2.3/2.4	南北	N 1° W	
SB10062	(q3)P3+P4/(r2)P1/(s2)P5	III期以降	5×2 9.9×4.6	2.0+1.9/2.3	東西	N 5° E	
SB10063	-	不明	3×(2) 5.5×(3.6)	1.9 1.7 1.9 /1.8	南北	N 0° W	
SB10064	(r5)P1	II-3~4	(2)×2 (4.8)×4.8	2.4/2.4	南北	N 1° W	SB9006より新
SB10065	(p5)P2/(r4)P3+P4	II-3~4	(4)×2 (9.6)×4.2	2.4/2.1	東西	N 4° W	SB10066より古
SB10066	(p4)P1+P2+P5(p5)P4/(q4)P1+ P4/(q5)P2	II-3~4	(3)×2 (7.2)×4.2	2.4/2.1	東西	N 4° W	SB10065より新
SB10067	(q7)P7+P16/(r6)P12+P7/ (r7)P21+P22	I-4~ II-1	(5)×2 (11.5)×4.6	2.3/2.3	東西	N 4° W	
SB10068	(r6)P3/(r7)P4/(s6)P2+ P5/(s7)P25	III-2	(4)×2 (7.8)×4.0	1.95/2.0	東西	N 0° W	
SB10069	(r7)P1+P2+P4/(r8)P12/ (s7)P34/(s8)P31+P33	III-2~3	(4)×2 (10.0)×4.8	2.25/2.4	東西	N 4° W	
SB10070	(q8)P7+P11/(r7)P3+P5/ (r8)P3+P27/(s7)P1+P48/ (s8)P13+P46/(t7)P3/(t8)P15	III-1~2	5×2 10.0×4.0	2.0/2.0	東西	N 0° W	
SB10071	(q7)P12/(q8)P8+P10/ (r7)P23/(r8)P9+P24/ (s7)P17/(s8)P2	II-3~	3×2 5.7×4.0	1.9/2.0	東西	N 0° W	
SB10072	(s7)P10+P23	III-2~3	3×2 6.3×4.2	2.1/2.1	東西	N 4° W	
SB10073	(s7)P12+P41	III-2~3	~×2 7.2×4.3	~2.15	東西	N 4° W	
SB10074	(r8)P21+P32+P34/(s7)P6/ (s8)P3	III	(3)×2 (6.3)×4.2	2.1/2.1	東西	N 2° W	
SB10075	(r7)P16/(r8)P19+P30/ (s7)P3/(s8)P18	IIIか	(4)×2 (8.0)×4.2	2.0/2.1	東西	N 4° W	
SB10076	(r8)P26/(r9)P21/(s8)P15/ (t8)P11	III-2~3	(3)×2 (6.3)×5.0	2.1/2.5	東西	N 3° W	SB10077より新
SB10077	(r8)P11/(s8)P38+P40/ (r9)P25/(s9)P3+P35/(t8)P12	III-2~3	(4)×3 (8.8)×6.6	2.2/2.2	東西	N 3° W	南北
SB10078	(r7)P7/(s7)P3+P51 (s8)P12/(s8)P31+P33	IIIか	(4)×2 (8.8)×4.0	2.2/2.0	東西	N 0° W	SB10075より古
SB10079	(r9)P11/(s8)P1+P11/(s9)P8+ P24	III-2~3	(3)×2 (6.3)×4.2	2.1/2.1	東西	N 4° W	SB10080より古
SB10080	(r8)P29/(r9)P12+P28/ (s8)P10/(s9)P8柱+P18	III-3~4	(4)×2 (8.6)×4.2	2.15/2.1	東西	N 4° W	SB10079より新
SB10081	(r8)P29/(r9)P13/(s8)P39/ (s9)P6+P13/(t8)P6	III-3~4	(3)×2 (6.3)×4.0	2.1/2.0	東西	N 3° W	SB10082より新

第 II-1 表 第159次調査 掘立柱建物一覧①

遺構名	ピット番号 ※( )はグリッド番号	時期	規模 (間) (m)	柱間寸法(m) 桁行/梁行	主軸	方位 (N基準)	備考
SB10082	(r9)P38/(s8)P16・P47/ (s9)P4・P7/(t8)P8	III-3~4	(3)×2 (6.6)×4.3	2.2/2.15	東西	N 3° W	SB10083より新
SB10083	(s8)P44・P55/(s9)P11・P27	III-2~3	(3)×2 (6.6)×3.8	2.0/1.9	東西	N 3° W	SB10084より新
SB10084	(r8)P13・P20/(s9)P16・P29	III-1~2	(3)×2 (6.75)×4.5	2.25/2.25	東西	N 3° W	
SB10085	(s9)P10・P15・P25	III-3~4	(3)×2 (5.7)×3.5	1.9/1.75	東西	N 4° W	
SB10086	-	II-1~2	3×2 6.0×4.2	2.0/2.1	東西	N 2° E	
SB10087	(q9)P2・P3	II-1~2	3×2 5.7×4.0	1.9/2.0	東西	N 0° W	
SB10088	(r8)P1・P23/(s8)P17・P29	III-3~4	(3)×2 (6.6)×3.8	2.2/1.9	東西	N 1° W	
SB10089	(r9)P30/(r10)P3/(s9)P19・ P32/(s10)P5	III-3~4	(4)×2 (8.4)×3.5	2.1/1.75	東西	N 1° W	SB10088より新

第II-2表 第159次調査 挖立柱建物一覧②

遺構名	調査時 遺構名	グリッド	時期	出土遺物			備考
SD10001	溝7	p4/q4・5/r5/s5/t5	奈良	土師器:杯・甕 須恵器:杯			古代伊勢道北側溝
SD10002	溝22	q7/r7/s7/t8	奈良	土師器:甕 ロクロ土師器:皿 白磁:碗			古代伊勢道南側溝
SD10090	溝5	q5/r5/s5・6/t6	III~	土師器:杯・甕 須恵器:杯・甕 灰釉陶器 緑釉陶器 陶器:鉢			
SD10091	溝2・9	r4・5・6・7・8	III	土師器:甕 ロクロ土師器:皿 陶器:鉢			
SD10092	溝14	r9/r10	III	土師器:杯・甕 ロクロ土師器 灰釉陶器:碗 陶器:碗			
SD10093	溝13	t6・7・8	III	土師器:杯・皿・甕 ロクロ土師器 灰釉陶器:碗 盤・陶器:鉢 白磁:			
SD10094	溝20	r13/s13	I~4	土師器:杯・甕			区画道路北側溝
SD10095	溝21	p13/s13	II	土師器:杯・甕			SD10094より新
SD10096	-	s16	I~4	-			区画道路南側溝
SK10097	土坑14	s6	III-2~3	土師器:小皿・台付小皿 陶器:椀			
SK10098	土坑16	s6	III-2~3				
SK10099	土坑11	s6/16	II-3	土師器:杯・皿 灰釉陶器:椀			
SK10100	土坑11	s6/16	III-3	土師器:杯・皿・小皿 ロクロ土師器 陶器			
SK10101	土坑27	s7	III-3	土師器:杯・皿・甕 ロクロ土師器 緑釉陶器 製塙土器			
SK10102	土坑32	r7/s7	III-2~3	土師器:杯・皿 ロクロ土師器 白磁			
SK10103	土坑31	r7/s7	III-2~3	土師器:杯・皿 ロクロ土師器 製塙土器			
SK10104	土坑22	q8	III-2~3	土師器:皿・ての字			
SK10105	土坑26	q8・9	II-3	土師器:杯・皿 製塙土器			
SK10106	-	r8・9	不明	-			
SK10107	土坑28	r9	II-2	土師器:杯・皿・甕・壺			
SK10108	土坑21	q9・10/r9・10	II-2	土師器:杯・皿・甕 須恵器:杯・甕			
SK10109	土坑18	q10	II-3~4	土師器:杯・皿・甕・壺 須恵器:杯 転用瓦 製塙土器 土鍤			
SK10110	土坑24	q10/r10・11	II-2	土師器:杯・皿・甕 須恵器:甕 灰釉陶器:椀 黒色土器:椀			
SK10111	土坑23	q10/r10・11	II-2	土師器:杯・皿・高杯・甕・壺 須恵器:杯 灰釉陶器:椀 製塙土器:鉢 鉄製品			
SK10112	カクラン 土坑14	s11・12・13	II-3~4	土師器:杯・皿 須恵器:杯 緑釉陶器			
SK10114	土坑15	s6	IV	土師器:皿・小皿			

第II-3表 第159次調査 遺構一覧

形をなす。柱痕跡は径約15cmである。柱穴の重複関係からS B 10089に先行する。土師器片、灰釉陶器片、白磁片が出土しており、III-3～4期に属すると考えられる。

**S B 10089** S B 10088と重複し、これに後出する桁行4間以上×梁行2間の東西棟である。棟方向はN 1°Wをとり、柱間は桁行約2.15m、梁行約1.8mを測る。柱掘形は径0.3～0.4mの略円形をなし、柱痕跡は径15～20cmである。土師器片、灰釉陶器片が出土しており、III-3～4期に属すると考えられる。

**S K 10097** 調査区中央付近で検出した長径約1.7m、短径約1.4mの平面不整円形をなす。検出面からの深さは完掘していないため20cm以上で、土師器小皿・台付小皿、陶器碗等が出土した。III-2～3期に属すると考えられる。

**S K 10098** III期のS K 10970の南側で検出した。径1.6～1.7mの平面梢円形をなし、検出面からの深さは完掘していないため15cm以上である。III-2～3期に属すると考えられる。

**S K 10101** 調査区の中央付近で検出した。平面長梢円形をなし、長径約1.0m、短径約0.7m、検出面からの深さは約25cmである。土師器杯・皿・甕、ロクロ土師器、綠釉陶器、製塙土器等が出土した。III-3期に属すると考えられる。

**S K 10102** S K 10101の西側で検出した。平面梢円形で径0.5～0.6m、検出面からの深さ約20cmを測る。土師器杯・皿、ロクロ土師器、白磁片等が出土しており、III-2～3期に属すると考えられる。

**S K 10103** S K 10102の北側で古代伊勢道の南側溝SD 10002と重複する。平面梢円形をなし、長径約1.8m、短径約1.5m、検出面からの深さ約25cmである。土師器杯・皿、ロクロ土師器、製塙土器等が出土した。III-2～3期に属すると考えられる。

**S K 10104** 調査区中央西寄りの位置で検出した。平面形は、長径約1.6m、短径約1.1mの長梢円形をなし、検出面からの深さは約25cmである。土師器皿などが出土しており、III-2～3期に属すると考えられる。

**S K 10100** 前述のS K 10099と重複する。長径約1.4m、短径約1.2mの平面長隅丸方形をなし、検

出面からの深さは約40cmと平面規模に比して深い。土師器杯・皿・小皿、ロクロ土師器片、陶器碗等が出土しており、III-3期に属すると考えられる。

#### ( 6 ) 斎宮IV期以降の遺構

**S D 10090** 古代伊勢道S F 10000の上で検出した幅約0.7mの溝で、約10m分を確認した。N 4°E の方向で東方向へはさらに調査区外へ続くが第10次調査では確認されていない。土師器片や須恵器片、灰釉陶器片、綠釉陶器片、陶器片等が出土している。S B 10062と方向を揃えていることから、IV期以降に掘削されたと考えられる。

**S D 10091～10093** 調査区中央付近で検出したS D 10090と直交する南北方向の溝である。S D 10091とS D 10092はほぼ直列に並び、S D 10093と並行する。両者の間隔は芯々で約7mを測る。溝幅は約0.8mで、検出面からの深さは15～20cmである。土師器杯・皿のほか、ロクロ土師器片、灰釉陶器片等が出土している。掘立柱建物との位置関係からIV期以降に掘削されたと考えられる。

**S K 10114** 調査区の中央東よりの位置で検出した。平面隅丸長方形をなし、長辺約1.7m、短辺約1.2mを測る。土師器杯・皿等が出土した。S D 10090と重複し、それより新しい。

#### ( 7 ) その他の遺構

**S K 10106** S K 10105の東側で検出した長径2.5m、短径1.8mの平面梢円形をなす土坑である。出土遺物がないため、時期決定することができない。

### 4 遺 物

#### ( 1 ) I期の遺物

**S B 9005出土遺物(1・2)** 土師器杯A(1)・碗A(2)がある。いずれも平坦な底部から口縁部が内捲き味に立ち上がる。底部の調整は、(1)がナデ、(2)がヘラケズリである。(2)の底部には線刻がある。

#### ( 2 ) II期の遺物

**S B 10087出土遺物(3～6)** 土師器杯A(3・4)は口縁部が外方に開き、底部はユビオサエの痕跡が残る。皿Aは、平坦な底部に外反する口縁部が付く(5)と丸く浅い底部から口縁部が外方に開く(6)がある。

**S K 10108出土遺物(7～11)** 土師器杯・皿・甕、

須恵器杯・盤・甕、転用硯、製塙土器、土鍤等が出土している。土師器杯A(7)は外反する口縁部をもち、底部外面にはユビオサエ痕が残る。甕(8)は肥厚した口縁端部をわざかに上方につまみ上げる。須恵器杯B蓋(9・10)は丸みを帯びた天井部につまみが付いていたと考えられる。口縁部は下方に折り曲げる。台付盤(11)は底部外面に「政□(所か)」と墨書きされる。

**S K 10109出土遺物(12~15)** 土師器杯A・皿A、須恵器杯A、灰釉陶器皿がある。土師器杯A(12)・皿(13)は平坦な底部から口縁部が外方に開き、底部はナデ調整する。須恵器杯A(14)はヘラケグリにより、底部と口縁部の境に明瞭な稜をもつ。灰釉陶器皿(15)は内面に厚く施釉され、薄い底部に低い角高台がつく。II-2期に相当すると考えられる。

**S K 10111出土遺物(16~20)** 土師器杯・皿・高杯・甕・壺、須恵器鉢、灰釉陶器椀、製塙土器、鉄製品等が出土している。土師器杯A(16)は、平坦な底部から外反気味に体部がのび、口縁部は内弯する。口径に対し器高は低い。皿A(17)も同様の形態である。(20)は甕の底部である。須恵器は台付鉢(19)がある。灰釉陶器皿(18)は、口縁端部を外側に屈曲させる。II-2期に相当すると考えられる。

**S K 10102出土遺物(21)** 須恵器杯B(21)は、推定口径18.2cmで、灰白色を呈する。浅い杯部から直線的に開く口縁部を有し、高台は内端で接地する。

**S K 10112出土遺物(22~25)** 土師器杯・椀・皿、須恵器杯・綠釉陶器等が出土している。土師器杯A(23・24)は、丸みを帯びた底部から延びる口縁部を強く外反させる。椀A(22)は、内面に放射状暗文と螺旋暗文を施す。綠釉陶器椀(25)は、灰白~浅黄色の釉を施す。高台は低い角高台で、底部に三叉トチン痕が残る。II-3期に相当すると考えられる。

**S K 10099出土遺物(26~35)** 土師器杯・皿、灰釉陶器椀等が出土している。土師器杯Aは、底部が丸みをもつ(26・27)と平坦な(28~30)がある。(30)の底部外面には「×」あるいは「＊」の線刻が施される。皿A(31・32)の底部は平坦で、口縁部は外反気味に開く。甕(33)は口縁端部を丸くおさめる。灰釉陶器椀(34・35)は口縁端部を外反させる。

**S K 10110出土遺物(36~42)** 土師器杯・椀・皿・甕・

瓶、須恵器杯、転用硯、製塙土器、土鍤などが出土している。土師器杯A(36~39)の口縁部は直線的に開き、(38・39)は端部をヨコナデする。椀A(40)は底部の丸いもので口縁端部をヨコナデする。台付皿(41)は脚部のみ残る。管状土鍤(42)は中央が膨らみ、両端が欠損する。孔径は約9mmである。II-3~4期に相当すると考えられる。

### (3) III期の遺物

**S B 10077出土遺物(48・49)** 土師器小皿(48)・杯A(49)がある。(48)の底部は平坦である。49は口縁部が内彎曲気味に立ち上がり、端部をヨコナデする。III-2~3期に相当すると考えられる。

**S B 10089出土遺物(46・47)** 柱痕跡から土師器小皿が2点出土している。器壁が厚く、口縁端部をヨコナデする。III-3~4期に相当すると考えられる。

**S K 10097出土遺物(43~45)** 土師器皿・台付皿、ロクロ土師器台付皿がある。土師器皿(45)は内面に油煙が付着する。台付皿(44)は杯部に対して長い台が付く。III-2~3期に相当すると考えられる。

**S K 10101出土遺物(52・53)** 土師器杯・皿・甕、ロクロ土師器、綠釉陶器、陶器椀、製塙土器等が出土している。土師器小皿(52)は口縁端部を強くナデ、外側に面をもつ。陶器椀(53)は、いわゆる「山茶椀」である。高台は低く、釋穀痕が残る。III-3期に相当すると考えられる。

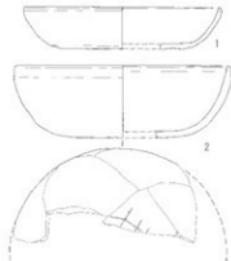
**S K 10104出土遺物(54~56)** 土師器皿等が出土している。土師器小皿(54)は器壁が厚く、口縁端部は丸く收められる。(55・56)は、外反させた口縁の端部を内側に丸く折り返した、いわゆる「て」字状口縁皿である。III-2期に相当すると考えられる。

**S K 10103出土遺物(57)** 土師器台付皿(57)の脚部である。

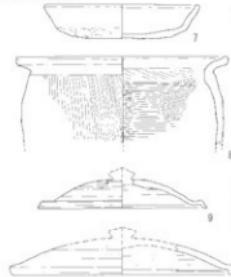
**S K 10100出土遺物(58~65)** 土師器椀・小皿、ロクロ土師器、陶器椀等が出土している。土師器椀A(58・59)の底部は丸みをもち、口縁端部をヨコナデする。小皿(60・61)は器壁が厚く、口縁端部外側に面をもつ。ロクロ土師器(62~64)はやや突出した底部から口縁部が直線的に伸びる。陶器椀(65)はいわゆる「山茶椀」である。III-3~4期に相当すると考えられる。

**S D 10090出土遺物(66~68)** 土師器杯(66~67)・

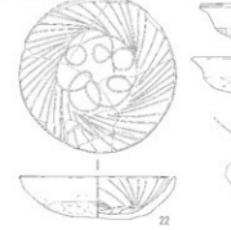
1・2: SB9005



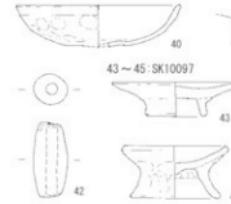
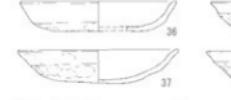
7~11: SK10108



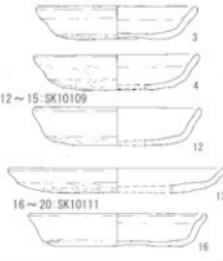
22~25: SK10112



36~42: SK10110



3~6: SB10087



12~15: SK10109



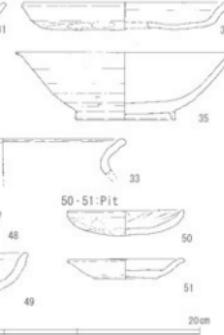
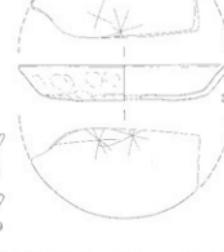
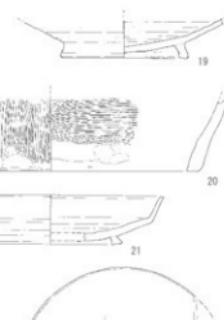
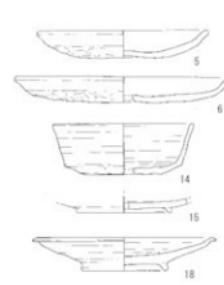
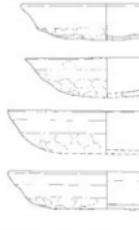
16~20: SK10111



21: SK10102



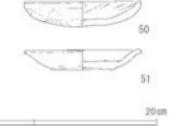
26~35: SK10099



48~49: SB10077

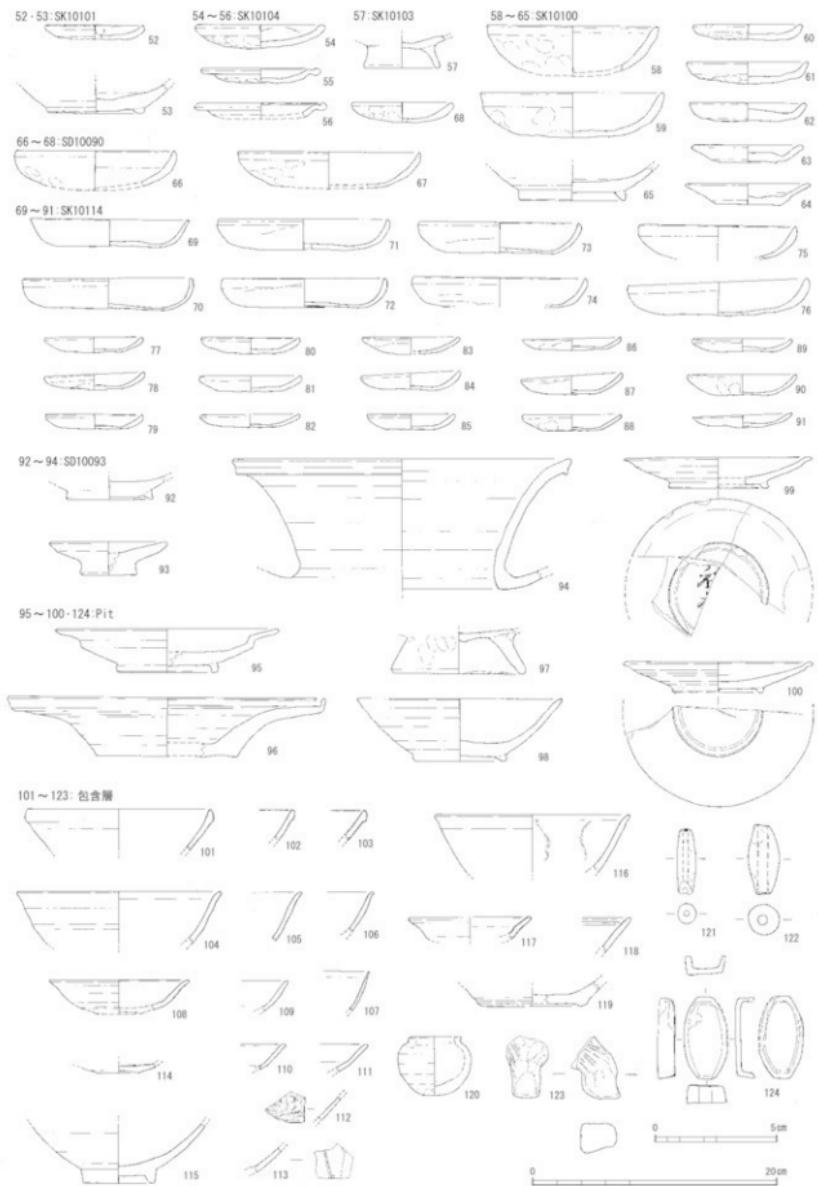


50~51:Pit



0 20cm

第 II-6 図 第159次調査 出土遺物実測図①



第II-7図 第159次調査 出土遺物実測図②(1:4)(1:2)

小皿（68）がある。口縁部が肥厚し端部を強くヨコナデする。

S D 10093出土遺物（92～94） 灰釉陶器皿（92）ロクロ土師器台付皿（93）、須恵器甕（94）がある。台付皿（93）は柱状高台である。

#### （4）IV期の遺物

S K 10114出土遺物（69～91） 土師器皿・小皿等が出土している。平坦な底部から口縁部が内彎気味に立ち上がり、丸みをもつ。全体に器壁が薄く、口縁端部が肥厚するものも見られる。

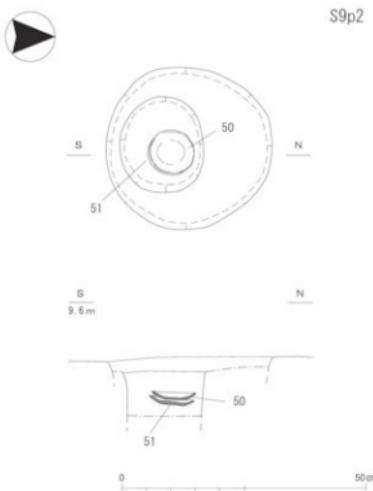
（5）ピット出土遺物（50・51・95～100・124）（50）は土師器小皿、（51）はロクロ土師器小皿で、柱痕跡から2枚重なった状態で出土した（第II-8図）。灰釉陶器段皿（95）は明瞭な段をもつ。（96）は陶器の盤、（98）は山茶碗である。灰釉陶器皿は2点（99・100）あり、（99）は底部外面に漢字2文字が墨書きされ、上の文字は漢字の示偏が読み取れる。（124）は銅製品で、刀の鞘尻であろうか。

#### （6）その他の遺物（94～123）

遺物包含層出土の遺物である。土鍤はいずれも管状で、細い（121）と中央が膨らむ（122）がある。（120）は須恵器のミニチュア短頸壺、（116）は龍泉窯系、（119）は越州窯系の青磁碗である。白磁（101～115）は碗と皿がある。碗（101～107・115）は口縁が玉縁状になる（101～103）、外反する（104～106）、直線的な（107）がある。皿（109～111）は見込みに圓線を有する。（112）は劃花文、（113）は蓮弁文が施される。（123）は土師器の獸脚である。

## 5まとめ

柳原区画全体の建物配置および変遷については、現在進められている史跡東部整備事業にあわせて刊行予定の『奈良宮跡発掘調査報告書 II』において詳細に検討する予定なので、ここでは今回の調査で明らかになった部分を記述する。今回の調査では、過去の調査で一部が確認されていたものも含め39棟の掘立柱建物を検出した。その多くは東西棟で、南北棟として確実なものは4棟しかない。時期別に見ると、最も古いI-4期には調査区の中央付近のS B 10067と、その南に倉庫と考えられる4間×4間の総柱建物S B 0263がある。II期になるとS B



第II-8図 第159次調査 S 9 P 2 遺物出土状況図  
(1:10)

0263の後にS B 10086・10087が建てられる。S B 0263の東側にはこの時期の土坑が集中しているものの、出土遺物は多くはない。この他の建物は、調査区の中央付近から北側に展開しており、1～2度の建替えが認められる。III期になると、調査区の中央付近で小型の東西建物が密集した状況で確認されており、区画の北部ではこの時期の遺構はS A 0564以外確認されていない。こうした状況からS A 0564は、これら建物と北側の空間を限る施設であったとも考えられる。

柳原区画ではこれまでの調査で、この時期に区画の南西部および、中央部で小規模な柱穴をもつ建物が密集して確認されている。今回、区画南東部においても同様な状況が確認されたことで、この区画の平安時代後期における空間利用についての重要な検討材料が得られたといえよう。

区画道路は調査区南寄りで南北両側溝を確認したが、道路部分は大きく削平されている状況が確認された。北側溝については、再掘削されたS D 10095がII-3期の土坑S K 10112と重複しており、遅くともこの時期には側溝として機能していなかったものと考えられる。

墨書き土器「政口」は、SK10108から出土した須恵器台付盤の底部外面に墨書きされたもので、斎宮編年のII-2期に相当する。二文字目は判読し難いが、仮に「所」と読むことができるのであれば、「政所」となる。政所は、日常的な政治実務を処理した機関やその庁舎を指すもので、調査区周辺に政所に相当する施設が存在した可能性を窺わせるものである。ただちにその建物を特定することは不可能であるが、第143次調査では時期は降るもの「待所」と墨書きされた土器が出土しており、寮庭の一画と考え

られる柳原区画の性格を考える上でも、興味深い資料である。

(角正芳浩)

番号	器種 器形	地区 遺構	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
1	土師器 杯	SB9005	口径 5.4	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°・付2°	密	良	橙5Y8R6/6	口縁部 3/12		005-01
2	土師器 杯A	SB9005	口径 5.9	口縁部22°外面部22° 内面部22°	密	良	橙5Y8R6/8	5/12	外底面に線刻	005-02
3	土師器 杯A	SB10087	口径 2.7	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°	密	良	橙5Y8R6/8	口縁部 6/12		013-03
4	土師器 杯A	SB10087	口径 2.9	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°	密	良	橙5Y8R6/8	口縁部 4/12		013-01
5	土師器 皿A	SB10087	口径 2.3	口縁部22°体部外面部22° 内面部22°	密	やや不良	橙5Y8R6/8	口縁部 2/12		013-02
6	土師器 皿A	SB10087	口径 2.1	口縁部22°外面部22° 内面部22°	密	良	橙5Y8R7/8～黄橙 7.5Y8R8/4	口縁部 4/12		013-04
7	土師器 杯A	SK10108	口径 2.8	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°	緻密	良	橙5Y8R6/8	口縁部 4/12		009-05
8	土師器 皿A	SK10108	口径 7.2	口縁部22°外面部22°・内面部22°	密	良	外面部: 橙5Y8R7/6 内底面: 淡白10Y8R8/2	口縁部 2/12	外面部に波状による赤変	009-02
9	須恵器 杯B蓋	SK10108	口径 2.3	口縁部22°外面部22°・内面部22°	密	良	外面部: 暗灰黄2.5Y5/2 内底面: 黄灰2.5Y5/1	口縁部 2/12		009-03
10	須恵器 杯B蓋	SK10108	口径 2.4	口縁部22°外面部22°・内面部22°	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部 3/12	内面に摩耗及び墨痕	009-04
11	須恵器 台付盤	SK10108	口径 12.0	口縁部22°外面部22°・内面部22° 11°・貼付高台	密	良	灰白2.5Y7/1	底面部12 口縁部 1/12	内底面に墨書き付着物	009-01
12	土師器 杯A	SK10109	口径 3.1	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°	密	良	橙5Y8R6/6	口縁部 3/12		012-01
13	土師器 皿A	SK10109	口径 2.0	口縁部22°外面部22° 内面部22°	密	やや不良	明黄褐10Y8T/6	口縁部 3/12		012-02
14	須恵器 杯A	SK10109	口径 (6.0)	口縁部22°外面部22°・内面部22°	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部4/12		012-03
15	灰釉陶器 皿	SK10109	底径 (7.6)	外面部22°・付2°貼付高台	密	良	裏地: 淡白10Y8T/1 輪: 淡灰2.5Y5/3	底部 2/12		012-04
16	土師器 杯A	SK10111	口径 2.7	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°・付2°	密	良	橙5Y8R6/8	底部	外面部に粘土接合痕	011-02
17	土師器 皿A	SK10111	口径 2.2	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°	密	良	橙5Y8R7/8～黄橙 7.5Y8R8/8	口縁部 3/12		011-03
18	灰釉陶器 皿	SK10111	底径 6.6	口径 2.7 底径 6.6 台	体部22°底部22°貼付高台	密	裏地: 淡灰2.5Y7/1 輪: 淡灰2.5Y6/3	底部完形 6/12	灰釉付好	011-05
19	須恵器 台付鉢	SK10111	底径 10.0	体部22°底部22°貼付高台	密	良	にぶい橙7.5Y8T/4 輪: 淡灰2.5Y6/2	底部 6/12		011-04
20	土師器 瓶	SK10111	底径 10.2	外面部22°・板付 内面部22°・付後2°・内面部22°	密	良	外面部: 浅黄褐10Y8R/4 内底面: 黄褐10Y8R/2	底部 1/12		011-01
21	須恵器 皿B	SK10102	口径 10.2	口縁部22°外面部22°・内面部22° 11°・内面部22°・付2°貼付高台	密	良	灰白2.5Y7/1～灰8R6/	口縁部 2/12		010-01
22	土師器 碗A	SK10112	口径 2.5	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°後放射状螺旋状暗紋	密	良	橙7.5Y8R7/6	ほぼ完形		007-02
23	土師器 杯A	SK10112	口径 3.1	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°	密	良	橙7.5Y8R7/6 ～浅黄褐10Y8R/3	ほぼ完形		007-03
24	土師器 杯A	SK10112	口径 3.0	口縁部22°外面部22°・付後2° 内面部22°	密	良	浅黄褐10Y8R/3	口縁部 2/12		007-04

第II-4表 第159次調査遺物観察表①

番号	器種 器形	地S 造構	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
25	縁袖陶器 椀	SK10112	底径 高 6.5 1.9	外面ヨコナリ・ハカリ 内面ヨコナリ・ハカリ 貼付高台	精良	良	素地:灰色NB/ 釉:灰白10Y7/2~浅黄 7.5Y7/3	底部 9/12	三又トシニ痕 外底面に難周	007-01
26	土師器 杯A	SK10099	口径 高 (13.8) 3.0	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ・柱+後ナリ	密	良	橙7.5Y7/6	口縁部 5/12		002-01
27	土師器 杯A	SK10099	口径 高 (13.3) 3.3	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	橙5Y8/6	口縁部 6/12		001-11
28	土師器 杯A	SK10099	口径 高 (16.0) 3.3	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	橙5Y7/6~褐灰10Y5/1	口縁部 5/12	器面剥離	001-03
29	土師器 杯A	SK10099	口径 高 (15.8) 3.1	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	橙7.5Y7/6	口縁部 5/12		001-10
30	土師器 杯A	SK10099	口径 高 (17.0) 2.9	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	橙5Y7/8 ~浅黄橙7.5Y8/4	口縁部 4/12	内外底面に難 周	008-01
31	土師器 皿A	SK10099	口径 高 (16.2) 1.8	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	橙2.5Y8/8	口縁部 4/12		002-02
32	土師器 皿B	SK10099	口径 高 (16.3) 2.3	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	橙7.5Y7/6	口縁部 9/12	外面に粘土接 合痕	001-05
33	土師器 皿A	SK10099	口径 高 (19.5) 2.9	口縁部ヨコナリ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁部 4/12	外面に煤付着	002-08
34	灰袖陶器 椀	SK10099	口径 高 (13.6) 4.6 底径 6.8	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	素地: 黃灰2.5Y6/1 釉:灰2.5Y5/3	底部 はげ充形	底部中央に燒 きぶくれ	001-02
35	灰袖陶器 椀	SK10110	口径 高 (17.7) 5.6 底径 7.7	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ 貼付高台	密	良	素地:灰色7.5/1 釉:柱+7 黄7.5Y6/2 ~灰柱+7 5Y6/2	口縁部 10/12		001-01
36	土師器 杯A	SK10110	口径 高 (12.6) 2.5	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	浅黄橙10Y8/3	口縁部 8/12		012-09
37	土師器 杯A	SK10110	口径 高 (12.9) 2.8	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	粗	良	浅黄橙10Y8/3	口縁部 6/12		012-10
38	土師器 杯A	SK10110	口径 高 (11.8) 2.8	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	橙7.5Y7/6	口縁部 3/12		012-07
39	土師器 杯A	SK10110	口径 高 (12.4) 3.1	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	橙7.5Y7/6	口縁部 8/12	外面に粘土接 合痕	012-06
40	土師器 椀	SK10110	口径 高 (13.3) 3.4	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ・柱+後ナリ	密	良	浅黄橙10Y8/3	口縁部 5/12		012-08
41	土師器 皿B	SK10110	口径 底径 (2.7) 8.0	外周ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	浅黄橙7.5Y8/6	脚部 はげ充形		012-05
42	土製品 土鍋	SK10110	長さ 幅 (6.2) 2.7	柱+後ナリ	密	良	浅黄橙10Y8/4		重量40g	012-11
43	*土師器 台付小皿	SK10097	口径 高 底径 (10.1) 2.8 4.5	口縁部ヨコナリ 貼付高台	密	良	橙7.5Y7/6	台部 はげ充形		002-05
44	*土師器 台付小皿	SK10097	口径 高 (8.3) 4.3	口縁部ヨコナリ 柱+後ナリ 内面ヨコナリ	やや 粗	良	橙7.5Y7/6	口縁部 2/12	内面に布目压 痕	002-06
45	土師器 小皿	SK10097	口径 高 (10.6) 1.8	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	やや 粗	良	明黃鉛10Y7/6	口縁部 4/12	口縁へ内面に 油漬痕	002-04
46	土師器 小皿	SB10089	口径 高 (10.2) 1.4	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	やや 粗	良	淡黄2.5Y8/3 (黒斑部:暗灰黄 2.5Y5/2)		完形	005-01
47	土師器 小皿	SB10089	口径 高 (9.4) 2.0	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ・柱+後ナリ	やや 粗	良	淡黄橙10Y8/3	はげ充形		005-05
48	土師器 小皿	SB10077	口径 高 (9.6) 1.5	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面風化により調整不明	粗	良	淡黄2.5Y8/3 ~暗灰黄2.5Y5/2	口縁部 5/12		006-06
49	土師器 杯A	SB10077	口径 高 (13.8) 3.4	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	粗	良	外:浅黄鉛10Y8/4 内:にぶい黄根10Y7/2	口縁部 6/12		006-05
50	土師器 小皿	s9 p2	口径 高 9.4 2.1	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密	良	淡黄橙10Y8/3 (黒斑部:灰黃鉛10Y6/2)		完形	005-06
51	*土師器 小皿	s9 p2	口径 高 9.1 1.6	口縁部ヨコナリ 底部系切	密	良	灰白2.5Y8/2		完形	005-07
52	土師器 小皿	SK10101	口径 高 7.9 1.2	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	やや 粗	良	にぶい黄根10Y8/3	口縁部 8/12	内面に工具? による工具 当り痕	010-06
53	陶器 碗(山茶碗)	SK10101	底径 高 (7.4) 2.5	体部ヨコナリ 底部系切 貼付高台	密	良	灰白10Y7/1	底部 6/12	高台に柱+後ナ リ	010-07
54	土師器 小皿	SK10104	口径 高 10.2 2.0	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	粗	良	浅黄橙10Y8/3		内面に工具? による工具 当り痕	010-02
55	土師器 小皿	SK10104	口径 高 (9.2) 1.2	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	密密	良	橙7.5Y7/6	口縁部 3/12		010-03
56	土師器 小皿	SK10104	口径 高 (10.2) 1.2	口縁部ヨコナリ 外面ヨコナリ・柱+後ナリ 内面ヨコナリ	細密	良	橙7.5Y7/6	口縁部 4/12		010-04

第Ⅱ-5表 第159次調査遺物観察表②

番号	器種 器形	埋蔵 構造	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
57	土師器 台付小皿	SK10103	径 高 5.9 2.7	体部ヨリ? 底部糸切 貼付高台	密	良	黄橙2.5YR7/8	底部完形		010-08
58	土師器 碗A	SK10100	口径 高 8.3 3.8	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面? ポジ	粗	やや 不良	淡黄2.5YR8/3 ～淡黄2.5YR7/3	口縁部 6/12		008-02
59	土師器 碗A	SK10100	口径 高 14.6 3.7	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面? ポジ	やや 良	にふり、黄橙10YR7/4 ～灰15Y4/1	はげ完形	内外面に大き く黒変		001-04
60	土師器 小皿	SK10100	口径 高 8.6 1.3	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面? ポジ	やや 良	にふり、黄橙10YR7/3	口縁部 6/12			008-03
61	土師器 小皿	SK10100	口径 高 9.7 1.8	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面? ポジ	やや 粗	良	淡黄橙10YR8/4			001-09
62	土師器 小皿	SK10100	口径 高 9.3 1.5	体部ヨリ? 底部糸切	密	良	淡黄橙10YR8/4	口縁部 4/12		001-08
63	土師器 小皿	SK10100	口径 高 8.6 1.4	体部ヨリ? 底部糸切	密	良	灰白10YR8/2	完形		001-07
64	土師器 小皿	SK10100	口径 高 9.8 1.8	体部ヨリ? 底部糸切	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 9/12		001-06
65	陶器 碗(山茶碗)	SK10100	底径 高 8.4 2.7	体部ヨリ? 貼付高台	密	良	灰白2.5Y7/1	高台 8/12		002-03
66	土師器 杯	SD10090	口径 高 (13.6) 2.9	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	にふり、黄橙10YR7/4	口縁部 3/12		014-06
67	土師器 杯	SD10090	口径 高 (14.8) 2.9	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 3/12		014-05
68	土師器 小皿	SD10090	口径 高 8.0 1.6	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	寒	橙7.5YR7/6	完形		014-04
69	土師器 杯	SK10114	口径 高 13.0 2.2	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙5YR7/6	口縁部 6/12		003-04
70	土師器 杯	SK10114	口径 高 13.5 2.5	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	外面: 橙5YR7/6～淡黄 10YR8/3 内面: 橙5YR7/6	口縁部 10/12		003-02
71	土師器 杯	SK10114	口径 高 13.8 2.5	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 3/12	外面に粘土斑 痕	003-06
72	土師器 杯	SK10114	口径 高 13.2 2.4	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	淡黄2.5YR8/3	口縁部 6/12	外面に粘土斑 痕	003-03
73	土師器 杯	SK10114	口径 高 12.9 2.5	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 4/12	外面に粘土斑 痕	003-05
74	土師器 杯	SK10114	口径 高 14.0 2.4	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	淡黄橙10YR8/3	口縁部 3/12	外面に粘土斑 痕	003-09
75	土師器 杯	SK10114	口径 高 12.8 2.7	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	黄橙10YR8/6	口縁部 3/12		003-08
76	土師器 杯	SK10114	口径 高 14.45 2.75	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	淡黄橙10YR8/4	口縁部 3/12		003-01
77	土師器 小皿	SK10114	口径 高 7.9 13	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	淡黄橙10YR8/4	完形		004-04
78	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.0 1.35	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 9/12	外面に粘土斑 痕	004-07
79	土師器 小皿	SK10114	口径 高 7.8 1.7	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	淡黄橙2.5YR8/4	口縁部 6/12		004-02
80	土師器 小皿	SK10114	口径 高 7.9 1.3	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 6/12		003-10
81	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.2 1.3	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 6/12		003-11
82	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.0 1.05	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	淡黄2.5YR8/3	口縁部外側 5/12	口縁部外側に 油迹か?	004-13
83	土師器 小皿	SK10114	口径 高 7.8 1.4	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙5YR7/6	口縁部 6/12	外面に粘土斑 痕	004-06
84	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.0 1.3	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR6/6	口縁部 7/12		004-05
85	土師器 小皿	SK10114	口径 高 7.0 1.25	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙5YR6/8	口縁部 6/12		004-01
86	土師器 小皿	SK10114	口径 高 7.9 0.95	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	淡黄5YR8/4	口縁部 6/12	外面に粘土斑 痕	004-12
87	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.1 1.5	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	明黄褐10YR7/6	口縁部 9/12	外面に粘土斑 痕	004-03
88	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.0 1.3	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 9/12		004-08
89	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.0 1.1	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	淡黄橙2.5YR8/6	口縁部 6/12		004-09
90	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.7 1.7	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 6/12		004-14
91	土師器 小皿	SK10114	口径 高 8.0 1.0	口縁部ヨリ? 外面糸切後? 内面?	密	良	橙7.5YR6/6	はげ完形		004-10

第II-6表 第159次調査遺物観察表③

番号	器種 器形	地区 遺構	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
92	灰釉陶器 皿	SD10093	径高 6.7	1.9 体部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\ominus\ominus\ominus$ 贼付高台	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部 11/12		014-02
93	々々上頭器 台付皿	SD10093	径高 底径 (4.2)	2.7 体部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\ominus\ominus\ominus$	密	良	浅黄褐7.5Y8E/6	底部 6/12		014-03
94	須彌 壇A	SD10093	径高 10.7	2.7 口縁部 $\oplus\ominus\ominus$ 体部外面 $\oplus\ominus\ominus$ 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$ 贊付	密	良	素地:灰白2.5Y7/1 軸:暗紺 $\ominus$ 5Y4/3	口縁部 4/12		014-01
95	灰釉陶器 設置	59 p50	径高 底径 (7.4)	3.6 口縁部 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$ 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$ 贊付高台	密	良	素地:灰白2.5Y8/1 軸:土 $\ominus$ 黄7.5Y6/3	底部 5/12	灰釉 $\oplus\ominus\ominus$ 高台に剥離痕	006-02
96	須彌壇	58 p41	径高 11.6	2.5 口縁部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\ominus\ominus\ominus$ 贊付	密	良	外面:灰黄2.5Y6/2 内面:灰白5Y8/1	口縁部 2/12		013-05
97	土師器 台付皿	59 p12	底径 3.6	10.4 外面 $\oplus\ominus\ominus$ 内面板 $\oplus\ominus\ominus$	やや粗	良	外面:輕SY7/6 内面:にぶん黄褐 10Y8T/3	底部 ほぼ完形		006-01
98	陶器 (山茶碗)	77 p8	径高 7.0	16.4 口縁部 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$ 内面板 $\oplus\ominus\ominus$ 贊付高台	密	良	にぶん黄褐10Y8T/2	底部完形 口縁部 3/12		006-03
99	灰釉陶器 皿	56 p13	径高 2.5	14.8 口縁部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$ 贊付高台	密	良	素地:灰白2.5Y7/1 軸:にぶん黄褐 2.5Y6/3	口縁部 4/12	外底面に墨書き	006-04
100	灰釉陶器 皿	57 p7	径高 7.2	15.1 口縁部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$ 贊付高台	密	良	素地:灰色2.5Y7/1 軸:灰E2.5Y8/2 土 $\ominus$ 灰E2.5Y6/2	6/12 ~灰E2.5Y6/2	外底面にヘラ 記号 軸 $\oplus\ominus\ominus$	005-03
101	白磁 桶	南 包含層	径高 3.5	15.0 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	やや粗	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白5Y7/1	口縁部 1/12		019-07
102	白磁 桶	南 包含層	径高 2.5	外面 $\oplus\ominus\ominus$	粗	良	素地:灰白5Y7/1 軸:灰白5Y7/2	口縁部 小片		019-08
103	白磁 桶	55 包含層	径高 2.4	外面 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白5Y7/1	口縁部 小片		019-06
104	白磁 桶	包含層	径高 4.3	16.6 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:E9/ 軸:灰白2.5Y8/1	口縁部 1/12		019-09
105	白磁 桶	57 包含層	径高 4.0	内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:E9/ 軸:灰白2.5Y7/1	口縁部 小片		019-10
106	白磁 桶	55 包含層	径高 3.4	内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白2.5Y7/1	口縁部 小片		020-02
107	白磁 小桶	56 包含層	径高 3.3	体部 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白5Y8/1	口縁部 小片		020-09
108	白磁 皿	包含層	径高 2.4	11.3 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	やや粗	良	素地:灰白2.5Y8/1 軸:灰白2.5Y8/1	口縁部 2/12		019-11
109	白磁 皿	58 包含層	径高 2.5	内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	やや粗	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白2.5Y8/2	口縁部 小片		020-04
110	白磁 皿	56 包含層	径高 2.1	口縁部 $\cdot$ 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白5Y7/1	口縁部 小片	内面團線	020-03
111	白磁 皿	525 包含層	径高 2.3	口縁部 $\cdot$ 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:白/ 軸:灰白5Y7/2	口縁部 小片	内面團線	020-05
112	白磁 桶	包含層	長 3.2	外面部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$ 軸	密	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白2.5Y8/1	体部小片	内面劃花文	019-04
113	白磁 皿	南 包含層	径高 3.4	0.8 内外面 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$	やや粗	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白5Y8/2	底部完存	底面墨痕	020-06
114	白磁 皿	18 包含層	径高 2.5	2.9 内外面 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$	やや粗	良	素地:灰白5Y8/1 軸:灰白5Y8/2	体部小片	外邊連弁文	019-03
115	白磁 桶	16 包含層	径高 5.4	4.9 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$	やや粗	良	素地:灰白2.5Y7/1 軸:灰E2.5Y7/1	高台部 6/12		019-01
116	青磁 皿	96 包含層	径高 4.8	15.7 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:灰E2.5Y7/2 軸:浅黄2.5Y7/3	口縁部 2/12	越州窯系	020-10
117	青磁 皿	19 包含層	径高 1.8	9.7 内面 $\oplus\ominus\ominus$ 外面 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:灰白5Y7/1 軸:灰E2.5Y7.5Y6/2	口縁部 2/12		020-07
118	青磁 桶	南 包含層	径高 3.0	3.0 体部 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:灰白2.5Y7/1 軸:綠E7.5Y6/1	口縁部 小片		020-08
119	青磁 桶	17 包含層	径高 (7.6)	2.1 内面 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	素地:灰白5Y7/1 軸:土 $\ominus$ 黄5Y6/3	底部 1/12	越州窯系	019-02
120	須彌 壇	58 包含層	口径 4.8	3.9 体部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部 $\oplus\ominus\ominus$ 贊付後 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	灰白2.5Y7/1	完形		017-01
121	土製品 土鍋	56 包含層	長 1.5	5.4 体部 $\oplus\ominus\ominus$ 贊付	密	良	浅黄褐10Y8E/3	完形		017-04
122	土製品 土鍋	610 包含層	長 2.5	5.7 体部 $\oplus\ominus\ominus$ 贊付	やや粗	良	粗7.5Y8E/6	完形		017-03
123	土師器 脚	58 包含層	径高 5.0	4.0 土 $\oplus\ominus\ominus$ 脚 $\oplus\ominus\ominus$	密	良	粗7.5Y8E/6	脚部のみ		019-05
124	銅製品 輪軸?	58 p10往	長 0.7	3.3 1.8 0.7				ほぼ完形		020-11

第II-7表 第159次調査遺物観察表④



調査区北半(北から)



調査区南半(北から)

写真図版 II - 2 第 159 次調査 遺構（2）



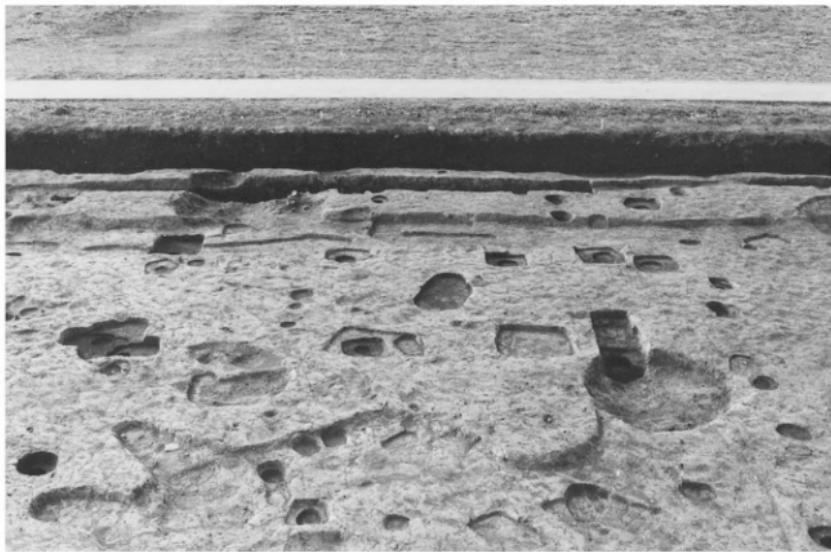
区画道路（南から）



区画道路（北東から）

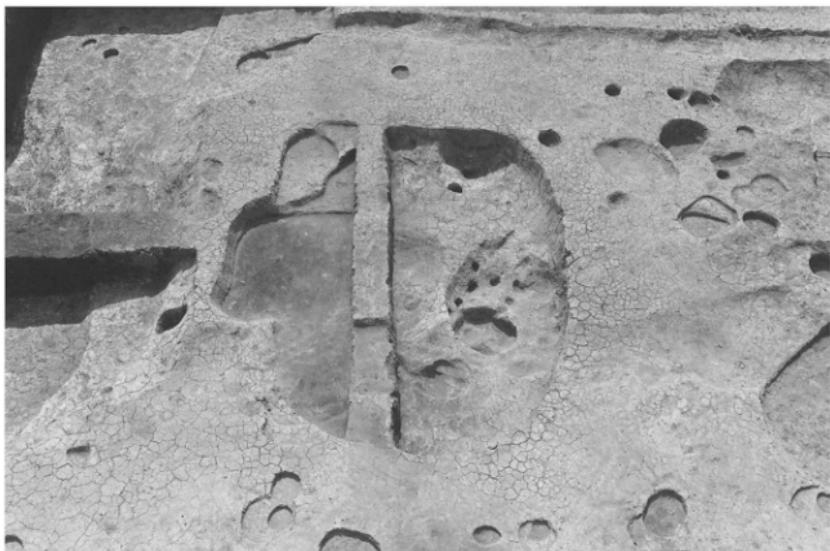


据立柱建物群(南から)



S B 10060・10061(東から)

写真図版 II - 4 第 159 次調査 遺構 (4)



SK 10108 (東から)



SK 10109・10110・10111 (南から)



古代伊勢道南側溝 S D 10002 (西から)



S8Pit40 遺物出土状況 (東から)

写真図版 II - 6 第 159 次調査 遺構 (6)

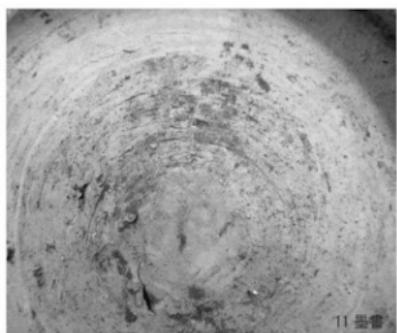


S9Pit2遺物出土状況(東から)

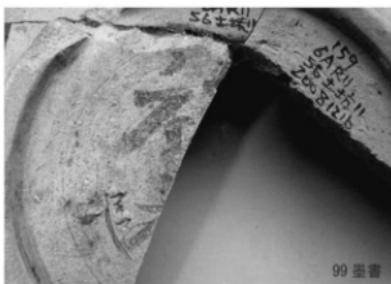


S B 10087遺物出土状況(東から)

写真図版 II - 7 第 159 次調査 遺物 (1)



写真図版 II - 8 第 159 次調査 遺物 (2)



### III 第163次調査 (6ARI1 柳原地区)

#### 1はじめに

第163次調査は、平成21年度の第4回目の計画調査として、方格地割の牛葉東区画で実施した。調査区は、第159次調査区と町道を挟んだ南側に位置し、「内院」とされる牛葉東区画の北東隅にあたる。隣接地では、東側で昭和54年度に広域圏道路建設に伴う第10次調査、南側で平成8年度に第114次調査が実施され、ひらがな墨書き土器を含む大量の土器などが出土している。

内院とされる牛葉東区画では、平安時代後期になると、それまで区画の全体を囲んでいた掘立柱塀が廃絶し、構によって小区画が構成されることが明らかになっている。今回の調査は、その構の状況や土里あるいは築地施設の有無を確認することを目的として実施した。

調査面積は東西4m×南北6mの24m<sup>2</sup>で、調査期間は途中の中断期間も含め、平成21年8月4日から平成22年1月15日までである。

#### 2地形と層位

調査地は、標高約10.9mで第159次調査区や広域圏道路を挟んだ東側の第44次調査区と比べ現況では約0.8m高くなっている。

調査区の基本層序は、表土（灰黄褐色土）の直下から大量の遺物が出土したが、遺構として確定できなかったため、遺構の検出は地表面から約0.6m掘り下げた黄褐色シルト層（地山）上面で行った。

#### 3遺構

今回の調査で検出した遺構には、溝4条・土坑1基がある。その他、いくつかの柱穴があるが、現段階では建物として確定できないため保留しておく。

**SK10115** 東西方向に設定した土層観察用の畦の南側で検出した。遺構の一部を検出したのでみて全体の規模等については不明である。比較的まとった量の土師器を中心とした土器類が出土しており、

III-2期に相当すると考えられる。

**SD10116～10119** 牛葉東区画を小区画する溝で、大量の土器を包含する。SD10116→SD10117→SD10118→SD10119の順に繰り返し掘削される。

SD10116はSD10117とSD10118とが重複するため、底部のわずかしか確認されていない。SD10117は推定で幅6m程度あったと考えられ、最も規模が大きい。上下2層に分けられ、上層では区画内部から大量の土器が投棄された状況が観察されている。SD10118はSD10117より北側に掘削される。底部で幅約1.2mを測る。出土遺物はあまり多くない。SD10119は、表土面から深さが約0.6mと浅くなるが、幅はSD10117と同程度であったと考えられる。

出土遺物等からSD10116～10118がIII-2～3期、SD10119がIII-4期に相当すると考えられる。

#### 4遺物

狭小な面積であるにも関わらず、整理箱170箱分の遺物が出土している。そのほとんどは土師器を中心とした土器類で、区画溝に投棄されたものである。

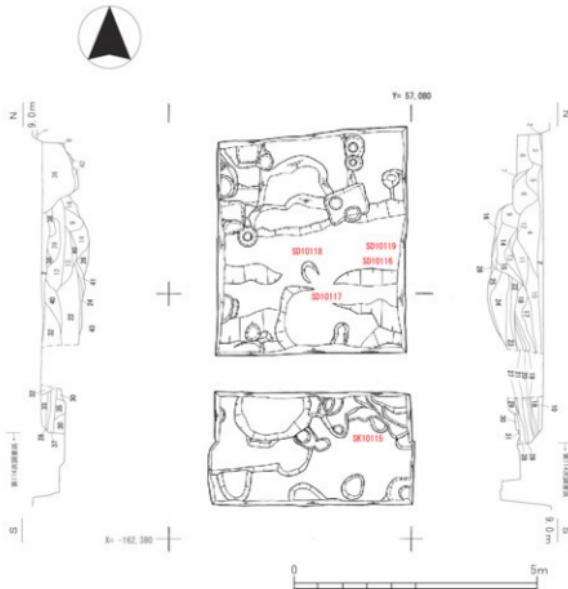
##### (1) III期の遺物

**SK10115出土遺物(1～23)** 土師器杯・台付皿・小皿、ロクロ土師器小皿・台付皿がある。土師器杯(1～4)のうち、(1～3)は器壁が厚く、口縁端部をヨコナデする。(4)は器壁が薄く、ヨコナデを施した口縁部が外反する。台付杯(5)の脚は厚みがある。

q	r	s	t	u	v	w
						17
						18
						19
						20
						21
						22
						23
R-11						

第III-1図 第163次調査 大地区・グリッド図

(1:800)



- 1 灰黃褐色砂質土 (SD10112) (表土)  
 2 灰黃褐色砂質土 (SD10113) に上層部分多量含む  
 3 灰黃褐色砂質土 (7.0m) に上層部分少量含む  
 4 黑褐色砂質土 (SD1012) 0cm に上層部分多量含む  
 5 黑褐色砂質土 (SD1012) 0cm に上層部分多量含む  
 6 灰黃褐色砂質土 (SD1014) 0cm に上層部分多量含む  
 7 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分多量含む  
 8 黑褐色砂質土 (SD1012) 0cm に上層部分少量含む  
 9 黑褐色砂質土 (7.0m) 0cm に上層部分少量含む  
 10 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分多量含む  
 11 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10119)  
 12 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10119)  
 13 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む、しり抜い (SD10119)  
 14 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む、しり抜い (SD10118)  
 15 灰黃褐色砂質土 (7.0m) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 16 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10118)  
 17 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 18 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 19 灰黃褐色砂質土 (SD1012) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 20 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む、しり抜く (SD10117)  
 21 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 22 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 23 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 24 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 25 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 26 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に地山ブロック多量含む (SD10116)  
 27 29 cm に上層部分多量含む  
 28 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に地山ブロック多量含む (SD10116)  
 29 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む  
 30 29 cm に上層部分少量含む  
 31 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む  
 32 29 cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 33 29 cm に地山砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む  
 34 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 35 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 36 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 37 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 38 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 39 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 40 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 41 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 42 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)  
 43 灰黃褐色砂質土 (SD1013) 0cm に上層部分少量含む (SD10117)

第III-2図 第163次調査 遺構平面図・土壌断面図 (1:100)

遺構名	調査時 遺構名	グリ ッド	時 期	出 土 遺 物	備 考
SK10115	土坑1	t20	III - 2	土師器杯・皿・台付杯 ロクロ土師器杯・皿・台付皿	
SD10116	土坑13	t19	III - 2	土師器杯・甕 ロクロ土師器台付、灰釉陶器碗・皿	
SD10117	土坑5	t19	III - 3	土師器杯・皿・高杯 ロクロ土師器小碗・皿・台付皿 灰釉陶器皿	SD10116より新
SD10118	溝4	t19	III - 3	土師器杯・皿・高杯 白磁碗	SD10117より新
SD10119	溝1・ 土坑8	t19	III - 3	土師器杯・皿 ロクロ土師器皿・台付皿 灰釉陶器皿	SD10118より新

第III-1表 第163次調査 遺構一覧

小皿（6～12）は、形態的に杯と同じである。ロクロ土師器小皿（13～22）は口縁部が直線的に開くもの（14～19）と外反するもの（20～22）がある。（13）は底部がわずかに突出し口縁部が内彎する。台付皿（23）は杯部内外面および底部外面に墨書きがみられるが、内容については判読できない。III-2期に相当すると考えられる。

**SD 10116出土遺物（24～29）** 土師器小皿・甕、ロクロ土師器台付皿、灰釉陶器がある。土師器甕（25）は口縁端部をヨコナデし、内側が凹む。ロクロ土師器台付皿（26）は柱状高台である。灰釉陶器（27～29）は底部のみ残る。III-2期に相当すると考えられる。

**SD 10117出土遺物（34～52）** 土師器杯・小皿・高杯、ロクロ土師器小皿・台付皿・小碗、灰釉陶器がある。杯（34）は口径12.3cm、小皿（35～43）は口径8.8～9.6cmでいずれも口縁端部をヨコナデする。（42）は「て」字状口縁である。高杯（44）は口縁部が外反して開く杯部が残る。ロクロ土師器小皿（45・46）は口縁部が外反気味にのびる。台付小碗（48）は器壁が厚い。台付小皿（49～50）は柱状高台である。（51）は椀である。灰釉陶器皿（52）は低い高台がつく。土師器杯・小皿はSD 10115出土のものと比べ、器高が浅く、扁平になるなど新しい要素がみられるところから、III-3期に相当すると考えられる。

**SD 10118出土遺物（30～33）** 土師器小皿（30・31）は器高が低い。高杯（32）は灰白色の脚柱部のみ残る。（33）は白磁の椀である。III-3期に相当すると考えられる。

**SD 10119出土遺物（53～60）** 土師器杯（53・54）は底部が小さく、肥厚した口縁端部をヨコナデする。小皿（55～58）は器高が低く、扁平である。ロクロ土師器小皿（59）は杯部が浅く、底部は突出する。灰釉陶器皿（60）は径の小さい底部の外端に、外傾する高台が付く。III-4期に相当すると考えられる。（2）その他の遺物（61～163）

遺物包含層から出土した遺物である。

土師器杯（61～82）は口径15cm以下のもの（61～78）と、15cmを超えるもの（79～82）とがある。69～76は口縁部を強くヨコナデする。小皿（83～97）も杯と同様の形態を示す。（107～110）は「て」

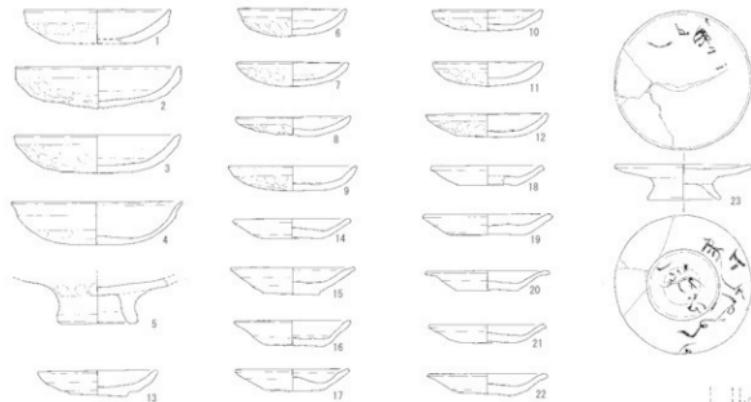
字状口縁である。台付皿（111～113）の116は扁平な皿に対し長い高台がつき、113は、斎宮跡では出土例の少ないコースター型である。ロクロ土師器皿（98～106）は口縁部が外反する（98～101）と直線的に開く（102～106）がある。ロクロ土師器台付皿（114～120）はのうち、114・115は柱状高台である。灰釉陶器（127～130）は小型壺（127）、椀（128～130）がある。椀の高台は、断面三角形で先端が尖る。（131）は陶器小皿、（132・133）は山茶碗である。（132）は低く扁平な高台が付き、（133）は高台が付かない。（134）は瓦器で底部のみ残る。（135）は瓦質土器である。（136）は土師器の鉢で、器壁が厚く底部に3本の脚が付いていたものと考えられる。輸入陶磁器（137～151）は65点出土しており、白磁が50点、青磁が15点ある。（152～154）は、土師器の台付小皿で、皿部内面に葉の痕跡が明瞭に残る。墨書き土器（155～159）には記号やひらがなと思われるものがある。（160）は、碁石サイズの緑色を呈する丸石である。（161）は一辺1.5cmの立方体を呈するさいころ形土製品である。角がやや丸くなり、形状からさいころと考えられる。第114次調査でも大小2個出土している。（162）は中国製の綠釉陶器の陶枕とみられ、五代～宋代のものと考えられる。<sup>①</sup>表面には印花もしくは線彫りによる文様が施されており、第10次調査で出したものと同一個体と考えられる。石皿（163）は片面が回んでおり、表面は顕著に磨耗している。

## 5まとめ

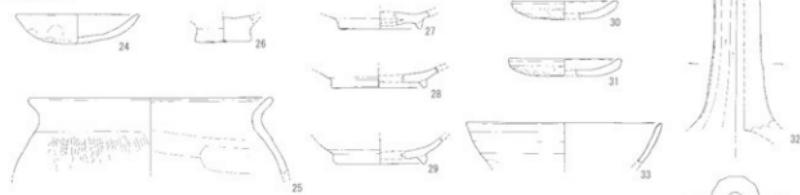
平安時代後期に牛葉東区画で小区画を構成する溝の時期については、すでに『発掘調査報告書Ⅰ』でも述べられているように、III-2期に埋没が始まり、最終的にはIV期の段階で大量の土器類が廃棄され消滅する。今回の調査では、III-2期の土坑SK 10115埋没後に掘削されたSD 10116～10118はIII-2～3期に相当し、最終段階のIII-4期になってSD 10119が埋没しており、あらためて確認することができた。

今回の調査区は第114次調査区との重複部分も含め、わずか24m<sup>2</sup>と斎宮跡の発掘調査で設定される一辺4m四方を単位とする小区画の1.5区画分にす

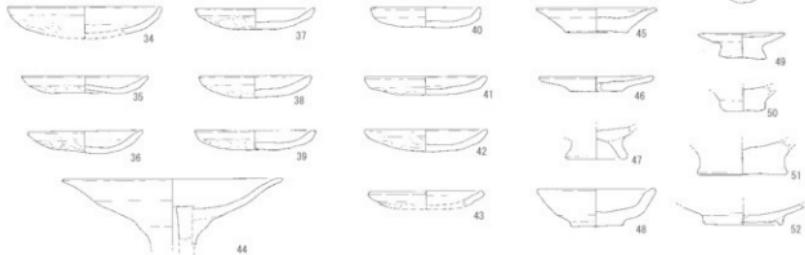
1~23: SK10115



24~29: SD10116



34~52: SD10117

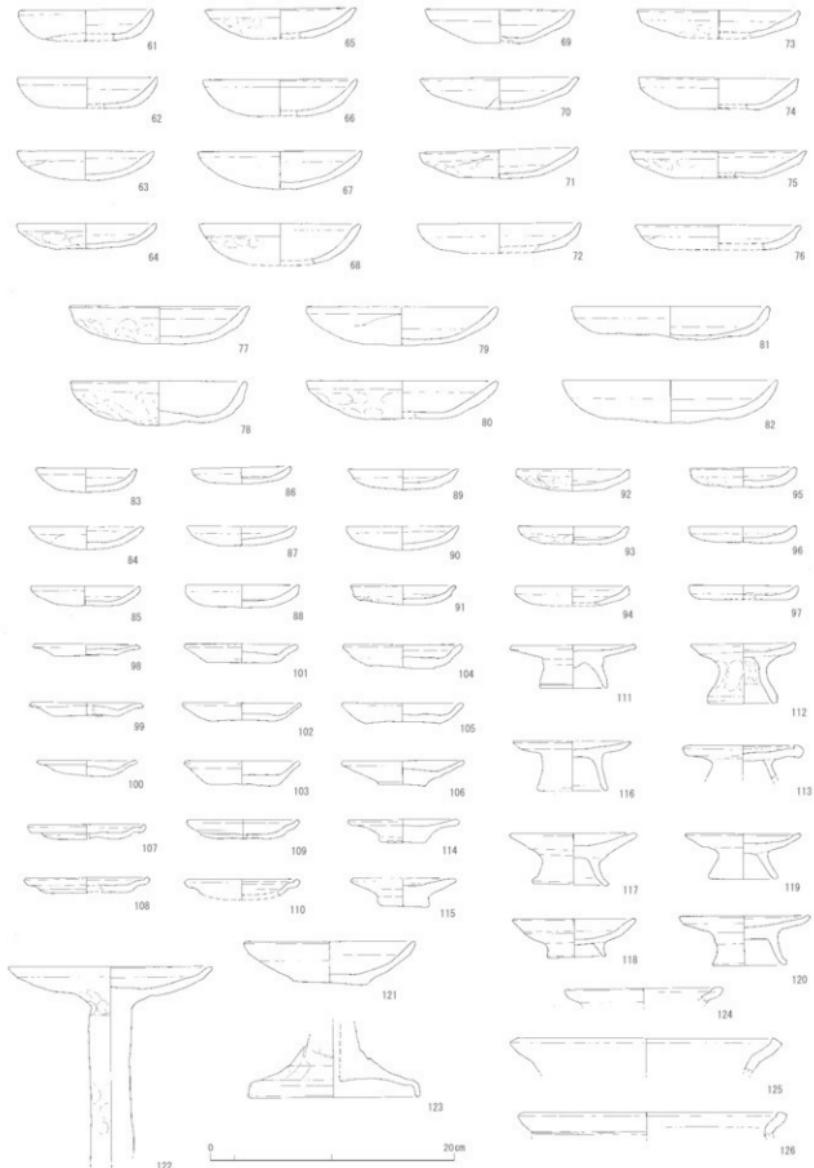


53~60: SD10119

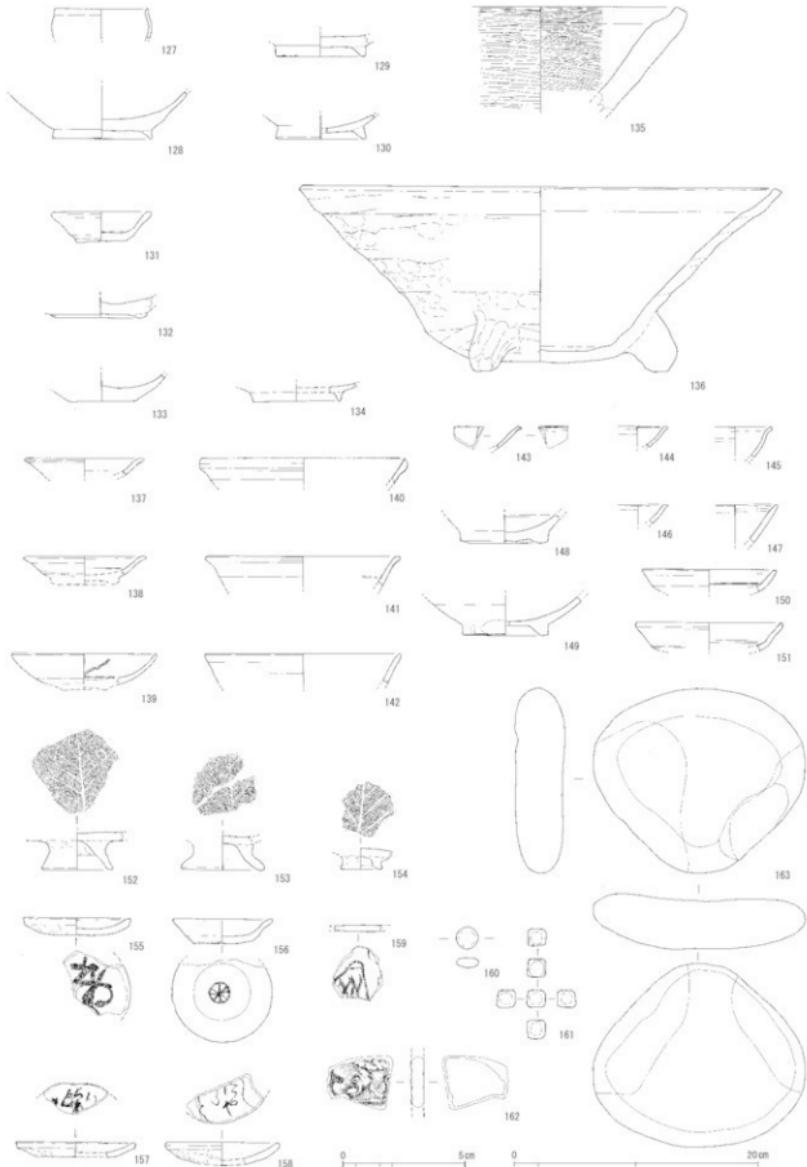


第III-3図 第163次調査 出土遺物実測図①(1:4)

61～163：包含層



第III-4図 第163次調査 出土遺物実測図②(1:4)



第三-5図 第163次調査 出土遺物実測図③(1:4)162のみ(1:2)

ぎない。それにもかかわらず、整理箱で170箱分もの大量的土器が出土した。過去の第10次・第114次調査においても大量の土器が出土しているが、それらを上回るものである。これらの土器は、平安時代後期に牛糞東区画を小区画に細分する溝に投棄されたもので、土層断面の観察からは、土器を包含する層が幾重にも堆積しており、複数回にわたって土器を投棄していった状況が窺われる。

一方で、今回の調査では表土直下から大量の土器が出土することから、土層断面の観察や遺物の包含状況の違いなどをもとに早い段階での遺構の把握に努めたが、十分に見極めることができず、結果的に通常の調査時のように地山上面での遺構検出とな

り、遺物の出土状況等、溝の埋没状況を検討するうえで必要なデータを十分得ることができなかつた。次年度以降にも今年度調査区の続きを調査する予定になつてるので、これらの点に留意し、慎重かつ確実な調査を実施したい。

(角正芳浩)

### 【註】

①京都橘大学の鷲淳一郎、弓場紀知両氏のご教授による。

番号	器種	地区 遺構	法量 (cm)	調査 技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
1	土師杯	SK10115	口径高 (11.8) 2.8	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面付 <sup>1/3</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 3/12		025-02
2	土師杯	SK10115	口径高 (13.4) 3.4	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面 <sup>1/3</sup>	やや粗	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 3/12		025-04
3	土師杯	SK10115	口径高 (13.4) 3.1	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面 <sup>1/3</sup>	やや粗	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 4/12		025-03
4	土師杯	SK10115	口径高 (13.9) 3.5	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面 <sup>1/3</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 3/12		025-01
5	土師器 台付杯	SK10115	残高 3.7 内面 3.8	外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面付 <sup>1/3</sup> 台面 <sup>1/3</sup> 底面 <sup>1/3</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/4	台部完存		026-12
6	土師器 小皿	SK10115	口径高 8.6 内面 2.9	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup>	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	111#完形		025-08
7	土師器 小皿	SK10115	口径高 (8.8) 2.0	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面 <sup>1/3</sup>	やや粗	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 5/12		025-06
8	土師器 小皿	SK10115	口径高 9.2 内面 1.6	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面 <sup>1/3</sup>	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/4	完形		030-08
9	土師器 小皿	SK10115	口径高 10.5 内面 2.0	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面 <sup>1/3</sup>	やや粗	良	淡黄 2.5Y8/3	完形		030-07
10	土師器 小皿	SK10115	口径高 8.8 内面 1.7	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面付 <sup>1/3</sup>	密	良	黄橙 7.5YR7/8	口縁部 6/12		026-01
11	土師器 小皿	SK10115	口径高 8.7 内面 2.6	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面 <sup>1/3</sup>	やや粗	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 5/12		025-07
12	土師器 小皿	SK10115	口径高 9.7 内面 1.9	口縁部 <sup>2/3</sup> 外面付 <sup>2/3</sup> 後付 <sup>1/3</sup> 内面 <sup>1/3</sup>	やや粗	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 11/12		025-05
13	土師器 小皿	SK10115	口径高 9.5 内面 2.1	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	密	良	概 5YR6/6	口縁部 7/12	内面に墨痕	026-08
14	土師器 小皿	SK10115	口径高 (9.2) 4.7	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 3/12		026-03
15	土師器 小皿	SK10115	口径高 (9.9) 4.5	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	粗	良	明黄橙 10YR7/6	口縁部 4/12		026-10
16	土師器 小皿	SK10115	口径高 (9.3) 4.9	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	密	やや不良	概 7.5YR7/6	完形		026-07
17	土師器 小皿	SK10115	口径高 8.9 内面 4.8	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 7/12		026-02
18	土師器 小皿	SK10115	口径高 (8.8) 4.8	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 4/12		026-04
19	土師器 小皿	SK10115	口径高 (10.2) 6.0	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	密	良	にぶい黄 7.5YR7/4	口縁部 6/12		026-11
20	土師器 小皿	SK10115	口径高 (9.0) 5.0	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 3/12		026-09
21	土師器 小皿	SK10115	口径高 (9.2) 4.4	体調 <sup>2/3</sup> 底付 <sup>1/3</sup>	密	良	概 5YR6/8	口縁部 5/12		026-05

第III-2表 第163次調査 出土遺物観察表①

番号	器種形	出土場所	法量 (cm)	調整 技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
22	土器部 小皿	SK10115	口径 底径 9.5 4.8	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切	密	良	橙 5YR8/6	口縁部 10/12		026-06
23	土器部 台付小皿	SK10115	口径 底径 10.9 5.7	体部 <sup>△△△</sup> 台部 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	浅黄緑 10YR8/4	ほぼ完形	内外面に墨書き	037-01
24	土器部 小皿	SD10116	口径 底径 9.8 2.4	口縁部 内面 <sup>△△△</sup> 外面付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	やや 不良	浅黄緑 10YR8/4	全体の 6/12	器面磨耗著し い	029-02
25	土器部 壺	SD10116	口径 底径 10.9 6.4	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部 <sup>△△△</sup> 内面工具 <sup>△</sup>	密	不良	浅黄緑 10YR8/4	口縁部 2/12		029-01
26	土器部 台付皿	SD10116	口径 底径 2.1 4.5	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切	やや 粗	良	淡黄 2.5Y8/3	底部完存		028-14
27	灰釉陶器 碗	SD10116	口径 底径 1.5 (6.6)	体部 <sup>△△△</sup> 高台 <sup>△△△△</sup>	密	良	素地・灰白 2.5Y7/1 釉：オリーブ緑 2.5Y4/3	底部 4/12	底部に焼き付 くれ	028-12
28	灰釉陶器 皿	SD10116	口径 底径 1.7 (7.4)	体部 <sup>△△△</sup> 高台 <sup>△△△△</sup> 底部糸切	やや 粗	良	浅黄 2.5Y6/2	底部 4/12		028-11
29	灰釉陶器 碗	SD10116	口径 底径 2.2 (7.2)	体部 <sup>△△△</sup> 高台 <sup>△△△△</sup>	密	良	素地・灰白 2.5Y7/2 釉：浅黄 5Y 7/3	底部 3/12		028-13
30	土器部 小皿	SD10118	口径 底径 8.4 2.5	口縁部 <sup>△△△</sup> 体部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 3/12		29-07
31	土器部 小皿	SD10118	口径 底径 9.0 2.5	口縁部 <sup>△△△</sup> 体部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	明黄緑 10YR7/6	口縁部 3/12		29-08
32	土器部 高杯	SD10118	口径 底径 11.4	ハラカ <sup>△△△</sup>	やや 粗	やや 不良	灰白 2.5Y8/2	脚柱部		29-06
33	白磁 碗	SD10118	口径 底径 17.8 3.4	口縁部 <sup>△△△</sup>	密	良	素地・灰白 5Y8/1 釉：灰白 10YR8/1	口縁部 1/12		32-04
34	土器部 杯	SD10117	口径 底径 12.3 2.0	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	浅黄緑 10YR8/3	口縁端油漬付 着		027-10
35	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 10.2 1.4	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	密	良	浅黄緑 10YR8/4	口縁部 4/12		027-13
36	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 9.2 1.8	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	密	良	浅黄緑 7.5YR8/4		完形	039-09
37	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 9.6 1.7	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	密	良	浅黄 2.5Y8/3	口縁部 2/12	外面に粘土接合部	027-14
38	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 9.0 1.8	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 8/12		027-11
39	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 9.6 1.6	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	粗	やや 不良	浅黄緑 10YR8/4	底部 4/12	器面磨耗著し い	027-09
40	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 8.8 1.6	口縁部 <sup>△△△</sup>	粗	不良	浅黄緑 10YR7/6	口縁部 7/12	器面磨耗著し い	027-15
41	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 9.7 1.5	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	浅黄緑 10YR8/3	口縁部 4/12		027-08
42	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 (8.9) 1.3	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	密	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 8/12	「て」の字状 口縁	028-04
43	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 9.9 1.8	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	浅黄緑 10YR8/3	口縁部 8/12		027-12
44	土器部 高杯	SD10117	口径 底径 (17.6) 5.4	口縁部 <sup>△△△</sup> 内面部付 <sup>△△△</sup>	密	良	橙 7.5YR7/6	脚柱部 8/12		028-05
45	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 (9.4) 2.6 (5.0)	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切	密	良	浅黄緑 10YR8/3	口縁部 4/12		028-07
46	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 (9.0) 1.2 (4.2)	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切	密	良	浅黄緑 10YR8/3	口縁部 2/12		028-09
47	土器部 台付小皿	SD10117	口径 底径 2.7 4.4	内面 <sup>△△△</sup> 底面 <sup>△△△</sup> 台部 <sup>△△△△</sup>	やや 粗	良	浅黄緑 10YR8/4	台部完存		028-08
48	土器部 台付小皿	SD10117	口径 底径 9.3 4.5	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切痕	やや 粗	良	浅黄緑 10YR8/4		器面磨耗	030-10
49	土器部 台付小皿	SD10117	口径 底径 6.5 3.8	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切	密	良	黄緑 10YR8/6	口縁部 8/12		028-03
50	土器部 台付小皿	SD10117	口径 底径 2.9 2.9	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切	密 やや 不良	良	浅黄緑 7.5YR8/4	底部はぼ 元存	器面磨耗著し い	028-02
51	土器部 小皿	SD10117	口径 底径 2.8 6.8	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切	密	良	橙 7.5YR7/6	底部はぼ 元存		028-01
52	灰釉陶器 碗	SD10117	口径 底径 1.7 6.0	体部 <sup>△△△</sup> 高台 <sup>△△△△</sup>	密	良	灰白 2.5Y8/1	底部 3/12		028-06
53	土器部 杯	SD10119	口径 底径 (11.8) 2.6	口縁部 内面 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	黄緑 10YR8/6	口縁部 2/12	口縁端油漬付 着	030-06
54	土器部 杯	SD10119	口径 底径 (13.6) 3.1	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	密	良	にふい黄緑 10YR7/4	口縁部 1/12		029-03
55	土器部 小皿	SD10119	口径 底径 (8.0) 1.6	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	浅黄 2.5Y7/2	口縁部 3/12	内面磨耗	030-04
56	土器部 小皿	SD10119	口径 底径 (8.5) 1.2	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	やや 粗	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 3/12		029-05
57	土器部 小皿	SD10119	口径 底径 8.29 1.6	口縁部 <sup>△△△</sup> 外面部付 <sup>△△△</sup>	密	良	橙 5YR6/8	口縁部 3/12	内面磨耗	030-03
58	土器部 小皿	SD10119	口径 底径 (9.2) 1.2	口縁部 <sup>△△△</sup> 体部外面部付 <sup>△△△</sup>	密	良	にふい黄緑 10YR7/4	口縁部 3/12		030-05
59	土器部 小皿	SD10119	口径 底径 (8.6) (1.5) (4.0)	体部 <sup>△△△</sup> 底部糸切痕	密	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 3/12		030-02

第III-3表 第163次調査 出土遺物観察表②

番号	器種	埋立場	法量 (cm)	調整 技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
60	灰釉陶器底	SD10119	段高 底延長 6.3	体部 $\oplus\ominus\ominus$ 高台 $\parallel\parallel\parallel$ 底部系切	密	良	灰白 2.5YR8/2	高台部 10-12		030-01
61	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 16.8 2.5	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	灰白 10YR8/2	口縁部 4-7	外面上に粘土接合部	011-12
62	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 11.2 2.7	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	灰白 10YR8/2	口縁部 5-12	外面上に粘土接合部	022-02
63	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 11.1 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	褐 7.5YR7/6	完形		024-01
64	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 11.1 2.7	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 7.5YR8/6	口縁部 9-12	底部に粘土接合部	008-05
65	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.2 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	黄灰 2.5Y5/1	口縁部 2-12		018-13
66	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.5 3.0	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/3	口縁部 5-12		002-01
67	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 13.3 3.1	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	灰白 10YR8/2	口縁部 4-7		022-01
68	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.9 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	にいし黄 10YR7/3	口縁部 5-12		014-12
69	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.1 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	褐 7.5YR7/6	口縁部 4-12		019-14
70	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.5 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	にいし黄 10YR7/4	口縁部 2-12	外面に粘土接合部	015-08
71	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.2 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/3	口縁部 5-12	外面に粘土接合部	012-13
72	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 13.2 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	褐 5YR6/6	口縁部 4-12		014-09
73	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.9 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	にいし褐 7.5YR7/4	口縁部 5-12		018-15
74	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.5 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/3 裏面は 黒 5Y2/1	口縁部 5-12	内面調整不明	019-10
75	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 14.2 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	淡黄 2.5Y8/3	口縁部 3-12		009-06
76	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 13.0 2.0	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	黄褐 7.5YR8/6	口縁部 2-12	外面に粘土接合部	007-13
77	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 14.5 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	やや粗	良	淡黄 2.5Y8/3	口縁部 4-12		031-03
78	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 14.1 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	やや粗	良	淡黄 2.5Y8/3	口縁部 4-12		031-01
79	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 15.3 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	にいし黄 10YR7/4	口縁部 4-12		023-04
80	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 15.0 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	にいし褐 7.5YR7/4	口縁部 4-12		005-02
81	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 15.8 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/3	口縁部 3-12		005-04
82	土師器 体	U9 包合層	口径 底延長 12.3 2.4	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/4	口縁部 5-12		007-01
83	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.9 1.9	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	にいし黄 10YR8/3	口縁部 5-12		019-04
84	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.6 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/3	口縁部 5-12	外面に粘土接合部	019-06
85	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.6 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/3	口縁部 5-12		021-08
86	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.9 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	褐 5YR6/6	口縁部 4-12	外面に粘土接合部	021-10
87	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 20.2 0.9	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/3	口縁部 2-12	外面保付着	008-06
88	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 20.3 0.9	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 内面付 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 7.5YR8/4	口縁部 2-12	外面保付着	022-05
89	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 18.9 0.9	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/4	口縁部 5-12		006-11
90	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 9.0 2.0	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 5-12		006-01
91	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.7 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/4	口縁部 5-12		007-11
92	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.9 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	やや粗	良	淡黄 2.5Y8/4	完形		031-15
93	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.6 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	淡黄 2.5Y8/4	口縁部 9-12		006-15
94	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 9.1 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 10YR8/4	口縁部 11.2	外面上に粘土接合部	012-12
95	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.6 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	やや粗	良	淡黄 2.5Y8/3	完形		036-01
96	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.7 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	浅黄褐 7.5YR8/6	口縁部 8-12		004-07
97	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.4 1.6	口縁部 $\parallel\parallel\parallel$ 外面付 $\parallel\parallel\parallel$ 内面部 $\parallel\parallel\parallel$	密	良	にいし褐 7.5YR7/4	口縁部 4-12		012-10
98	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.6 5.0	体部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部系切	密	良	褐 7.5YR7/6	口縁部 11.2	はく完形	004-13
99	土師器 小皿	U9 包合層	口径 底延長 8.8 5.0	体部 $\oplus\ominus\ominus$ 底部系切	密	良	にいし褐 7.5YR7/4	口縁部 7-12		020-02

第III-4表 第163次調査 出土遺物観察表③

番号	器種 形形	形状 構造	法量 (cm)	調整 技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
100	土師器 小皿	包合層 底板	t19 (7.7) 3.5	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	にごい橙 7.5YR7/4	口縁部 2/12		005-08
101	土師器 小皿	包合層 底板	t19 8.9 5.6	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	やぶ 粗	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 9/12		031-04
102	土師器 小皿	包合層 底板	t19 9.0 5.2	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 3/12		019-15
103	土師器 小皿	包合層 底板	t19 9.0 5.2	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 2/12		019-03
104	土師器 小皿	包合層 底板	t20 9.5 5.1	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	橙 5YR7/8	完形		002-06
105	土師器 小皿	包合層 底板	t20 9.0 6.0	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 4/12		006-04
106	土師器 小皿	包合層 底板	t20 9.6 5.7	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	にごい黄橙 10YR7/4	口縁部 6/12		006-08
107	土師器 小皿	包合層 底板	t20 9.2 5.2	口縁部 内面 <sup>コハラ</sup> 外面 <sup>ハナフ</sup>	密	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 5/12	「て」字跡口	011-06
108	土師器 小皿	包合層 底板	t20 9.9 5.3	口縁部 <sup>コハラ</sup> 外面 <sup>ハナフ</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 2/12	「て」字跡口	018-02
109	土師器 小皿	包合層 底板	t20 9.8 5.5	口縁部 <sup>コハラ</sup> 外面 <sup>ハナフ</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 4/12	「て」字跡口	006-03
110	土師器 小皿	包合層 底板	t20 8.9 4.4	口縁部 <sup>コハラ</sup>	密	良	にごい黄橙 10YR7/2	口縁部 5/12	「て」字跡口	006-13
111	土師器 台付小皿	包合層 底板	t19 10.0 3.4	体部 台部 <sup>ハナフ</sup>	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 2/12		004-15
112	土師器 台付小皿	包合層 底板	t19 8.2 4.9 (5.2)	口縁部 <sup>コハラ</sup> 台部 <sup>ハナフ</sup> 後 <sup>ハナフ</sup>	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	量部 <sup>ハナフ</sup> 元存		031-12
113	土師器 台付小皿	包合層 底板	t20 8.7 2.7	口縁部 <sup>コハラ</sup> 内面 <sup>ハナフ</sup> 台部 <sup>ハナフ</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/3	量部 <sup>ハナフ</sup> 元存 台部 3/12	コーラー型	036-06
114	土師器 小皿	包合層 底板	t20 8.7 3.5	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 9/12		008-07
115	土師器 小皿	包合層 底板	t20 8.3 3.75	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 11/12		014-06
116	土師器 台付小皿	包合層 底板	t19 9.5 5.4	体部 台部 <sup>ハナフ</sup>	密	良	橙 5YR7/6	口縁部 2/12		017-01
117	土師器 台付小皿	包合層 底板	t19 9.9 5.9	体部 台部 <sup>ハナフ</sup>	密	良	橙 5YR7/6	量部 <sup>ハナフ</sup> 台部 9/12		036-05
118	土師器 台付小皿	包合層 底板	t19 9.6 4.1	口縁部 <sup>コハラ</sup> 外面 <sup>ハナフ</sup> 後 <sup>ハナフ</sup> 内面 <sup>ハナフ</sup> 底部 <sup>ハナフ</sup>	密	良	にごい橙 7.5YR7/4	口縁部 6/12		013-08
119	土師器 台付小皿	包合層 底板	t19 9.0 5.5	口縁部 <sup>コハラ</sup>	密	良	浅黄橙 7.5YR8/6	口縁部 11/12 4/12		004-06
120	土師器 台付小皿	包合層 底板	t19 10.3 4.1 5.7	台部 <sup>ハナフ</sup>	密	良	にごい橙 7.5YR7/4	口縁部 7/12		005-05
121	土師器 杯	包合層 底板	t20 13.7 3.5 5.9	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 5/12		002-05
122	土師器 高杯	包合層 底板	t20 16.4 16.0	口縁部 <sup>コハラ</sup> 外面 <sup>ハナフ</sup> 内面 <sup>ハナフ</sup> 脚部 <sup>ハナフ</sup> ハナフ <sup>ハナフ</sup> に るる前面取り	密	良	にごい橙 7.5YR7/4	杯部口縁 2/12		024-04
123	土師器 高杯	包合層 底板	t19 6.0 14.0	煙部 底面 <sup>コハラ</sup> 脚部 <sup>ハナフ</sup> ハナフ <sup>ハナフ</sup> に るる前面取り	密	良	橙 5YR6/6	脚端部 1/12		021-03
124	土師器 高杯	包合層 底板	t19 (12.0) 1.4	口縁部 <sup>コハラ</sup>	密	良	にごい黄橙 2.5Y6/3	口縁部 1/12	外面 磁付着	015-07
125	土師器 高杯	包合層 底板	t20 (20.7) 2.9	口縁部 <sup>コハラ</sup>	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 2/12	外面 磁付着	008-06
126	土師器 高杯	包合層 底板	t20 (20.8) 2.1	口縁部 <sup>コハラ</sup> 内面 <sup>ハナフ</sup>	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 4/12	外面 磁付着	022-05
127	土師器 油壺	包合層 底板	t19 6.7 2.5	体部 <sup>ハナフ</sup> 内外面灰釉	密	良	灰黄 2.5Y7/2	口縁部 1/12		021-11
128	土師器 油壺	包合層 底板	t19 3.9 7.9	体部 <sup>ハナフ</sup> 外面下平底部 <sup>ハナフ</sup>	密	良	素地、灰白 10YR7/1 釉:灰オリーブ 5Y5/2	底部 9/12		005-03
129	土師器 油壺	包合層 底板	t19 1.2 2.3	体部 <sup>ハナフ</sup> 高台 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	灰白 10YR7/1	底部 3/12	高台端に移設 灰	015-04
130	土師器 油壺	包合層 底板	t19 2.9 7.6	体部 <sup>ハナフ</sup> 高台 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	浅黄 2.5Y7/3	底部 4/12		020-09
131	陶器 皿(山皿)	包合層 底板	t19 7.8 4.1	体部 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	素地、灰白 2.5Y7/1 釉:灰オリーブ 5Y4/2	全体の 11/12		036-07
132	陶器 皿(山皿)	包合層 底板	t18 1.8 6.7	体部 <sup>ハナフ</sup> 高台 <sup>ハナフ</sup> 底部系切	密	良	浅黄 2.5Y7/3	底部 9/12		010-05

第III-5表 第163次調査 出土遺物観察表④

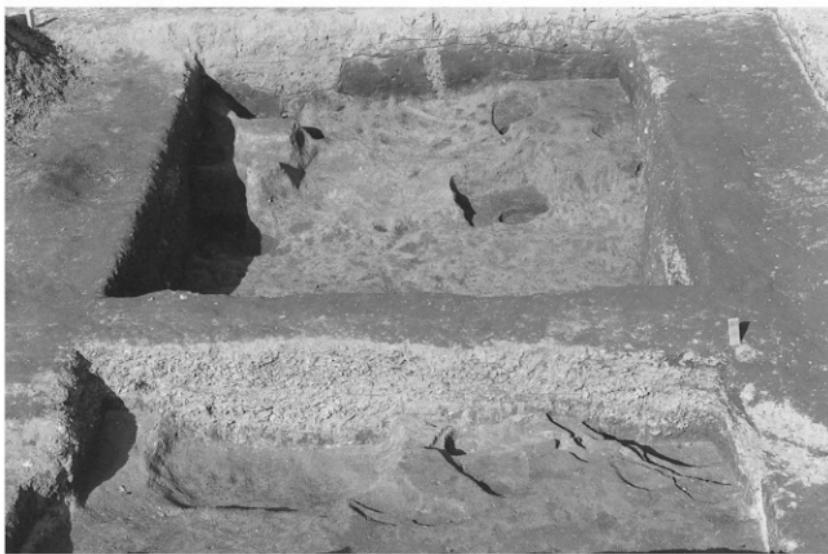
番号	器種 形態	埋立地 場所	法量 (cm)	調整 技法の特徴	出土	統成	色調	残存度	備考	登録 号	
133	陶器 (山茶碗)	U19 包含層	径高 5.3	体部 <sup>口付</sup> 底部系切	密	良	灰黄 2.5Y7/2	底部 7/12		021-07	
134	瓦器 梱	U20 包含層	径高 1.7	体部 <sup>口付</sup>	密	良	灰4	底部 8/12		012-01	
135	瓦質土器 大鉢	U20 包含層	径高 8.6	口縁部 内外面 <sup>口付</sup> キ	密	良	シルバーブラック 5Y3/1 底部 黒褐色 10Y8R/4	口縁部 1/12	内面被熱変色	034-02	
136	土器器 三足鉢	U20 包含層	口径 15.2	口縁部 <sup>口付</sup> 内外面 <sup>口付</sup> 外面部 <sup>口付</sup> 後 <sup>口付</sup> 底部工具 <sup>口付</sup> 脚部分	密	良	にぶい 黄褐 10Y8E/3 底部 黑褐色 2.5Y3/1	口縁部 6/12	外面下半里 青、脚 1本残	034-01	
137	白磁 盆	U20 包含層	口径 9.5	口径 1.4	口縁部 内面 <sup>口付</sup> 内面團輪 体部 外面部 <sup>口付</sup> 内外面部團輪	密	良	素地・灰白 5Y8/1 輪・灰白 5Y7/2	口縁部 1/12		032-13
138	白磁 盆	U19 包含層	口径 9.6	口径 1.6	口縁部 内面 <sup>口付</sup> 内面團輪 体部 外面部 <sup>口付</sup> 内外面部團輪	密	良	素地・灰白 5Y8/2 輪・灰白 5Y7/2	口縁部 2/12		032-02
139	白磁 盆	U20 包含層	口径 2.6	口縁部 <sup>口付</sup> 内面團輪 横接 文様 体部外面部 <sup>口付</sup> 内外 面部團輪	密	良	素地・灰白 10Y8/1 輪・灰白 7.5Y7/2	口縁部 1/12		033-04	
140	白磁 楠	U19 包含層	口径 2.2	口縁部 <sup>口付</sup> 内外面部團輪 体部外面部 <sup>口付</sup>	密	良	素地・灰白 5Y8/1 輪・灰白 10Y8/1	口縁部 1/12		032-08	
141	白磁 楠	U19 包含層	口径 2.6	口縁部 <sup>口付</sup> 内面 <sup>口付</sup> キ 内面 <sup>口付</sup>	密	良	素地・灰白 5Y8/1 輪・灰オリーブ 6Y6/2	口縁部 1/12		032-07	
142	白磁 楠	U20 包含層	口径 2.8	口縁部 内面 <sup>口付</sup> 外面 <sup>口付</sup> キ	良	素地・灰白 5Y8/1 輪・灰白 5Y7/1	口縁部 1/12			032-06	
143	白磁 盆	U19 包含層	径高 1.8	口縁部 <sup>口付</sup> 切込輪文 内面陽刻 底盤 <sup>口付</sup> 外面部 <sup>口付</sup> 1後縁位 1底盤	密	良	素地・灰白 7.5Y8/1 輪・灰白 10Y8/1	口縁部 小片		033-01	
144	白磁 盆	U20 包含層	径高 1.7	口縁部 内面 <sup>口付</sup> 外面 <sup>口付</sup> キ	密	良	素地・灰白 5Y8/1 輪・灰白 5Y8/2	口縁部 小片		033-03	
145	白磁 楠	U19 包含層	径高 1.6	口縁部 内面 <sup>口付</sup> 外面 <sup>口付</sup> キ	良	素地・灰白 5Y7/1 輪・灰白 5Y7/1	口縁部 小片			032-11	
146	白磁 盆	U20 包含層	径高 1.6	口縁部 内面 <sup>口付</sup> キ 体部外面部 <sup>口付</sup>	密	良	素地・灰白 5Y8/1 輪・灰白 5Y8/2	口縁部 小片		033-02	
147	青磁 楠	U19 包含層	径高 3.2	内面 <sup>口付</sup> 外面 <sup>口付</sup> キ	良	素地・灰黄 2.5Y7/2 輪・灰オリーブ 5Y5/3	口縁部 小片			032-12	
148	白磁 楠	U19 包含層	径高 5.8	内面 <sup>口付</sup> 外面 <sup>口付</sup> キ	密	良	素地・にぶい 5.5Y7/1	高台部 完存		032-09	
149	白磁 楠	U19 包含層	径高 3.2 (0.9)	内面 <sup>口付</sup> 外面 <sup>口付</sup> キ	安心 粗	良	素地・灰白 5Y7/1 輪・灰白 5Y7/2	高台部 4/12		032-10	
150	青磁 盆	U19 包含層	口径 10.8	口縁部 内面 <sup>口付</sup> キ 内面團輪 花文 体部外面部 <sup>口付</sup> 内外面團輪	密	良	素地・灰白 2.5Y7/1 輪・オーラブ 10Y6/2	口縁部 1/12		032-03	
151	青磁 盆	U19 包含層	口径 11.7	口縁部 内面 <sup>口付</sup> キ 内面團輪 外面部 <sup>口付</sup> 内外面團輪	密	良	素地・灰白 N2/ 1灰 7.5Y6/1	口縁部 1/12		032-04	
152	土器器 台付小皿	U19 包含層	口径 3.1 (0.6)	体部内面木葉紋 外面部 <sup>口付</sup>	密	良	淡黄 2.5Y8/3	台部 7/12	杯部内面木葉 紋	033-09	
153	土器器 台付小皿	U19 包含層	口径 2.8 (0.6)	内面内面木葉紋 外面部 <sup>口付</sup>	密	良	緑 7.5M7/6	台部 8/12	杯部内面木葉 紋	033-07	
154	土器器 台付小皿	U19 包含層	口径 3.0 (0.6)	内面 <sup>口付</sup> 外面部 <sup>口付</sup> キ	微密	良	にぶい 灰 2.5Y7/3	台部完存 体部内面木葉 紋		033-08	
155	土器器 小皿	U19 包含層	口径 0.6	口縁部 <sup>口付</sup> キ 外面部 <sup>口付</sup> 後 <sup>口付</sup> 内面 <sup>口付</sup>	安心 粗	良	浅黄褐 10Y8E/4	口縁部 2/12	外面上に墨書	037-03	
156	陶器 黒(山腹)	U19 包含層	口径 3.0	口縁部 <sup>口付</sup> 返接 内面 <sup>口付</sup> キ	良	灰白 8Y7/1	口縁部 7/12	外面に墨書		037-02	
157	土器器 小皿	U19 包含層	口径 1.2	口縁部 <sup>口付</sup> キ 外面部 <sup>口付</sup> 後 <sup>口付</sup>	密	良	灰白 2.5Y8/2	口縁部 2/12	外面に墨書	037-04	
158	土器器 小皿	U20 包含層	口径 1.8	口縁部 <sup>口付</sup> キ 体部外面部 <sup>口付</sup> 後 <sup>口付</sup> 内面 <sup>口付</sup>	密	良	にぶい 灰 2.5Y6/3	口縁部 2/12	外面に平假名 墨書	037-06	
159	土器器 朴	U19 包含層	口径 4.5 (1.2)	内面工具 <sup>口付</sup> キ 外面部 <sup>口付</sup> 後 <sup>口付</sup>	密	良	緑 5Y8E/6	底部小片	外面に墨書	037-05	
160	石製品 緑石	U20 包含層	長径 0.8	表面研磨痕			木灰色 8S2	完形	重量 3.2g、基 右方	033-05	
161	ティコロ形 土製品	U19 包含層	一边	1.5	35°斜 <sup>2</sup>	微密	良	にぶい 灰 10Y8E/3	全体の 11/12	重量 3.8g	033-10
162	綠釉陶器 棺	U20 包含層	理長 0.5		軟調	微密	素地・薄青色 780 輪・灰 847	体部小片		032-01	
163	有蓋品 石皿	U19 包含層	長 15.0					完形	上面磨耗、重 量 1415g、被 熱変色部あり	035-01	

第三-6表 第163次調査 出土遺物観察表⑤

写真図版 III-1 第163次調査 遺構



調査区全景（西から）



調査区全景（南から）

写真図版 III - 2 第163次調査 遺物 (1)



写真図版 III - 3 第 163 次調査 遺物 (2)



111



107



115



119



112



121



131



152



136



160



154



161



158

## IV 第164次調査 (6AQ11 牛葉地区)

### 1 はじめに

第164次調査は、方格地割を構成する牛葉東区画と牛葉西区画間の区画道路の交差点部分の状況確認を主な目的として、牛葉西区画の北東隅で実施した。

牛葉西区画では、これまでに昭和57年度の第47次調査および平成11年度の第128-5次調査等が実施されており、区画道路の側溝については、第47次調査で東西道路の南北側溝が、第128-5次調査では南側溝がそれぞれ確認されている。また、平成5年度に牛葉東区画の北西隅で実施した第103次調査では、牛葉東区画と牛葉西区画の両区画間の交差点の東側部分についての状況が明らかにされている。

調査期間は平成21年8月3日から10月14日までで、調査面積は201m<sup>2</sup>である。

### 2 地形と層序

現況は畠地ではほぼ平坦であるが、地山面の標高を見ると、約11.0mの南東隅を頂点とし北西方向に向かってわずかに傾斜する。

調査区の基本層序は、耕作土の直下で黄褐色粘質土(地山)となり、遺構検出はこの地山層の上面で行った。

### 3 遺構

今回の調査で検出された遺構は、溝1条である。他に調査区のほぼ全域に東西方向に延びる幅0.3～0.4m、深さ40～50cmの溝が並行して複数存在するが、これらは近世以降の耕作に伴うものである。また、調査区の東端は土取りによると考えられる擾乱が挿がる。

S D 2844 調査区の南部で検出した東西区画道路の南側溝である。第47次調査で検出されたS D 2844の東側延長部分で、今回の調査では、約5.2m分を確認したが南北道路との交差点部分は、近世以降の土取りによって削平されている。幅は上端で約

0.85m、下端で約0.3m、検出面からの深さは約40cmである。土層断面の観察から、少なくとも1回の掘り返しが認められる。埋土は黒色土で、出土遺物は土師器杯、須恵器杯蓋が出土している。

S D 2844について第47次調査では、規模が小さいことから側溝と認定していないが、第128-5次調査で検出された南側溝S D 8201や牛葉東区画で実施した第103次調査のS D 6992の延長上に位置することから、区画道路の南側溝であると考えられる。

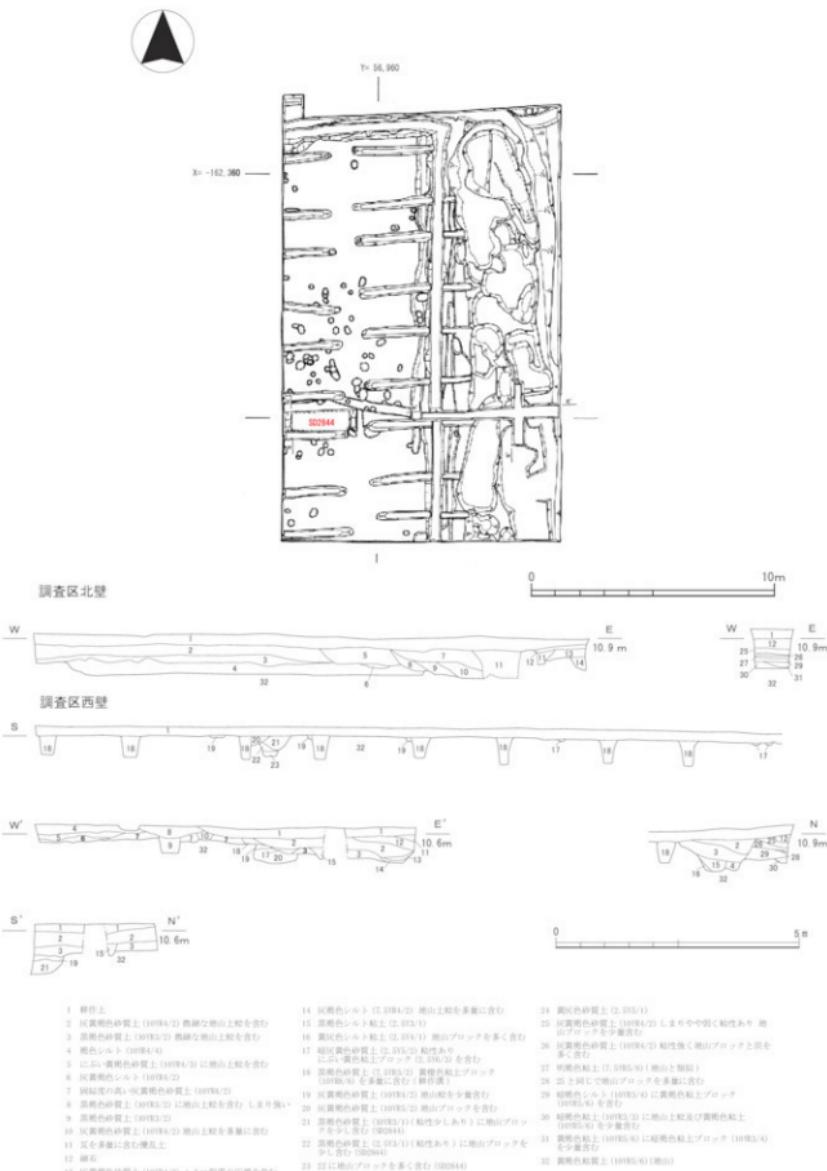
### 4 出土遺物

S D 2844出土遺物 (1・2) 土師器杯G (2)と須恵器杯B蓋 (1)がある。(1)は平坦な天井部をヘラケズリし、中央部につまみ貼付け時の丁寧なナデ調整が施される。内面は天井部と体部との境には強いクロナデが施され、明瞭な段を有する。口縁部は下方に折り曲げられ、端部は丸くおさめられる。

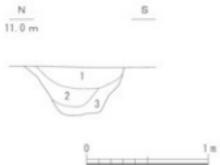
k	i	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v
											10
											11
											12
											13
											14
											15
											16
											17
											18
											19
											20
											21
											22
											23
											24
0-11											25
0-12											1

第IV-1図 第164次調査 大地区・グリッド図

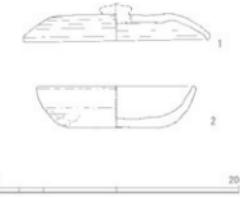
(1:800)



第IV-2図 第164次調査 遺構平面図(1:200) 土壤断面図(1:100)



第IV-3図 第164次調査 SD 2844土層図(1:20)  
1 黒褐色粘砂質土(10B2/1)に地山ブロック含む  
2 黒褐色粘砂質土(20B3/1)に地山ブロック含む  
3 2に地山ブロック多量含む



第IV-4図 第164次調査 出土遺物実測図(1:4)

(2)はいわゆる「いなか風椀」と呼ばれる粗製の椀形の杯である。全体に器壁が厚く、底部はやや丸みをもつ。口縁部は内彎して開き、端部は丸くおさめられる。斎宮跡土器編年のII-2期に相当すると考えられる。

## 5まとめ

第164次調査の目的である区画道路交差点の確認については、第47次・第128-5次調査から延長していく東西区画道路の南側溝SD 2844を検出することができたが、北側溝は想定位置にあたる現町道の間際で調査区を拡張して溝を検出したものの、近世の遺物を包含しており、本来の北側溝に相当するものとは認められなかつた。一方、南北道路については近世以降の土取りによる擾乱によって、西側溝および道路はすでに削平されていることから、今回の調査では、交差点の状況を明らかにするデータを得ることはできなかつた。

SD 2844からは斎宮跡土器編年II-2期に相当する土器が出土している。これまでの調査でも、II-2期には、区画道路上に土坑が掘削される例が何例

か確認されており、道路機能の廃絶とまではいかなくとも側溝の埋設を示すものといえよう。

牛葉西区画においてはこれまでに、近鉄線以北で第13-5次・第47次・第70-9次・第128-5次調査が、近鉄線以南では第25-4次・第142-10次・第161-5次・第161-6次調査が実施され、掘立柱建物や土坑などが確認されているものの、現状変更に伴う小規模な調査が多く、区画中心部についての実態はほとんど明らかになつていない。また、第128-5次調査で確認された区画道路南側溝SD 8201は途中で途切れており、区画北側の入り口の可能性も指摘されるなど、今後の調査によって解明すべき課題は多い。

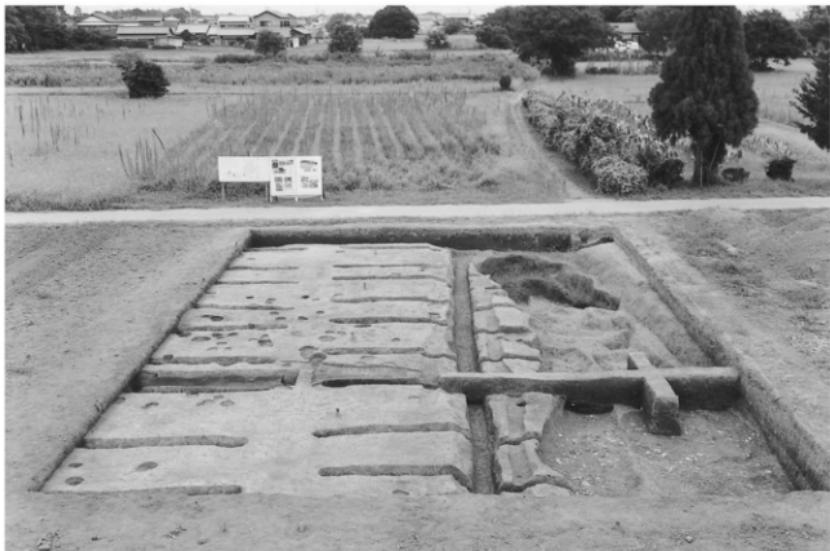
(角正芳浩)

遺構名	調査時 遺構名	グリッド	時期	出土 遺物	備考
SD2844	溝3	o18/p18	II-1~2	土師器:杯G 須恵器:杯B蓋	区画道路南側溝

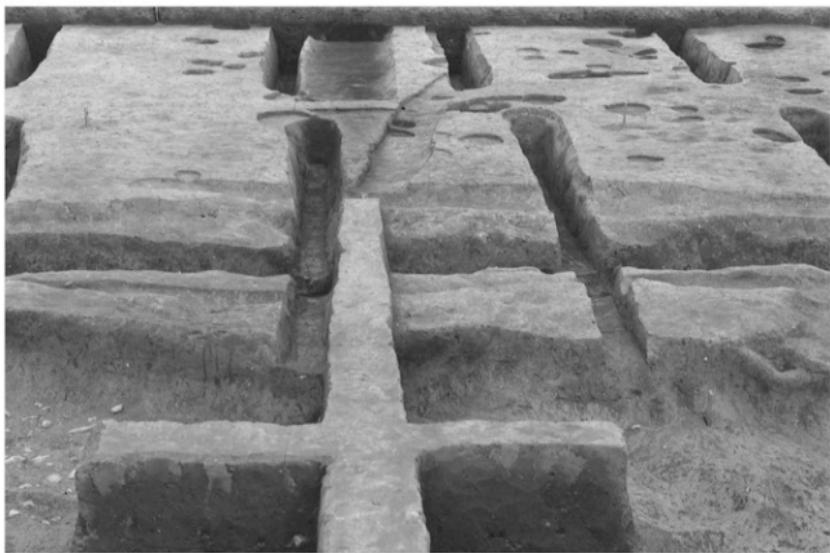
第IV-1表 第164次調査 遺構一覧

番号	器種 器形	地区 遺構	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
1	須恵器 蓋	SD2844	口径 残高 2.2	(14.9) 2.2	密	良	灰黄	2,517/2	口縁部 1/12	001-01
2	土師器 杯G	SD2844	口径 器高	(12.7) 3.4	口縁部内凹 外腹材後戻り	密	良	浅黄橙101B68/4	口縁部 3/12	001-02

第IV-2表 第164次調査 出土遺物観察表



調査区全景(南から)



区画道路南側溝 S D 2844(東から)

# V 第165次調査 (6ARI1 柳原地区)

## 1 はじめに

斎宮歴史博物館では、史跡東部の方格地割柳原区画を中心とした一帯の史跡環境整備事業を計画し、平成19年度から柳原区画を中心に遺構の実態解明の調査を進め、検討を行ってきた。

そうした中で、昭和49年度の第8~9次(Nトレンチ)と平成16年度の第143次調査区の間、幅2mほどの未調査地付近に平安時代後期を中心とする多数の掘立柱建物が密集していることがわかり、密集する建物の状況を正確に把握するためにこの部分の補足調査が必要となった。これを第165-1次調査として実施した。

また、これと並行して昭和53年度の第20次調査と平成19年度の第153次調査で検出した東南北三面に庇の付く大型掘立柱建物S B 1080について、斎宮跡調査研究指導委員会からも、斎宮跡での建物検出事例をかんがみても特殊な構造であり、整備に先だって、再度西庇の有無を含めた柱穴の状況を再確認するよう指導を受けた。そこで、このS B 1080の南西部で再発掘を行い、建物西側庇の延長の有無を確認することを目的として第165-2次調査を実施した。

調査は平成21年6月25日より開始し、10月15日に終了した。調査面積は第165-1次調査で98m<sup>2</sup>、第165-2次調査で30m<sup>2</sup>である。

## 2 地形と層位

柳原区画は、平成19年度に発掘調査した第152次調査区の東辺中央あたりからやや南よりにかけて、現況で標高10.4mを最高点に、西・南・北の三方向に緩やかに傾斜している。

第165次調査区は南接する牛葉東区画との間にある東西方向の浅い谷にむかう南側の緩斜面にあたる。第165-1次調査区では、遺構を検出した明黄褐色粘質土層までの深さが、調査区西端で0.5m、東端で0.6mとなっている。調査区内の基本層序は、

灰褐色土壌の旧耕作土(表土)、黒褐色土壌(包含層)、明黄褐色粘質土(地山・遺構検出面)となる。

## 3 第165-1次調査

### A 遺構

掘立柱建物で一部が確認されたものも含めて、この調査区内では掘立柱建物23棟、柵列(掘立柱塀)1条、土坑7基、溝7条が確認された。以下、斎宮跡の土器編年を基準にした時期区分に沿って遺構の記述を行う。

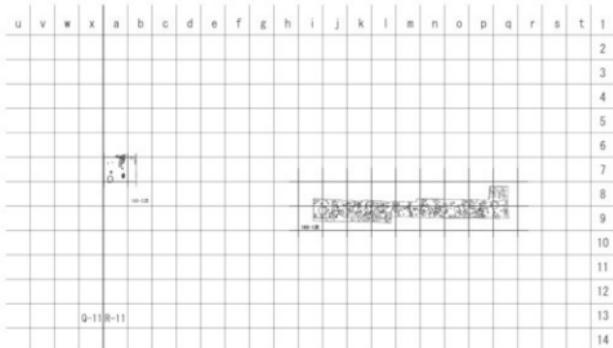
#### (1) 斎宮I-4期の遺構

**S B 0263** 調査区の東端で検出した4間×4間の総柱建物である。第165-1次調査区では柱穴2個を確認したが、あとは第8-9・143・153・159次調査区にまたがる。柱掘形は一辺約0.8~1.0mの略方形で、第8-9次調査では直径約30cmの柱痕跡とみられるものが見つかっている。柱間寸法は南北で1.85m、東西で1.75m、棟方向はN 4°Wである。今回の調査では柱穴からの出土遺物はなかったが、柱掘形の埋土は黒色シルト質壤土で、柱掘形の規模、建物の配置状況等から、柳原区画内でも最古段階のI-4期のものと判断している。なお、同様の総柱建物には第20次調査のS B 1040があり、時期的にも位置的にも対応するものと考えられる。

**S K 9034** 調査区の西端近くで、第143次調査区からのびてくる南北約1.2m×東西1.2m、深さ0.1~0.2mの土坑である。今回の調査区内では出土遺物はなかったが、第143次調査区で土師器杯・椀・皿や、須恵器杯の小片が出土している。

**S D 9044** 調査区西部を第143次調査区から第153次調査区まで貫通する南北溝である。幅0.8~1.0m、深さは0.1~0.2mほどの浅い溝で、南に傾斜している。遺構埋土は黒色シルト質壤土で出土遺物は今回の調査区ではみられない。

これまでに検出した総延長は27.6mあり、溝の方向がおおむねN 4°Wとなること、また、方格地割の柳原区画のほぼ中央を東西に二分する位置にある



第V-1図 第165次調査 大地区・グリッド図(1:800)

ことなどから、方格地創造當初期にこの区画を細分するための区画溝であったとみている。少なくともII-1期には埋没している。

**S D 10140** 調査区の東端付近で新たに検出した東西方向の溝である。幅約0.8m、検出延長約8.3mあるが、東に位置する第159次調査区ではその延長を確認していない。

調査区の東端で、断面を観察するため底部まで掘削したところ、断面U字形で遺構検出面からの深さは約0.5mである。埋土は黒色シルト質壌土で、遺構の重複関係から直柱建物S B 0263より古いことがわかる。出土遺物には土師器杯片や須恵器甕片があり、I-4期においても古相に位置づけられると思われる。

I-4期のS B 0263、II-1期以降のS B 9003・9004の柱穴が、この溝の埋土を掘り込んで作られている。

#### (2) 斎宮II-1～2期の遺構

**S B 9003** 第143次で検出していた5間×2間の身舎の東面に1間分の庇出をもつ南北棟の掘立柱建物である。今回の調査で南辺の柱列を確認し、規模が確定した。身舎の柱掘形は大きいもので一辺が約1.0m、小さいものでも約0.7mの略方形である。柱痕跡は直径がおよそ20～25cmである。柱間寸法は桁行2.45m、梁行2.3m、庇出は3.0mある。棟方向はN 1°Wで、柱掘形からの出土遺物は僅少

だが、遺構埋土は一般に方格地創造當期に近いものと推定される黒色シルト質壌土で、第152次調査区の四面庇付建物S B 9800や第20・153次調査区の三面庇付建物S B 1080と同時期のものと考えられる。

**S B 9004** 調査区の東部で確認した3間×2間の南北棟である。大部分は第143次調査区に入り、今回は南辺の梁行の柱筋を確認した。柱掘形は一辺1.0～0.7mの方形ないし略方形で、直径約15～20cmの柱痕跡がある。柱間寸法は桁行1.95m、梁行1.8mで、棟方向はN 5°Wである。

**S B 10086** 調査区の東端で検出した3間×2間の東西棟である。第8-9・159次調査でも検出しており、第165-1次調査区では北西隅の柱穴を1個確認した。柱掘形は一辺約0.5mの略方形で、直径約20cmの柱痕跡がある。柱間寸法は桁行2.0m、梁行2.1mで、棟方向はN 2°Eである。

**S B 10087** S B 10086に重複して検出した3間×2間の東西棟である。今回の調査区では北西隅の柱穴を1個確認した。第8-9・159次調査でも検出しており、第159次調査で検出した柱穴の重複関係からS B 10086より新しいと判断される。柱掘形は直径約50cmの略円形で柱痕跡は明らかではない。柱間寸法は桁行1.9m、梁行2.0mとS B 10086より小規模になっている。棟方向は正方位である。

**S B 10124** 調査区の西部で検出した3間×2間の南北棟とみられる掘立柱建物である。北辺を第143



第V-2図 第165-1次調査 造構平面図 (1:200)

次調査で確認しており、今回の調査では南辺の3個の柱穴を確認した。この南北の梁行の柱掘形は直径0.5m前後の略円形、柱痕跡は直径約15cmで、柱筋は柱間2.3mでよく揃うが、桁方向の柱は確認できていないという問題がある。しかし桁行も柱間2.3mで復元できるため、建物となると判断した。棟方向はN 3°Wである。

**S K 10135** 調査区の西端近くで検出した直径約1.2mの円形の土坑である。遺構検出面からの深さは約0.5mである。出土遺物は少量の土師器片が出土したのみである。

#### (3) 斎宮II-3~4期の遺構

**S B 0260** 調査区のほぼ中央で検出した5間×2間の南北棟である。第143次から第153次の調査区にまたがっており、今回新たに桁行柱筋の2個の柱穴を検出した。柱掘形は一辺約0.9~1.0mの隅丸方形で、直径25~30cmの柱痕跡がある。柱間は桁行2.4m、梁行2.2mで、棟方向はN 3°Eである。柱穴埋土の出土遺物からII-3期のものと推定される。

**S B 9839** 調査区の西部で桁行柱筋の柱穴を1個確認した5間×2間の東西棟である。大部分は第8-9・153次調査区で検出している。柱掘形は直径約0.5mの円形で、直径15cm前後の柱痕跡がある。柱間寸法は桁行・梁行とも2.15mで、棟方向はN 3°Wである。柱掘形埋土から斎宮II-3~4期の土器片が出土しているが、遺構の時期はもう少し下る可能性がある。

**S B 9848** 調査区の中央でS B 0260に重複して検出した5間×2間の南北棟である。規模と位置関係からS B 0260の建替えと判断できる。今回の調査では桁行柱筋の柱穴2個を検出した。遺構埋土の重複関係からS B 0260より新しいと判断される。柱掘形は直径0.6m前後の略円形で柱痕跡は明らかではない。柱間寸法は桁行で2.35m、梁行で2.2m、棟方向はN 3°Wである。

**S B 9849** 調査区中央やや東よりで検出した4間×2間の南北棟である。第8-9・153次調査でも確認しており、東桁行柱筋や北棟柱を欠失するが、今回規模を判断した。柱掘形は一辺約0.6mの略方形で、直径約15cmの柱痕跡が見つかっている。柱間

寸法は桁行2.2m、梁行1.8mで、棟方向はN 3°Eである。

**S B 9851** 調査区東部で北側桁行の柱筋を検出した3間×2間の東西棟である。第8-9・153次調査区でも確認しているが、今回規模が確定した。柱掘形は一辺0.7~0.9mの隅丸方形で、直径約20cmの柱痕跡が見つかっている。柱間寸法は概ね桁行2.3m、梁行2.0mだが、桁行の柱間は若干長短がある。棟方向はN 3°Wである。柱穴埋土の出土遺物からII-4期以降のものとみられる。

**S B 10130** 調査区の中央で検出した5間×2間の南北棟で第8-9・143次調査区にまたがる。第143次調査区では、建物北西部の柱穴が不明瞭だが、柱穴埋土の重複関係からS B 0260を建替えたものと判断できる。柱掘形は一辺0.5~0.7mの略方形で、直径が最大で約20cmの柱痕跡がある。柱間寸法は桁行2.3m、梁行2.2mで、棟方向はN 1°Wである。柱穴埋土からはII-3期のものを中心とした土器片が出土するが、時期的に若干下る可能性もある。

**S A 10133** 調査区東部で確認した掘立柱建物柱列で、北は第152次調査区から南は第8-9次調査区にまたがる柵列になるとみられる。柱穴は直径0.2~0.3m程度で、10間分、延長27.8mを検出している。柱間寸法は2.4~3.2mのばらつきがあり、N 2°Eの方向を持つ。

**S K 10137** 調査区の東部で検出した東西0.7m、南北1.0m以上、深さ0.1mの小規模な土坑である。少量の土器片・灰陶器片が出土している。

#### (4) 斎宮III期の遺構

**S B 9841** 調査区中央西よりで検出した、5間×2間の東西棟である。第8-9・153次調査区までまたがるが、今回の調査で北側桁行柱筋を確認した。柱掘形は直径約0.3~0.5mの円形ないしは略方形で、直径15cmほどの柱痕跡がある。柱間寸法は桁行2.15m、梁行2.1mで、棟方向はN 4°Wである。柱穴埋土の出土遺物からIII-1期以降のものとみられる。

**S B 9842** S B 9841とほぼ同位置で検出した5間×2間の東西棟である。柱掘形は直径0.4~0.5mの円形で、柱痕跡は直径10cm強と、S B 9841に比

べてやや小ぶりになる。柱間寸法は桁行梁行とともに2.1m、棟方向はほぼ正方位になる。柱穴埋土の出土遺物からIII-1期以降のものとみられる。

**S B 10121** 調査区の西端で検出した5間×2間の東西棟である。第8-9・153次調査区までまたがっている。柱掘形は直径0.4～0.6mの円形ないしは略方形で、直径10cm強の柱痕跡がある。柱間寸法は桁行・梁行とも2.1mで、棟方向はN4°Wである。柱穴埋土の出土遺物からIII-3期以降のものとみられる。

**S B 10122** 大部分は第143次調査区に入り、今回の調査では南西隅の柱穴1個を確認した5間×2間の東西棟である。柱穴は、遺構の重複のためか、不整形のものもあるが、直径0.3mほどの円形とみられる。直径10cmほどの柱痕跡も残る。柱間寸法は桁行2.15m、梁行2.0mで棟方向はN4°Wである。柱穴埋土の出土遺物からIII期の末葉以降のものとみられる。

**S B 10123** 調査区の西部で検出した5間×2間の東西棟である。第143次調査区にまたがり、今回の調査では南側桁行柱筋を確認した。これも第143次調査区内では柱穴の形状が不整形だが、おおむね直径0.5mの円形になるものとみられる。直径10cm強の柱痕跡も残る。柱間寸法は桁行2.15m、梁行1.85mで、棟方向はN4°Wである。柱穴埋土の出土遺物からIII期の末葉以降のものとみられる。

**S B 10125** 調査区の中央西よりで検出した5間×2間の東西棟である。第143次調査区にまたがるが、今回の調査では南側桁行柱筋を検出した。柱掘形は直径0.3～0.4mの円形で、直径10cm程度の柱痕跡がある。柱間寸法は桁行梁行とも2.1mで、棟方向はN4°Wである。柱穴埋土の出土遺物からIII期の末葉以降のものとみられる。

**S B 10126** 調査区の中央西よりで検出した、5間×2間の東西棟である。第8-9・143次調査区にまたがる。柱掘形は不整形なものもみられるが、直径0.4～0.5mの円形で、直径10cm強の柱痕跡が残る。柱間寸法は桁行梁行ともに1.9m、棟方向はN4°Wである。柱穴埋土の出土遺物からIII-3期以降のものとみられる。

**S B 10127** 調査区中央西よりで検出した5間×2

間の東西棟で、S B 10125やS B 9841を南北方向にスライドしたような位置にある。柱掘形は直径0.4～0.6mの略円形で、柱痕跡は明らかでない。柱間寸法は桁行梁行とも2.15mで、棟方向はN4°Wである。柱穴埋土の出土遺物からIII-3期以降のものとみられる。

**S B 10128** 調査区のほぼ中央で検出した3間×2間の東西棟である。第8-9・143次調査区にまたがる。遺構の重複のため柱穴が不明瞭な箇所もあるが、柱掘形はおおむね直径0.4mほどの略円形となるとみられる。柱痕跡は明らかではない。柱間寸法は桁行2.0m、梁行2.1mで、棟方向はN3°Wである。柱穴埋土の出土遺物からIII-3期以降のものとみられる。

**S B 10129** 大部分が第8-9・153次調査区に含まれ、今回の調査では北側桁行柱筋の一部を確認した5間×2間の東西棟である。柱掘形は一辺0.4～0.6mの円形ないしは略方形で、直径20cm弱の柱痕跡がある。柱間寸法は桁行2.15m、梁行2.3mで棟方向はN1°W。柱穴埋土の出土遺物からIII-2～3期頃のものとみておきたい。

**S B 10131** 調査区東部で検出した3間×2間の南北棟である。第8-9・143次調査区にまたがる。柱掘形は第8-9次調査区内では一辺約0.5mの方形を呈するが、第143次調査区では直径約0.4mの円形で検出されている。柱痕跡は直径10～20cmと幅がある。あるいは桁行方向はさらに伸びるかもしれない。柱間寸法は2.4m、桁行は2.5mで、棟方向はN2°Eである。柱穴埋土の出土遺物からIII-2～3期のものと推定される。

**S K 9023** 調査区中央西よりで第143次調査区にまたがって検出した、2.7m×2.4m、深さ0.2mの不整形の土坑である。土師器・須恵器の細片が少量出土したのみだが、III-4期頃のものとみられる。

**S K 10136** 調査区中央やや東よりで第8-9次調査区にまたがって検出した、1.2m×0.8m、深さ0.2mの不整形の小土坑である。少量の土師器小皿・甕、ロクロ土師器小皿の細片が出土しており、III-2期以降のものとみられる。

**S K 10138** 調査区東部で、S D 9047・10139に埋土を重複される状況で確認した南北1.1m、深さ

遺構名	ピット番号 ※( )は次数とピット番号	時期	規模 (間) 5×2 12.0×4.4	柱間寸法(m) 桁行/梁行	主軸	方位 (N基準)	備考
SB0260	(143-17)P2/(153-k10)P5/(153-110)P3	II-3		2.4/2.2	南北	N 3°E	第8-9+143+153+165-1次調査区にまたがる
SB0263	(143-o8)P1	I-4~	4×4 7.4×7.0	1.85/1.75 1.75m	南北	N 4°W	SB0851+10132より古 第8-9+143+153+159次調査区にまたがる
SB9003	(143-n6)P2-P6/(143-n5)P4/ (143-n6)P5-P9/(143-n6)P3-P4/ P9/(143-n7)P1/(143-n7)P2/ (143-18)P14-P15P2/ (143-n8)P2-P8/(143-n8)P2/ (165-18)P4/(165-n8)P3/ (165-n8)P15	II-1~2	5×3 12.25×7.6	2.45/2.3 (底出)3.0	南北	N 1°W	東面底付建物 SB10130より古 第143+165-1次調査区にまたがる
SB9004	(143-n7)P1-P6-P7-P9/P10/ (143-n7)P5-P7P9/(165-n8)P9-P16/ (165-n8)P2-P8/P9-P10	II-2~3	3×2 5.85×3.6	1.95/1.8	南北	N 5°W	第143+165-1次調査区にまたがる
SB9839	(153-h10)P5-P10/(153-i10) P5P10/(153-j10)P1	II-3~4	5×2 10.75×4.3	2.15/2.15	東西	N 3°W	第8-9+153+165-1次調査区にまたがる
SB9841	(153-i10)P8/(153-j10)P10/ P12/(153-k10)P6-P7/(153- 110)P14/(165-n8)P2-P8/(165- k8)P8/(165-18)P7	III-1~	5×2 10.75×4.2	2.15/2.1	東西	N 4°W	第8-9+153+165-1次調査区にまたがる
SB9842	(153-i10)P1/(153-j10)P11/(153- k10)P11/(153-n10)P8/(165- n8)P8/(165-n8)P2/(165-n8)P3	III-1~	5×2 10.5×4.2	2.1/2.1	東西	N 0°	第8-9+153+165-1次調査区にまたがる
SB9848	(143-17)P8/(143-18)P12/(153- k10)P4P4/(153-n10)P1/(165- 18)P26	II-3~4	5×2 11.75×4.4	2.35/2.2	南北	N 3°W	SB0260より新 第8-9+143+153+165-1次調査区にまたがる
SB9849	(143-n10)P1/(153-18)P8/(153- n10)P8-P12-P13/(165-18)P20	II-3~4	4×2 8.8×3.6	2.2/1.8	南北	N 3°E	第8-9+143+153+165-1次調査区にまたがる
SB9851	(153-m10)P10-P13/(153-n10)P1- P5/(153-o10)P1	II-4~III-1	3×2 6.9×4.0	2.3/2.0	東西	N 3°W	第8-9+153+165-1次調査区にまたがる
SB10086	第159次調査参考照	II-1~2	3×2 6.0×4.2	2.0/2.1	東西	N 2°E	第8-9+159+165-1次調査区にまたがる
SB10087	第159次調査参考照	II-1~2	3×2 5.7×4.0	1.9/2.0	東西	N 0°	第8-9+159+165-1次調査区にまたがる
SB10121	(165-h8)P1-P8/(165-i8)P5-P14	III-3~	5×2 10.5×4.2	2.1/2.1	東西	N 4°W	第8-9+153+165-1次調査区にまたがる
SB10122	(143-h8)P8/(143-17)P4-P5/ (143-i8)P1/(143-j7)P1/(143- n8)P8	III-4~	5×2 10.75×4.0	2.15/2.0	東西	N 4°W	第143+165-1次調査区にまたがる
SB10123	(143-i7)P24/(143-j7)P10/(143- j8)P19/(143-i8)P7/(165- j8)P21	III-4~	5×2 10.75×3.7	2.15/1.85	東西	N 4°W	SB10125より新 第8-9+143+165-1次調査区にまたがる
SB10124	(143-i6)P8/(143-i8)P8/ (143-j8)P14/(165-i8)P7/(165- j8)P2	II-1~2	3×2 6.9×4.6	2.3/2.3	南北	N 3°W	第143+165-1次調査区にまたがる
SB10125	(143-j7)P16/(143-j7)P6/(143- j8)P7/(143-i7)P7/(143-i8)P5-P6	III-4~	5×2 10.5×4.2	2.1/2.1	東西	N 4°W	第143+165-1次調査区にまたがる
SB10126	(143-j8)P16/(143-i8)P2/(143- j8)P8/(165-i8)P13/(165-j8)P13	III-3~	5×2 9.5×3.8	1.9/1.9	東西	N 4°W	第8-9+143+165-1次調査区にまたがる
SB10127	(143-i8)P12/(165-i8)P11- P14/(165-j8)P4-P15-P22/(165- k8)P1-P12/(165-i8)P26	III-3~	5×2 10.75×4.3	2.15/2.15	東西	N 4°W	第8-9+143+153+165-1次調査区にまたがる
SB10128	(143-i8)P10-P19/(165-i8)P17	III-3~	3×2 6.0×4.2	2.0/2.1	東西	N 3°W	第8-9+143+165-1次調査区にまたがる
SB10129	(153-i10)P4/(153-j10)P2- P4/(153-k10)P1P2P4/(153- l10)P1	III-2~3	5×2 10.5×4.6	2.15/2.3	東西	N 1°W	第8-9+153+165-1次調査区にまたがる
SB10130	(143-i6)P9/(143-i7)P14	II-3~ III-1	5×2 11.5×4.4	2.3/2.2	南北	N 1°W	SB0260+9003より新 第8-9+143+165-1次調査区にまたがる
SB10131	(143-m7)P3/(143-n8)P3	III-2~3	(3)×2 (7.2)×5.0	2.4/2.5	南北	N 2°E	第8-9+143+165-1次調査区にまたがる
SA10133	(143-n3)P1/(143-n4)P1/(143- n6)P9/(143-n7)P11/(143-n8)P1/ (165-n8)P1	II	10 27.5	2.4~3.2m	南北	N 2°E	第8-9+143+152+165-1次調査区にまたがる

第V-1表 第165-1次調査 堀立柱建物一覧

遺構名	遺構の種別	調査時遺構名	グリッド	時期	出土遺物・その他備考
SK9023	土坑	土坑8	j 8	III-4	土師器・須恵器の細片
SK9034	土坑	なし	h 8	I-4?	なし
SD9044	溝	なし	i 8	I-4 ~II-1	なし
SD9047	溝	溝4	m8・n8	III-2	土師器片 白磁片
SD9696	溝	溝1	o 8	近世以降	土師器片 灰釉陶器片
SK9826	溝	土坑2	g 8	IV	土師器片 陶器片(山茶椀)
SD9845	溝	溝8	h 8・i 8	IV~	土師器片
SD9850	溝	溝3	n 8	III-2~3	土師器片 須恵器片
SK10135	土坑	土坑1	g 8・h 8	II-1~2	土師器・杯・皿・甕
SK10136	土坑	土坑7	l 8	III-2~	土師器・小皿・甕 ロクロ土師器・小皿
SK10137	土坑	溝9	m8	II-4	土師器片 灰釉陶器片
SK10138	土坑	土坑4	n 8・m 8	III-2	土師器・皿・小皿 ロクロ土師器片
SD10139	溝	溝5	n 8・m 8	III-3	土師器・小皿 陶器片(山茶椀)
SD10140	土坑	溝6	n 8・m 8・o 8	I-4	土師器・杯 須恵器・甕

第V-2表 第165-1次調査 遺構一覧

0.4 mの楕円形土坑である。東西方向の規模はSD 9047の重複により不明である。III-2期に位置づけられる土師器皿・小皿、ロクロ土師器片が出土している。

**S D 9047** 調査区の東部で検出した南北溝で、第143次調査区から第153次調査区まで延長11.8 mを検出したことになる。今回の調査区内での幅や約0.3 mで、全体に北から南に傾斜する。今回は土師器と白磁の小片が出土したのみだが、これまでの調査で、III-2期頃のものと推定されている。

**S D 9850** 調査区の東部で検出した南北溝で、これも第143次調査区から第153次調査区までのびており、延長14.5 m分を検出している。今回の調査区では幅約0.4 mで、これも全体に北から南に傾斜している。III期とみられる土師器と須恵器の小片が出土している

**S D 10139** SD 9047の東で検出した南北溝で、第143次調査区からのびており、第8-9次調査区では不明瞭になる。幅約1.2 m、深さ約0.1 mの浅

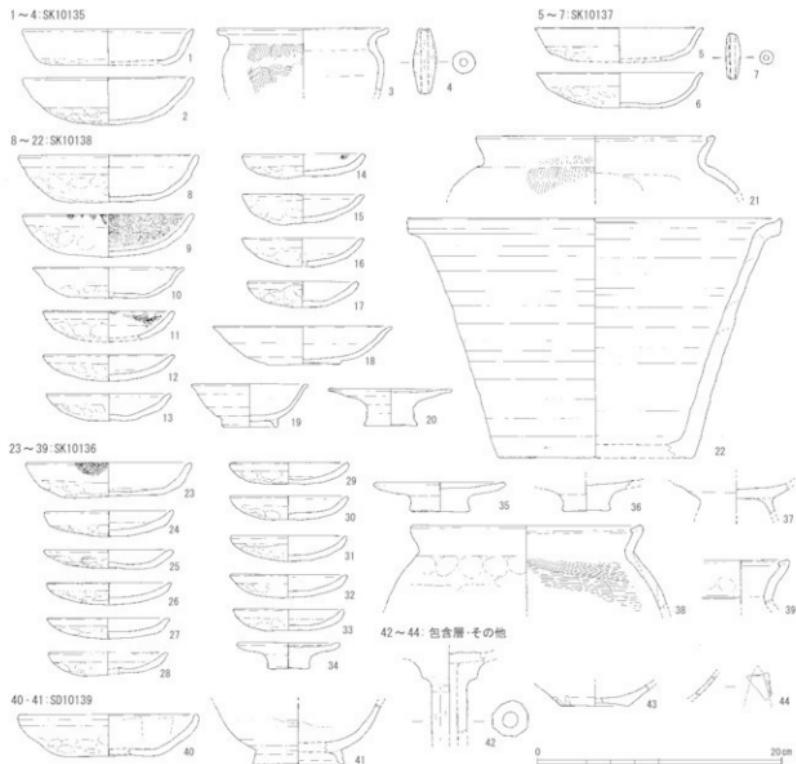
い溝で、土師器小皿のほか無釉陶器椀(山茶椀)の破片が出土しており、III期の末葉からIV期にかけてのものとみられる。

#### (5) 斎宮IV期以降の遺構

**S K 9826** 調査区北西隅で検出した土坑で、第143-153次調査区まで広がる。東西約2.0 m、南北約3.0 m、深さ約0.2 mの楕円形を呈する。今回の調査では少量の土師器片と無釉陶器椀(山茶椀)片が出土したのみだが、第153次調査区では土師器皿・小皿・台付皿・鍋、ロクロ土師器椀・皿・無釉陶器椀(山茶椀)が比較的まとまって出土しており、IV期でも前半に位置づけられるものとみられる。

**S D 9696** 調査区東端で検出した溝で、第8-9次調査区から北に第152次調査区の北端までのびている。埋土に含まれる遺物は少ないが、瓦片なども含み、近世以降の字境界にかかる遺構とみられるものである。

**S D 9845** 調査区西部で検出した南北溝で、第143次調査区から第153次調査区までのびる。今回の調



第V-3図 第165-1次調査 出土遺物実測図(1:4)

査区内では、幅約0.6mで検出している。土師器片が少量出土したのみだが、IV期以降のものとみられる。  
(大川勝宏)

#### B 出土遺物

第165-1次調査では土師器・須恵器・灰釉陶器などが出土している。以下、主要な遺物について述べる。

##### (1) II-1～2期の遺物

**SK 10135 出土遺物 (1～4)** 調査区西部の土坑から出土した遺物である。土師器では、杯A・榠A・皿A・甕が出土している。杯A (1) は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部に内傾する面を持つ。榠A (2) は丸底で口縁部を幅広くヨコナデし、底部

外面をナデ調整する。甕 (3) は胴部外面にハケ調整を施し、口縁部が胴部よりも広がる。このほかに土製品では土鍤 (4) がある。土鍤は後述のSK 10137のほか土坑1箇所で出土したのみである。また、小片だが志摩式製塩土器が出土している。

SK 10135の遺物は、(1) のように斎宮跡における土師器の編年観ではII-1期と考えられるものが主体であるが、ほかに口縁部が外反気味になるやや新しい要素を持つ土師器杯も含み、遺構の時期はII-1～2期の範囲で考えたい。

##### (2) II-4期の遺物

**SK 10137 出土遺物 (5～7)** 調査区東部の土坑から出土した遺物である。土師器では杯A・甕が出

番号	器種 器形	埋蔵 地図 構造	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
1	土師器 杯A	SK10135	口径 器高 (13, 8) 3.0	口縁部コロ??" 外面内コロ??" オリス後??" 内面コロ??"	密	良	橙 5YR6/8	口縁部 1/12		004-02
2	土師器 椀A	SK10135	口径 器高 (13, 8) 3.8	口縁部コロ??" 外面内コロ??" オリス後??" 内面コロ??"	密	良	橙 5YR6/8	口縁部 4/12	外部粘土接合 痕	004-03
3	土師器 甕	SK10135	口径 器高 (13, 7) 5.2	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 2/12	外面少量煤付 着	004-01
4	土製品 土鍋	SK10135	長 幅 5.3 1.9	外面材??:後??"	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	完形	重量 14g	004-04
5	土師器 杯A	SK10137	口径 器高 (13, 7) 2.7	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面コロ??"	密	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 4/12		004-08
6	土師器 杯A	SK10137	口径 器高 (13, 4) 2.9	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面コロ??"	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	完形		004-07
7	土製品 土鍋	SK10137	長 幅 3.7 1.2	外面材??:後??"	密	良	灰白 10YR8/2	完形	重量 4g	004-09
8	土師器 杯	SK10138	口径 器高 (14, 4) 3.9	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面コロ??"	密	良	浅黄橙 10YR8/3 ~にぶい黄橙 10YR 7/3	完形	内部油漬付着	003-01
9	土師器 杯	SK10138	口径 器高 (13, 7) 3.5	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	にぶい黄橙 10YR 7/4 ~灰黄褐 10YR8/2	口縁部 7/12	内部保 油漬付着	003-02
10	土師器 杯	SK10138	口径 器高 (12, 2) 2.5	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面コロ??"	密	良	橙 7.5YR7/6	口縁部 3/12		002-03
11	土師器 小皿	SK10138	口径 器高 (10, 6) 2.3	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	灰白 10YR8/2 ~灰黄褐 10YR8/2	口縁部 3/12	内部油漬付着	002-04
12	土師器 小皿	SK10138	口径 器高 (10, 4) 2.2	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	浅黄橙 10YR8/3	ほぼ完形 黒底		002-09
13	土師器 小皿	SK10138	口径 器高 (10, 0) 2.2	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	外面: 黄褐褪 10YR8/2 内面: 灰白 10YR8/2	完形		002-08
14	土師器 小皿	SK10138	口径 器高 (9, 6) 2.0	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	浅黄橙 10YR8/3	完形	口縫端油漬痕	003-07
15	土師器 小皿	SK10138	口径 器高 (9, 6) 2.5	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 10/12		003-06
16	土師器 小皿	SK10138	口径 器高 推定 9.7 2.3	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	灰白 10YR8/2	口縁部 4/12		002-05
17	土師器 小皿	SK10138	口径 器高 8.8 2.2	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	灰白 10YR8/2	完形	外面粘土接合 痕	002-06
18	土師器 杯	SK10138	口径 器高 14.4 3.2 底径 5.8	口縁部コロ??" 底部系切	密	やや 不良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 8/12	器面磨耗し い	003-03
19	土師器 椀	SK10138	口径 器高 (9, 3) 3.5 底径 4.2	口縁部コロ??" 高台貼付	密	良	浅黄橙 10YR8/3	底部先存 口縁部 1/12		003-05
20	土師器 小皿	SK10138	口径 器高 (9, 9) 3.0 底径 (4, 2)	口縁部コロ??" 底部系切	密	良	にぶい黄橙 10YR6/3	全体の 4/12		003-04
21	土師器 甕	SK10138	口径 器高 (9, 6) 4.8	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 2/12		002-07
22	須恵器 鉢	SK10138	口径 器高 (30, 4) (19, 6) 底径 (15, 6)	内面コロ??" 外面内コロ??" ハラス??" 底部ハラス??"	密	やや 不良	灰白 10YR8/2 ~ 7.5YR8/2	全体の 2/12	内面磨耗 の外表面煤付着	003-08
23	土師器 杯	SK10136	口径 器高 13.3 2.9	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	やや 粗	良	浅黄橙 10YR8/4 ~にぶい黄橙 10YR5/3	完形	口縫端油漬付着	001-01
24	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 10.3 2.1	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	密	良	にぶい黄橙 10YR8/4	完形		001-11
25	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 10.2 1.6	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	粗	良	灰黄褐 10YR6/3 ~ 10YR5/2	口縫部 7/12	外面に粘土斑 痕	001-07
26	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 10.0 1.8	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	粗	良	浅黄橙 10YR8/4	口縫部 4/12	外面に粘土斑 痕	001-09
27	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 9.8 1.7	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	粗	良	灰白 10YR8/2	口縫部 10/12		001-10
28	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 9.4 1.9	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	粗	良	灰白 10YR8/2	口縫部 9/12		001-08
29	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 9.5 1.8	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	粗	良	浅黄橙 10YR8/3	口縫部 8/12		001-02
30	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 9.5 1.9	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	やや 粗	良	浅黄橙 10YR8/4	口縫部 8/12		001-03
31	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 9.3 2.1	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	粗	やや 不良	灰白 10YR8/2	口縫部 11/12		001-05
32	土師器 小皿	SK10136	口径 器高 9.4 1.9	口縁部コロ??" 外面内コロ??" 内面??"	粗	やや 不良	灰白 10YR8/2 ~にぶい黄橙 10YR7/2	口縫部 8/12		001-06

第V-3表 第165-1次調査 出土遺物観察表①

番号	器種 器形	地区 遺構	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	保存度	備考	登録 番号
33	土師器 小皿	SK10136 器高 口径	8.9 1.8	口縁部ヨコナデ「外面部は後ナデ」 内面ナデ	やや粗	良	灰白10YR8/2	口縁部 9/12		001-04
34	ヨコ土師器 小皿	SK10136 器高 底径	8.1 2.2 3.2	ヨコナデ「底部赤切」	やや粗	良	浅黄褐10YR8/3	口縁部 7/12		001-13
35	ヨコ土師器 小皿	SK10136 口径 器高 底径	(10.4) 2.4 4.3	ヨコナデ「底部赤切」	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部 2/12	内面黒色付着	001-14
36	ヨコ土師器 小皿	SK10136 底径	2.4 3.8	ヨコナデ「底部赤切」	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部 完存		001-15
37	ヨコ土師器 台付小皿	SK10136 底高	2.7	ヨコナデ「台部ヨコナデ」	粗	やや不良	灰白10YR8/2	台接合部		001-16
38	土師器 甕	SK10136 口径 底高	(18.6) 7.0	口縁部ヨコナデ「外面部は後ナデ」 内面ナタ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 2/12		002-01
39	土師器 甕	SK10136 底高	3.7	口縁部ヨコナデ「内面部」	密	良	外面部：にぶい黄褐 内面部：10YR7/2 内面：浅黄褐10YR8/4	口縁部 小片		002-02
40	土師器 杯	SD10139 口径 器高	14.4 3.4	口縁部ヨコナデ「外面部は後ナデ」 内面部 工具ナデ「後ヨコナデ」	密	良	灰黄褐10YR8/2	完形	口縁油塗付着	005-01
41	灰釉陶器 桶	SD10139 底高 底径	5.0 7.0	ヨコナデ「貼付高台 灰釉ナタ」	密	良	灰黄2.5YR6/2	底部 1/12	内面使用による磨耗	005-02
42	土師器 高杯	18 包含層 底高	7.3	杯部ヨコナデ「脚部ハラカ」	密	良	灰白10YR8/2	脚接合部 分		005-03
43	白磁 椀又は鉢	包含層 底径	1.8 5.6	内外面部ヨコナデ「底部ヨコナデ」	密	良	素地：灰白2.5YR2/2 釉：灰黄2.5YR7/2	底部 2/12		005-07
44	白磁 桶	SD9047 長 幅	2.2 2.0	外面連弁文	密	良	素地：灰白2.5YR1/2 釉：灰白7.5YR7/1	小片		004-10

第V-4表 第165-1次調査 出土遺物観察表②

土している。杯A（5・6）は器壁が薄く、形態はII-4期の特徴を持つ。このほか土製品では土鍤（7）がある。

### （3）III-2期の遺物

S K 10138 出土遺物（8～22） 調査区東部の土坑から出土した遺物である。土師器では杯・小皿が主体を占め、他に甕がある。杯（8～10）は、器壁が厚く胎土はやや粗い。口縁端部をヨコナデする。小皿（11～17）はやや粗い胎土であり、いずれも口縁端部をヨコナデする。（11）などのように油煙が付着するものも見られる。甕（21）は口縁端部を内側に折り返す。ロクロ土師器では杯・碗・小皿がある。杯（18）は白色系の胎土で、底面に回転糸切痕があると見られるが、焼成不良による表面剥離のため不明瞭である。碗（19）は白色系の胎土で輪高台を有し、底面もロクロナデをする小型品である。小皿（20）は柱状で回転糸切痕のある高台をもち、器壁は薄い。須恵器では鉢（22）がある。平底の底部から外上方に器壁が伸び、口縁部は外方に折り曲げる。体部下端から底面はロクロケズリを施す。内面は使用により磨耗している。

S K 10138 の時期は出土した土師器の形態からIII-2期と考えられる。

### S K 10136 出土遺物（23～39）

調査区東部の土坑から出土した遺物である。土師器では杯・小皿が主体を占め、他に甕がある。土師器杯（23）は、器壁が厚く胎土は粗い。底部から内彎して立ち上がり、口縁端部をヨコナデする。小皿（24～33）は粗い胎土であり、いずれも口縁端部をヨコナデする。甕（38・39）は口縁端部を折り返し、強くナデ付ける。ロクロ土師器では小皿・台付小皿がある。小皿（34～36）は柱状で回転糸切痕のある高台をもち、器壁はやや厚い。台付小皿（37）は台部と皿部の接合部分のみ残存する。

S K 10136 の時期は出土した土師器の形態からIII-2期と考えられる。

### （4）III-3期の遺物

S D 10139 の出土遺物（40・41） 調査区の東部を南北に横断する溝から出土した遺物である。土師器では杯・台付小皿・甕が出土している。杯（40）は底部から内彎氣味に立ち上がり、内面には工具痕が残る。灰釉陶器では椀（41）が出土している。東海地方西部の灰釉陶器編年では東山72号窯式期に位置づけられるものである。内外面にツケガケによると見られる灰釉を施す。

S D 10139 の時期は、出土遺物にやや古い灰釉



第V-4図 第165-2次調査 調査区位置図 (1:200)

陶器を含むが、土師器の形態から、III-3期と考えられる。

#### (5) その他の遺物(42~44)

土師器高杯(42)は包含層出土のもので、京都系白色土器の形態を模したと考えられる。同じく包含層出土の白磁(43)は碗あるいは鉢と考えられる。底面は施釉後にクロケズリを施して露胎している。SD9047出土の白磁(44)は、外面に陽刻で連弁文を施す碗と考えられる。  
(山本達也)

#### 4 第165-2次調査

第165-2次調査は、四面庇付建物である可能性を指摘されていたSB1080について、西側庇の有無を確認するための調査である。SB1080は昭和53年度に実施した第20次調査で初めて確認され、その後、平成19年度の第153次調査で全体が明らか

になった。調査はSB1080の西側の庇出を、他の庇出が3.0mであることから、同じ3.0m程度と想定し、5m×6m(30m<sup>2</sup>)の調査区を設定して実施した。その結果、想定位置に柱穴を確認することはできなかった。また、その周囲にも新たな柱穴は確認できなかったことから西面庇は存在しないものと判断した。これにより、SB1080は5間×2間の身舎に西側を除く東南北の三方向に庇の付く建物であることが確定した。  
(角正芳浩)

#### 5 まとめ

今回の調査は、斎宮歴史博物館が計画する、柳原区画と周辺の史跡整備事業にかかる遺構の実態解明と、過去の調査の再確認のために行ったものである。その結果、第165-1次調査では、調査面積98m<sup>2</sup>、幅2mほどの狹隘な調査区ではあったが、掘立柱建

物23棟など多数の遺構を一部あるいは全体を確認して、柳原区画の遺構の変遷を検討するうえで大きな成果をあげることができた。また、第165-2次調査では、斎宮跡のこれまでの発掘調査で類をみな三面庇付の大型掘立柱建物S B 1080の規模・形式を確定することができた。これらを踏まえて、今回の調査の成果を概括してみたい。

まず、第165-1次調査区の東端で確認した総柱建物S B 0263だが、昨年度から今年度にかけて実施した第159次調査の成果とあわせ、4間×4間の総柱建物になることがほぼ確定できた。一辺1m近い大型の柱掘形、直径30cm程度に推定される柱痕跡に対する1.8m前後の狭い柱間寸法ともあわせて、倉庫として機能したものであったと見てよい。これと同様の建物遺構は、第20次調査のS B 1040があり、これも4間×4間の規模を持つ総柱建物である。すでに第153次調査の報文においても指摘しているが、これら2棟の総柱建物は、方格地割の柳原区画内にあって、それぞれ対照的に南東・南西の4分の1の範囲のほぼ中央に位置することも興味深い点である。方格地割成立直後の柳原区画の性格を顕著に表すものとみられるだろう。

今回の調査では多数の掘立柱建物が調査区内で確認できたが、調査区全体をとらえると、調査区東部に南北棟、中央から西部に東西棟が卓越することがわかる。また時期的にも、南北棟が基本的に斎宮跡II期に属し、東西棟がIII期に属するものが多いこと

がわかる。これはあらためて柳原区画全体の土地利用の変遷の中で検証していかなければならぬが、II期とIII期で区画内の土地利用に大きな変化があつたことが窺われるものである。

また、密集した状況で検出したIII期の建物群は、その多くが5間×2間の規模を持ち、N 4° Eあるいはそれに近い棟方向を持つ。これらの柱穴の規模は小さいとはいえ、斎宮跡方格地割内の他の官衙と比べても卓越した状況である。全体的な分析は、稿をあらためたいが、柳原区画内において、こうしたIII期以降の建物が密集する箇所は、区画南西の第19次調査区の南西部にも認められ、III期においても、区画内を計画的に土地利用していた可能性をうかがわせるものである。このような平安時代後期から以後の建物が稠密に確認されているのは、例えば推定「宮ノ前南」区画の南東隅部分、西加座北区画の北辺道路の北側一帯などが知られている。このような遺構の分布状況や、道路遺構の状況は、III期以降の斎宮の構造を推定していく重要な検討材料となるであろう。

平安時代後期以降の斎宮の実態の解明はまだこれからのことだが、近隣に残る「御館」の地名や、内院と推定されている牛葉東区画周辺の状況からも、平安時代後期から鎌倉時代の斎宮を考えるうえで、当地区は重要なポイントになっていくものと考えられる。

(大川勝宏)

写真図版 V-1 第165-1次調査 遺構



調査区全景(西から)



調査区全景(東から)



調査区全景(南から)



6



8



9



12



14



19



24



34

# VI 第166次調査 (6AQ9・R9・Q10・R10 下園地区)

## 1 はじめに

調査位置は、方格地割の柳原区画の北辺にあたる下園東区画の南端で、幅3mのトレーナーを5箇所設定して行った。柳原区画と下園東区画間の区画道路とそれに伴う側溝については、昭和54年度の通称広域圏道路の建設に伴う第10次調査で確認されているほか、平成19年度の第156次調査でも想定位置に南側側溝の一部と考えられる遺構を検出した。しかしながら、この区画道路の西側の延長部分にあたる部分は、現状では周囲より一段低い湿地状になっている。南側で実施した平成20年度の第157次調査では、調査区の北東部分が現状では低地になっていないものの、土取りによって広く擾乱されている状況が確認されている。今回の調査では、このような地形が方格地割施工当初からあったものかどうか、当初からの地形であった場合、区画道路の施工状況あるいは区画道路に代わる施設が存在していたのかどうかを確認すること、また、低地部分の遺構の遺存状況の確認も目的として実施した。

調査期間は、平成21年11月24日から平成22年1月22日まで、調査面積は390m<sup>2</sup>である。

## 2 地形と層位

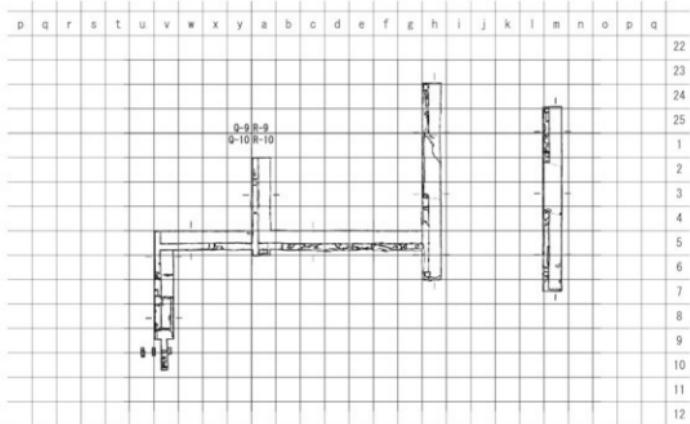
第166次調査区は、下園東区画の南部に位置し、区画の南を画する区画道路の存在が想定される。斎宮跡の立地する台地上には微地形としての浅い谷が存在しており、今回の調査地は東西方向にのびる谷部に位置する。標高は約9.2mで、周辺との比高は0.7~0.8mである。

基本層序は、調査区の全域が土取りによって擾乱されていたため、上層から表土、土取りの埋戻し土、淡黄褐色砂礫となる。

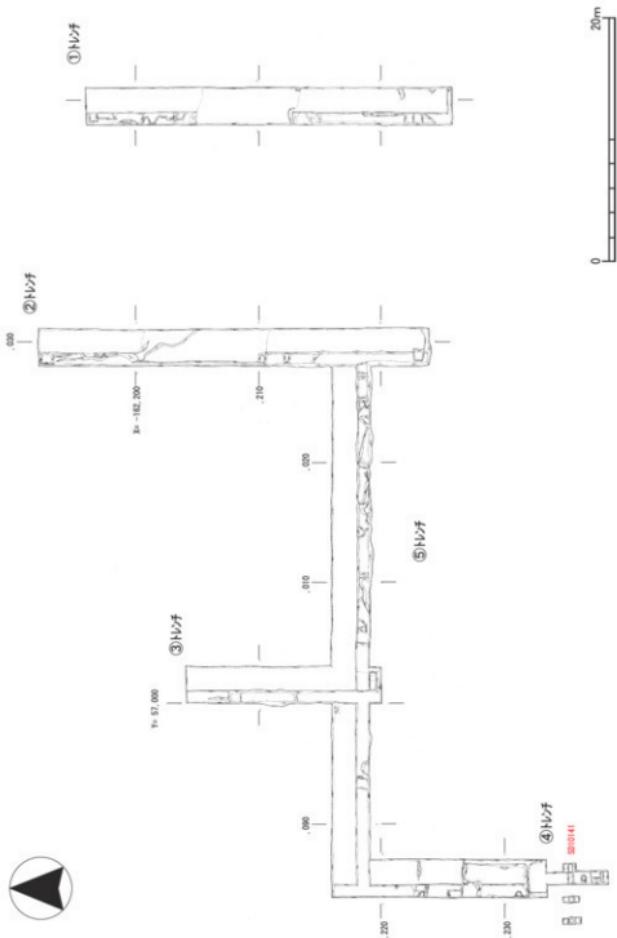
## 3 遺構

調査区の全域にわたって近世の土取りが深さ1m以上行われておらず、溝1条を確認したのみである。

**S D 10141** 調査区の西南端、④トレーナーの低地から斜面へ調査区を拡張した部分で検出した。確認されたのは溝の南肩のみで、大部分はすでに削平され



第VI-1図 第166次調査 大地区・グリッド図(1:800)



第VI-2図 第166次調査 遺構平面図(1:400)

① レンチ西壁



② レンチ西壁



③ レンチ西壁



第VI-3図 第166次調査 土層断面図①(1:100)

(4) レンチ西壁



(4) レンチ西壁



(4) - 1 レンチ西壁



(5) レンチ西壁



(4) - 2 レンチ西壁



1. 砂岩の砂岩地帯 (100%)  
 2. 泥岩の砂岩地帯 (100%)  
 3. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 4. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 5. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 6. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 7. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 8. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 9. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 10. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 11. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 12. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 13. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 14. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 15. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 16. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 17. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 18. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 19. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 20. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 21. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 22. 砂岩のシルト (100%) しまさない砂岩  
 23. 黄褐色のシルト (100%) 黄褐色シルト (100%)  
 24. 黄褐色のシルト (100%) 黄褐色シルト (100%)  
 25. 黄褐色のシルト (100%) 黄褐色シルト (100%)  
 26. 黄褐色のシルト (100%) 黄褐色シルト (100%)  
 27. 黄褐色のシルト (100%) 黄褐色シルト (100%)

第VI-4図 第166次調査 土層断面図②(1:100)

ており、全体の規模などを確認するには至らなかつた。しかしながら、埋土は黒褐色土で、土師器杯、須恵器杯等が出土しており、第10次・156次調査で確認された南側溝SD 0530・SD 9871の延長線上にある。こうした埋土の状況や出土遺物から柳原区画の北限区画道路の南側溝と判断した。

#### 4 出土遺物

##### (1) SD 10141 出土遺物(1~3)

須恵器杯B(1)、土師器甕(2)・鍋(3)とがある。(1)はやや丸みを帯びた腰部をもつ。(2)は口径17.7cm、3は口径37.0cmでともに体部外面をタテハケ、内面をヨコハケ調整する。

##### (2) その他の遺物(4・5)

遺構以外の土取りの埋戻し層から出土したもので

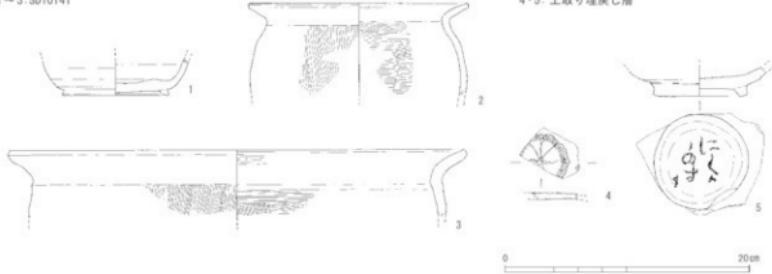
ある。(4)は浅黄色の釉薬を施した綠釉陶器の蓋で、外面に陰刻花文が施される。(5)は山茶椀で底部外面にひらがなが墨書きされるが内容は判読できない。

#### 5まとめ

今回の調査では、第10次・第156次調査で確認された区画道路の南側溝の想定位置でSD 10141を検出した。土取りによる削平によって地形が大規模に改変されているため、検出できたのは遺構の一部であったが、出土遺物や埋土の状況等から区画道路の南側溝であると判断した。このことから、現状では周囲より一段低く、湿地状になっている今回の調査地が本来は周囲と同じレベルにあり、区画道路が存在していたことを明らかにすることができた。

(角正 芳浩)

1~3: SD 10141



第VI-5図 第166次調査 出土遺物実測図(1~4)

遺構名	調査時 遺構名	グリッド	時期	出土遺物	備考
SD 10141	溝 I	u9/v9	II-1	土師器: 甕・鍋 須恵器: 杯 B	区画道路南側溝

第VI-1表 第166次調査 遺構一覧

番号	器種 器形	地区 遺構	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
1	須恵器 杯 B	SD 10141	残高 底径 8.7 3.1	体部 <sup>ヨコハケ</sup> 底部 <sup>タテハケ</sup> 高台 <sup>タテハケ</sup>	やや 粗	良	素地:灰白10YR7/1 釉:灰オリーブ L.515D.3	底部 完存	外底面にへラ記号	001-01
2	土師器 甕	SD 10141	口径 残高 5.5 17.7	口縁部 <sup>タテハケ</sup> 内外面 <sup>ヨコハケ</sup>	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12		001-03
3	土師器 鍋	SD 10141	口径 残高 5.5 37.0	口縁部 <sup>タテハケ</sup> 内外面 <sup>ヨコハケ</sup>	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 1/12		001-02
4	綠釉陶器 蓋	土取り 埋戻し層	残長 4.8	内面 <sup>タテハケ</sup>	密	良	素地:灰白2.5Y8/1 釉:浅黄5Y7/3	中央部 小片	外底面陰刻花文 トチン痕	002-02
5	陶器 椀	土取り 埋戻し層	残高 底径 6.8 2.5	体部 <sup>タテハケ</sup> 高台 <sup>タテハケ</sup>	密	良	灰白2.5Y7/1	底部は ぼ元存	外底面に平仮名 墨書き	002-01

第VI-2表 第166次調査 出土遺物観察表

写真図版 VI-1 第166次調査 遺構(1)



①トレンチ全景(南から)



②トレンチ全景(南から)



③トレンチ全景(南から)



④トレンチ全景(北から)

写真図版 VI-3 第166次調査 遺構(3)



⑤トレンチ東半(東から)



⑤トレンチ西半(西から)

写真図版 VI - 4 第 166 次調査 遺構 (4)



区画道路南側溝 S D 10141 (北西から)



区画道路南側溝 S D 10141 (北西から)

## 報告書抄録

---

史 跡 斎 宮 跡  
平成 21 年度  
発 掘 調 査 概 報  
2011 年 3 月  
編集・発行 斎宮歴史博物館  
印 刷 光出版印刷株式会社

---

